

# 研 究 報 告

## 第 14 集

(通算 第32集)

---

### 講演記録

|         |                                                                          |    |
|---------|--------------------------------------------------------------------------|----|
| 中 塚 幹 也 | 2018年度 奈良県大学人権教育研究協議会 記念講演会<br>「性同一性障害をめぐる諸問題と対応の課題」……………                | 1  |
| 河 村 晴 美 | 2018年度 奈良県大学人権教育研究協議会 講演会<br>「『厳しく指導する』ということの問い直しと実践」……………               | 31 |
| 根 来 秀 樹 | 2018年度 奈良県大学人権教育研究協議会 研修・交流会<br>「今どきの大学生のころ・発達」<br>—指導や教育に活かせる精神医学—…………… | 63 |

### 活動記録

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 2018年度奈良県大学人権教育研究協議会活動報告…………… | 87 |
| 2018年度役員名簿……………               | 92 |

|           |    |
|-----------|----|
| 資 料 …………… | 93 |
|-----------|----|

---

奈良県大学人権教育研究協議会

2019年7月

# 2018年度 奈良県大学人権教育研究協議会 記 念 講 演 会

2018年5月19日（土）

奈良女子大学 コラボレーションセンター3階 Z306教室

## プロフィール

中塚 幹也（なかつか みきや）

岡山大学大学院保健学研究科教授 岡山大学ジェンダークリニック医師 GID（性同一性障害）学会理事長。

岡山大学医学部を卒業後、米国NIH(National Institutes of Health)留学などを経て、2006年より現職。生殖過程に関するテーマを中心に、女性のライフスタイル全般、更に、ジェンダー、性差などに関連した研究を行いながら、産婦人科の医師としても活躍されている。

# 性同一性障害をめぐる諸問題と対応の課題

中 塚 幹 也

司会：

今日はお集まりいただき、ありがとうございます。ただ今より記念講演会を開催致します。

2017年度に本協議会の事務局長を務めさせて頂いておりました、奈良女子大学の三成と申します。ちょっとマイクが不安定な気が致しますが、私の声は地声で聞こえると思いますので、よろしくお願い致します。

奈良女子大学は2017年度に事務局を担当して、3つの講演会を開催させて頂きました。その3つは、1つ目が『セクシュアル・ハラスメント』、2つ目が『性売買』、そして最後を飾る本日のご講演が『性同一性障害』の問題で、ハラスメントの問題、ジェンダーの問題を中心に皆様と情報を共有し、議論をして頂きたいと考えた次第でございます。

今日は、岡山大学大学院教授であり、岡山大学病院の医師でいらっしゃる、中塚幹也先生にお越し頂きました。ご講演のテーマは前に書いておりますように、『性同一性障害をめぐる諸問題と対応の課題』ということでございます。

中塚先生は、性同一性障害…『GID』と申しますが、性同一性障害の学会の理事長を長く務めておられて、この分野では日本を代表する研究者であり、産婦人科のお医者様でもいらっしゃいます。

性同一性障害に関しましては、2015年に文部科学省が初等・中学校向けに通知を出しました。性同一性障害…そして性的指向も少し入っておりますけれども、性同一性障害を中心に通知を出して、それ以降学校での対応が急速に進んでおります。

中塚先生は、その文部科学省通知を作る委員会の委員であり、中心的な役割を果たされた先生です。この通知は今まで大学にはなかったんですけど、現在大学バージョンが用意されておりますので、私達大学関係者もこの性同一性障害の問題については、十分に情報と知識を得た上で対応しなければいけない、という局面になっております。

では中塚先生、よろしくお願い致します。先生のご講演はほぼ90分フルにお話を頂いて、最後に5分程度で1つ2つご質問を頂ければと考えております。どうぞ、よろしくお願い致します。

中塚：

皆さんこんにちは、岡山大学の中塚です。

『性同一性障害を…』と書いてありますけど、前半はどちらかと言うと性的マイノリティ全体の中で「性同一性障害ってどういうことなの？」というお話をさせて頂くのと、後半はちょっと、最後の辺りになりますけど、大学の中でどんなことが求められているのか？みたいなことを、お話ししようかなと思っています。

あとジェンダーの話とかをしますが、僕よりももっとジェンダーの研究をされている方がいっぱいいるかも知れないので、ちょっとお恥ずかしいんですけど、まあ一応「こんな感じで考えてみよう」ということをお伝えできればと思っています。

それからお手元に…あまり直接的には関係ないんですけど、医療の雑誌とか大学系の雑誌とか、いろんな雑誌で特集とかを組んでくれていることがあって、1～2年前ですかね、書いたものです。「こんな課題があるよ」ということで読んで頂いたら…僕が読めないような小さい字ですけど、また読んで頂ければと思います。

一応チラシも配らせてもらったんですけど、「封じ込められた子ども、その心を聴く：性同一性障害の生徒に向き合う」という本も書いています。今日の話だけだとわからなくなってしまうので、読んでみて頂ければと思います。よろしくお願いします。

これもよく…もう皆さん方もいろんな方

から聞かれたかも知れませんが、とんねるずの番組ですね、ちょっと前になりましたけど…もう終わっちゃいましたね、この番組ね。長年やっていて、これも「性的少数者への偏見か」ということでネットで炎上したんですけどね。フジテレビの『とんねるずのみなさんのおかげでした』という番組があって、人気番組で何十年も続いていたんだと思うんですけど。

30年目だったと思うんですけど、「その記念番組を作ろう」という話になった時に、今までいろいろ出てきたキャラクターですね、その人が登場してくるという設定があったらしくて…皆さん方は見られていないかも知れない、僕もちょっと見られなかったんですけど。その時に石橋貴明さんが『保毛尾田保毛男（ほもおだほもお）』というキャラクター…若い人だったら知っているのかも知れないですけど…というキャラクターで登場した、というんですね。

「懐かしい」と思った人もいるんですけど、「今のご時世にどうだ」という批判的なものが出てきたというんですね。インターネット上でも「まさか2017年にホモという言葉を書くとは思わなかった」と、こんな記事も出ています。…こんなキャラクターなんですよね…どうですかね。

とんねるずがちょうど僕と同じぐらいの世代なんですね、50代後半に差し掛かるぐらいですけど、ですからとんねるずがテレビに出ていた時に小学校や中学校で笑って

いた世代だから、40代ぐらいですかね。40代から上の世代の人達は、これで笑っていた時代なんですよ。その人達にとっては、「これの何がいけないの？」と思うかも知れないけど、でも今の大学生、或いは10代・20代・30代ぐらいの人達は、「これってどうなの？」という世代なんですよ。

ですから、やっぱり世代によってだいた捉え方が変わってきていて、僕より上の世代の先生方の中には、別にこれで笑いを…逆に学校の先生方はこういうもので子どもの笑いを取ろうとしていた、「教室の中で…」なんだけど、今はそういう時代ではなくなってきていて、逆にこういうのをやてしまうと炎上しちゃうんですね。

これをフジテレビの社長は、「これで気を悪くした人がいたのだったら遺憾」と、何か歯切れの悪い謝り方をしていましたけど、ちょっと世代が変わってきているんでしょうね。

とんねるずが自分で全部こんなことをやり出したとは思えないので、とんねるずが「やろう」と言ったかも知れないけど、それはフジテレビにも番組を創る人がいて、企画の段階から何人も目を通していついて、それなのにこういう番組を作っちゃったということで、やっぱり創る世代によって、なかなか感覚が違うんだな、ということかも知れないです。

『広辞苑』…これも話題になったのでご存知だと思いますけど、さすが『広辞苑』

ですよ、『LGBT』も早々と入れてくれたので…岩波ですけど。大体『広辞苑』に載るにはある程度定着しないと載らないんでしょうけれど、『LGBT』を早々と載せてくれたので「さすがっ！」と思いましたけど、ただまあ、いきなりちょっと解説が間違っていたということで、話題になりましたね。

…それがこれですね。第7版で、これがすごく有名になったので「広辞苑が新しくなったんだ」とみんなが知ったということかも知れませんが、『LGBT』の説明ですね、「レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字。」これはいいですね。「多数派と異なる性的指向を持つ人々」…どこが違うと思いますか？…わかりますかね？

皆さん方は今日が3回目のセミナーらしいので、当然知っておられると思いますが、どこが違うかわかりますかね？『広辞苑』だからある程度学識のある方が作ったんだと思うんだけど、それでも、そういう方が子どもの時に性の多様性について習っているとは思えないので、やはりこうなってしまうがちですね。「これだと正解とは言えない。」「これはちょっと間違っているよね。慣れていない人が作ったかな」と思っちゃうような…こんなこともあります。でもさすがに取り上げてくれたということは、いいことかなと思います。

これもそうですね、道徳の教科書。これは今年の話ですね。道徳で教えることがい

い悪いは別にして、そうなると思います。8社中4社でLGBTや性的マイノリティのことを取り上げたということで、これも子どもの頃から教えるということが大事なんだろうと思いますので、こういうこと自体は悪いことだとは思いません。

でも僕からすると、「ちょっとこれってどうなの？」というところがあって、こういう風に「からだの性」みたいなこういうやつですね。これもまた本や論文に書いていますけど、これってあまり良くないと僕は思っていて、特にこっちの端とこっちの端…あとでちょっと解説しますが、「これってちょっとどうなの？」という感じです。でも、取り上げてくれたことは大事なので。

このDVDは科学研究費補助金で作ったので無料で、つい最近できたところなので、希望のある方にはお配りします。先生用なんです、先生用なので、一般の人から「ほしい」とメールが来てもお送りしてなくて…これは教材です。先生方に知って欲しいと思って作ったDVDなんですけど、これをお分けしているんですが、ただこれだけが独り歩きしちゃうと、何かかえって辛いことになる子どもも出ちゃうので、「これをきっかけに勉強してから使ってくださいね」という文を添えて1人1人に渡しているんですね。

「どこかの会でください」「100部ください」というのが来るんですけど、100部渡しちゃうと多分読まない・見ない先生もいっぱい

いるだろうから、それはやめて、1人1人に丁寧にお渡ししているものになります。もしご興味のある方はご一報頂ければと思います。先程、ご紹介した本なんかもやっぱり読んで頂いてしっかり勉強して頂いて、その上で見て頂ければ…ということで作りました。この本も出版社には「売れないからやめなさい」と言われたんですけど、まあまあ売れてはいます。

道徳だけではなく性教育とか保健体育など、いろいろな場面で子どもに伝えると良いと思います。…今日は「人権」ということで。中学や高校で「人権の課題として話してください」というのがよくあるんですけど、人権講演会ですね。僕はそれならそれでいいというか、機会があればいいかなと行っているんですけど、ただ心の中では「あまり人権人権と小学生や中学生に言わなくてもいいんじゃないの？」と思っていて…当然人権の問題なんですよ、今はそうなんですけど。

でもどちらかと言うと性教育や保健体育の中で、「体もこういう風に違うけど、心も違ったり脳も違ったり、いろいろするんだよ」という中でまず教えておいて、もうちょっと大きくなってから、「でも、そういう人達が困っていることもあるから…」という話で行った方が…最初から人権問題で行っちゃうと何かあまり…。

あんまり言うとも怒られちゃうかも知れま

せんが、ある学校、人権課題にすごく敏感な学校で、その女子生徒が言ったことが、「何で私は性的マイノリティの人達を支援しようと思うのか」とその女の子は言うんだけど、それは「可哀想な人達だから」と言うんですね。

可哀想かな…「別に可哀想だから助ける訳でもないよね」と思って…だから最初から人権問題で、「この人達は差別を受けているから、助けないといけないですよ」みたいなことを言っちゃうと、そう思っていない生徒までそう思っちゃうんじゃないかなと思って、それも何かどうかな…と思って。性教育や保健体育で、「多様なんだよ、みんな違うじゃん」というところから始まった方がいいんじゃないかな、と個人的には思っています。

ただ、文部科学省とかそういうところは人権課題として、担当課も人権のところなので。それはそれでやって頂かないといけないことがたくさんあるので、当然人権問題は大きいと思いますけど、まず小学校とかその辺りは、基礎的な知識があってからの方がいいかなと、個人的には思っています。なので、「性教育で取り上げてね」と書いたりしています。インターネットで調べたら、だいぶ前に書かれたのでちょっと古いですけど、論文を書いているのが出ていますので、興味のある方は見てください。

僕は先ほどご紹介頂いたように産婦人科

医で、生殖医療ですね、不妊症とかが専門なので。今も「妊孕性の啓発」ということで…40代ぐらいになってから結婚されて、「子どもが欲しいよ」と来られた時に、「40代だと体外受精しても数%ぐらいしか子どもができませんよ」みたいな話をしちゃうとびっくりして、「そんなことは知らなかった。学生時代にそんなことは教えてもらわなかった」と言う人がいる。そういう方達に「何歳ぐらいになったら子どもができにくくなるんですよ」と知ってもらった上で、その中で「自分は仕事に生きるよ」でもいいし、「今1人で別に結婚もしないよ」とか、別に選ぶのは自由なので。知っておいて選んだら？ということで、「妊孕性の啓発」というのをやっていっています。

この本はジェンダー、性同一性障害の話とは別個にそういう話は頂くので、それに応えて作ったものです。これは妊孕性の件で、『ライフプランを考えるあなたへ』…「選択肢はいろいろあるんだよ、それで選んでください。知識を持った上で選んでくださいね」というので作ったんですね。これは岡山県が作って欲しいということで、いろんな県が作っていますが、何か難しいことばかり書いてあって子どもが読まないで、漫画にしました。漫画を読んで知識を持ってもらう形ですね。

もうちょっと勉強したい人は…ということで、パンフレットも作っています。これは県の委託で作ったので、ホームページ、



僕の『中塚研究室』のホームページで見て頂くとダウンロードが無料でできるようになっています。

このような漫画本を岡山県の高校とかでこれを配って、読んでもらったりしているんですけど、これを作った時に、僕は性同一性障害の方を診察しているので、学校の中には「ちょっと嫌な子もいるのではないかな」と思いながら作っていたんですね。…なんだけど、そういう依頼もあるので作った訳ですけど…これはどうですかね。性的マイノリティの子ども達がこれを見ると…これもいっぱいいる筈なんですけど、「ちょっと嫌だな」と思うことがあるんですね。

僕の外来に来る子ですね、トランスジェンダーで心と体が違っている小学校1年生の子ですね、体は男の子なんだけど心は女の子で、「自分は女の子だ」と言っているんですね。「子どもを産めるの?」と聞かれるんですね、素朴に。…なんだけど、「今の医学だとなかなか無理だよ」と言うんだけど、「でも子どもを持つことはできるよ」、生殖医療の話で最近私達も書いていますけど、LGBTの人々も子どもを持つこともできるようになってきていて、そんな話をする訳ですが。ですけど、さっきのあの本を見ると自分たちのライフプランは出て来ない。

この子はどうですかね。これは女の子でしょ、ですけど今こうなってきた、男の子

として生きてるんですね。この話はよくあるんですけど、この子はこれから男性ホルモンを打って行って手術もしないと…その前に、「自分の卵子を凍結保存しておきたい」と言うんですね。「自分の血が繋がった子どもを持ちたい」ということで、この子はそういうことを言い出したんですね。

だから、そういうこともできると知っておくと…これを知っていた訳ですね、どこから知ったのかはわからないけど。知っておくと、ライフプランが広がる訳ですよ、いろんなことができる。

そのことは、残念ながらさっきの最初の本にはそんなことは書いていないです。だから、トランスジェンダーの子があれを読むと「自分はもう子どもを持てないんだ」と思ってしまうような本だな、と僕は思いながら作っていた訳です。

なので、LGBTの子ども達が読むために…と思って、何年か前に作ったんですけど、こんなのを作りました、拡大版というやつですね。中はちょっと変わっています。ほぼ一緒なんですけど、後半にLGBTの人々が子どもを持つことも一緒に書いてあるんですね、拡大版ですね。

一見してどうですかね、変えたのは…また2冊を見比べてもらってどこが違うかなと見て頂くと面白いと思うんですけど、最初に僕が嫌だったのは、制服を着ていたんですね。トランスジェンダーの子は、制服が嫌なんですよ。なので、「制服をやめて」

と漫画を描く人に主人公の制服をやめてもらって、描いてもらいました。

最後の辺りにいろんなことが追加して書いてあるので拡大版…だから「今までの本をうちは配りますよ」という高校もそれはそれでいいと思いますけど、「こっちの方を配りたいよ」と言う学校があればこっちの方を使って頂いてもいいかなと。別に、性同一性障害やトランスジェンダーの子じゃなくても、これを読んで悪くはないかなと思いますね。「そういうこともあるのかな」と知ってもらおうということですね。

それから、「うちはそこまでできないよ」という学校であれば元の本だけ使ってもらって、拡大版を保健室かどこかに置いておいて、子どもが悩んで来たらこれを見せてあげる…でもいいかなと思って、一応作りました。

そんなこともあって、いろんなことを同時進行でやっていかないと、いろいろあります。LGBTの子ども達の未来への選択肢という意味で作り替えたものを、今年ですね、出したところです。もしご入用の方は、言って頂ければと思います。

これは大学でも関係するところですね、トイレの問題ですね。これはバージニア州の教育委員会ですけど、ご存知の方も多いと思いますけど、こんな決まりを作っちゃったんですね、「体の性と同じトイレを使わなければならない」という規則ですね。

何も知らない人が聞くと「それはそうで

しょ。それ以外あるの？」と思われるかも知れないけど、トランスジェンダー、体と心が違うと困りますよね。体は女性だけど心は男性で、どう見ても男子生徒としてやっている高校生ですね、だけど体は女性だけど中身は男性なのに、「どうしても女子トイレに入れと言われないといけないのか」と言う訳ですね。…これは困りますよね。こんなことが、アメリカでも起こっています。

これは教育委員会なんですけど、法律を作ってしまった州もあって、ノースカロライナ州とかですね、「体の性と同じトイレを使わないといけないですよ」という法律を作っちゃった。そうすると、例えばブルース・スプリングスティーン…ご存知かも知れませんが、『Born in The USA』とか結構愛国的な歌を歌っている国民的なアーティストですけど、「そんな差別的なことをする州ではコンサートを中止しちゃうよ」と、そんなことを言っています。

日本だと、タレントが政治的なことを言っちゃうとテレビに出られなくなっちゃたりすると思うんですけど、向こうはちゃんと言うのが正しいというか、言う方が人間として価値があると思われるのかも知れないけど、ちゃんと言うということですね。レディー・ガガが大統領選の時に「どっちの候補を応援しますよ」と言っていましたけど、あんな感じでやるんでしょうね。

或いはグローバルな企業なんかは、

「LGBTにフレンドリーな会社だよ」ということで、「そんな州には支店を開かないよ」とか「撤退しちゃうよ」とか「イベントをやらないよ」とか、そんなことを言ったんですね。そんなことで議論になっています。「トイレ法」と言いますけれど。

デモも起こっていて、こんな感じで…例えば黒人の代表ですね。黒人も差別を受けてきた側だからかも知れませんが、参加して「トイレ法は差別的で、私達の価値観に反している」と言っているんですが、集会所のそばにいた一般市民の方はこういう法律に賛成すると言っているんですね。何でかと言うと理由が「女性用トイレに女性のふりをした男性に入ってきて欲しくない」と。…知らなければ、こういう反応なんですね。

トランスジェンダーの人がいて、その人は心と体が違うことに悩んでいて…というようなことを知らないと、何も知らない人にとっては「痴漢が増えちゃうんじゃないの」みたいな、そんな話になってしまうんですね。ですから、知らないというのは怖い訳ですね。知らないとかいう反応になってしまうから、知ることって大事ななことですね。

当然、痴漢が増えていいと思っている人は誰もいない訳で、この法律があろうがなかろうが…法律があっても破るのが痴漢ですから関係ないんだけど、でも何も知らなければこういう反応になってしまう、とい

うことですね。ですから、「トランスジェンダーの方がいてそういうことがあったら困るよね」と考えればちょっと変わるのかも知れませんが、知らないというのが問題かな、ということです。

当然ながら…オバマ政権ですけど、連邦政府は心と体の性が異なるトランスジェンダーの子どもがいたら、「どの性別のトイレも使っていいですよ」という通達を出してくれていますよね。その方がいいですよ。

では、さっきのノースカロライナ州も州議会の議員はそういうトランスジェンダーの子がいるのを知らないのかと言うと、もちろんそんなことはなくて。保守的な州とリベラルな州が分かれているんですね、アメリカは。保守的な州では、「そんな人はうちの州から出て行け。うちの州にいて欲しくない」と思っている訳ですから、わざと作る訳ですね、こういうのを。そういうことが起きています。

ですから、日本が遅れていてアメリカがすごく進んでいるかと言うと、そうはならないということですね。いろんなことがあります。政治なんかもあります。

トランプ大統領ですね、トランプさんはどう言っているのか。これは、まだ共和党の代表に、候補になろうとしていた大統領選の前の演説ですけど、「ノースカロライナ州の新法は不必要であり、自分に合ったトイレの使用は認められるべき」と言って

いるんですね。

…何か、トランプさんらしくないことを言っていますよね。こんなことを言って、「何かいいんじゃない、この人」と思うようなことを言っていますが、ただその理由はLGBTフレンドリーでも何でもなくて、会合とかコンサートとかがどんどん中止になっているから、「州の観光業界は大損害だからやめておいた方がいいんじゃないの」と言っていたけなんですね。経済人ですからね、そう言っていたけで。大統領になったら、さっきのオバマ前大統領が出した通達を撤回しています。共和党の保守的な方に寄って行って撤回しています。

ですから、大統領が代われれば、政権が代われれば対応も変わってくる国と言えましょう。ただ大きく違うのは、良くも悪くも大統領がこういうことについて、トイレについて言わないといけない国なんですね。そこに関心を持たざるを得ない国なんですね。だから、そういう当事者の方達も可視化されているというか…。

日本はどうかというと、そういう方達が「いる」と思っていないですね。「いる」と思っていないで法律も規則も作られていっているの、可視化されていないのか知らないのか…いることは知っていると思うけど、そういう人はいないものとしていろんな社会のルールが作られていっているということですね。そこは大きく違うところですね。

いい悪いは別ですよ、例えば向こうで可視化されていると言って、「自分はゲイだ」或いは「トランスジェンダーだ」と言った途端にヘイトクライムで殺されちゃったりすることもある訳ですから、どっちの国がいいかというのはいろいろ意見があると思いますけれど。ただまあ、大統領も一応そういうことについて、何か自分の考えを言わないといけない国だ、という点では違うかも知れないです。

この子はどうですかね、どう見えますかね？男の子に見えると思いますけど、この子はうちにも来られている子ですけど、典型例ですね、体は女性なんだけど「自分は男だ」ということで、中学生で「自分は男としてやりたい」ということで、学校の先生も「そしたらもう、この子は男の子として認めましょう」ということで、中学では男子生徒としてやっているんですね。

名前も「女性的な名前なので使いたくない」と言って、通称の男性名でやっていますが、今度は「高校に行きたい」ということで、県立高校に行く。その時に願書がありますよね、願書に性別欄が要るかどうかという根本的な問題があるんですけど…まあどうですかね、要ると思われる方もいるし、要らないと思われる方もいるし…「女性だから落としてやろう」というのがあったら大問題ですよ。ですけど性別欄というのがあらしいと。

この子は「自分は男なんだから『男』と

書きたい」と言うんですね。名前も女性的な名前を書きたくないの、いつも使っている男性名を書きたい…これはどうですかね、学校の先生だとどう思うんですかね。

通常は、「そんなことを言っても公文書なんだから、ちゃんと戸籍上の性別を書きなさい」と指導する先生も多分多いと思いますが、この先生は当然僕らとも話もしているの、*「それはちょっと、どうにかできるんじゃないか」*と教育委員会に言ってくれたんですね。教育委員会の方も我々とお話をしていて、結局「願書は『男』って書いていいよ」という話になりました。

会場のトイレをどうするか、ということですよ。これもやっぱり配慮しましょうということで配慮してもらって…ですからこれも知っているかどうかですね。日本で初めて相談を受けたと思った中学の先生は、これを知らないの、*「『女』と書いておけ」*という話になっちゃうと思うんですけど、こういうのを知っておくと、*「こういうのもありますよ」*と先生方によくお話をすると、*「そしたらちょっと、教育委員会に言っていこうか」*という気になりますから、これもやっぱり知っておくかどうか非常に大事な、という例ですよ。

…というような話で言うと、大学もトイレのことは今いろいろ困っていると思います、どうしたらいいのかというね。…これはドン・キホーテ、渋谷に行ったら「メガドンキ」ってありますよね。こんな感じで、

「男性用」「女性用」「オールジェンダー」、これがあるといいんですかね、どうですかね。…どう思われますか？

ドン・キホーテのように全国的によく知られているところじゃなくても、こんな「誰でもトイレ」みたいなのを作っている会社もありますけれども、こういうのだったら別にお金もかからないし、こうやってレインボー色の人のマークを付ければいいだけなので、簡単と言えば簡単ですよ。

ただ当事者の方もいろいろです、これがいいという方もいるし、*「自分ってこういうの？自分はこうじゃないよ」*と言う方もいるので、嫌だという方もいます。いろいろですね。

大阪大学ですね。阪大も「オールジェンダー」というのを作ったということですね。3月に学内でセミナーを開いた際に、参加者から「トイレが使いにくい」と…当事者の方が参加されていて、僕がこのセミナーの講師をしていたので、会場で最後に質問があったんですね。*「海外では『オールジェンダー』というトイレがあるので、そういうのを作ってはどうか」*と聞かれたんですね。

…難しいですよ。副学長や阪大の先生方がおられて、一応、僕は「オールジェンダーというトイレを作ることはいいことじゃないか」と言ったんですね。何でかと言うと、*「大阪大学はそういう人達がいることも知っていますよ。」*「そういう人達を支援



する大学なんですよ」ということを示す意味があるので、「作るのはいいいことだとは思う」と言ったんですね。

ただ、これを作ったからと言って、トランスジェンダーの人達が「トイレを使いにくい」と言ってきた時に、「あそこの何号館にこれを作ったんだから、そこへ行きなさい」とやっちゃうとダメですよ。それから、全員がこれを使えるかと言うと、当然使えないですよ。逆に「アウトティングにつながってしまうんじゃないか」と、いろいろな不安がありますよね。

だから、これがあつたら良いという訳ではなくて、大阪大学もこの棟もこの階も全部作る、という必要はないと思います。1個作ればいいんじゃないの、と思うんですけどね。ですけど、そういうことをやるという意味では、別にトイレじゃなくてもいいですよ。大学の中でも何でもいいんですけど、そういうことを示すということが大事なので。

いろんな自治体も今悩んでいて、いろんなことを聞かれますけど、決定打がないですね。歴史的にどうなっていくのかは、その国が今どういう状況にあるのかによって、これがいい状況もあるでしょうし、要らなくなればもっといいことかも知れませんが、そんなことがあると思います。

大学レベルだと、トランスジェンダーの学生がロッカーはどっちを使うとか、いろんなことがあるんですけど、そんなところ

では岡山大学でもいろいろ配慮していますし、いろいろなことをやっている大学もあります。

これは一橋大学ですけど、大学院生ですけど、これはトランスジェンダーではなくてゲイの子ですけど、ゲイの子がいろいろ仲間ができて、打ち明けたんですね。「この子ならわかってくれるだろう」と思って打ち明けたんでしょうけれども、そしたらその子がみんなにLINEでそのことを送っちゃった訳ですよ。

自分の言葉で、自分の意志で伝えることを「カミングアウト」「カムアウト」と言いますよね。だけどこれは「アウトティング」と言われますけど、自分の意志に関係なくみんなに言いふらされてしまうんですね。残念ながらこの子はその後自殺をしてしまっている訳ですけど、こんなことが大学とか会社でもいろんな所で起きてしまう、ということがあります。

学校の先生なんかは、真面目な先生は「そういうことはみんなで共有しないと…」とおっしゃったりするんですね。その子がやっと打ち明けたのに、次の日に教室のみんなが知っていたり、帰ったら親が知っていたり、そんなことになってしまうと、もう、その子は学校に来られなくなってしまったりとか、そういうことが現実起きてしまうんですね。

ですから、良かれと思って他の人に伝えるんだけど、良かれではすまない場合があ

るので、難しいですね。

これはヤクルトの子会社の例ではありませんけど、これはトランスジェンダーですね、体は男性で心は女性の方です。これは僕らもよく支援するんですけど、男性として会社に入っている。でも途中から女性に変わる「Transition（トランジション）」と言うんですけど、そういうのをやっていくんですね。女性ホルモンを投与してだんだん女性的になってきて、見た目も女性的になってきたので、自分に自信がついて女性の服装で行く…ということをやっていく訳ですね。

これをいきなりやると、会社は当然ながら上を下への話になっちゃうので、そこをうまくやっていかないといけないですね。この方もそれをやっていたんだと思うんですけど、名前も女性名に変更したんですね。戸籍上も変えた。名前は比較的に変えやすいんです。

そうすると会社…工場みたいなところですから工員ですね。男性と同じロッカールームで女性が1人ボンと入れられて、「一緒に着替えなさい」と言われたら嫌でしょうね。なので「どうにかして欲しい」ということで、そうすると「役員用の更衣室を使っているですよ」と言ったんですね。これはいいですね、これも1つの方法だと思うんですけど、ただどう言っちゃったかというと、「それを認めてあげるから、何でもそんなことをするのかを全従業員に説明し

なさい」と言っちゃったんですね。

…これはどうですかね？これも学校とか大学で起こりがちですよ。「何であの子だけああするのか、みんなにちゃんと話さない」と、校長先生とかが生徒にそう言うことがありがちなんですね。

「私は性同一性障害のために迷惑をかけていますので」…別に迷惑だとは思いませんけど、「迷惑をかけています」と言われたというんですね。この方も鬱になってしまっただけで訴訟になっていますけど、これは自分の意志で言ったからカミングアウトかと言うと、カミングアウトの強要ですよ、一種のアウティングに近いような状況なので、これもやっぱり問題が起きる訳ですよ。こんなことも、どうしても起きてしまうということがあります。

最近の話題ばかりで時間がなくなっていますが、ここからさっきの『広辞苑』はどこが違っていったの？という話になっていく訳ですが。

「性」という言葉がありますが、ジェンダー研究をしておられる方はいますかね？ああ、おられる、手を挙げておられますね。ちょっと見ないようにしてもらった方がいいかなと…自分の説とは違うかも知れないので、見ない方がいいかも知れませんが。僕が勝手に言っていると思ってください。

「性」という言葉がありますよね。これはいろんな視点があると思います。生物学的な性、これは我々医師がよく見ていると

ころですね。それから社会的な性というの  
もありますよね。生物学的な性の代表とし  
ては、身体の性ですね。これは僕らが診察  
をしたり血液検査をして「染色体がどっち  
なの」とか、XXなの、XYなのとか、男性  
ホルモンが高いの女性ホルモンが高いの…  
これが一致していない方もいます。或いは  
判定がしにくいような方もいて、そういう  
方達は「性分化疾患（DSD）」と呼びましょ  
う、「Intersex（インターセックス）」とも  
呼ばれますけど、DSDという言い方をして  
います。

僕はずっと前からDSDの方達の診療をし  
ていた訳ですけど、性同一性障害のもっと  
前からDSDの方達を見ていたんです。これ  
も1つの性の視点ですね、「あの人男性なの  
かな、女性なのかな」と皆さん方が見るよ  
うな視点も、体がどうなの？という1つの  
視点かも知れません。

それから「性別表現」もありますよね。  
これは髪型だとか服装だとか、そういうの  
も1つですね。それから例えば「性役割」、  
男性としての役割、女性としての役割とい  
うものもありますよね。それから割り当て  
られた性、「Assigned Gender（アサイン  
ド・ジェンダー）」「Assigned Sex（アサイ  
ンド・セックス）」とも言いますが、これ  
は例えば戸籍の性ですとか、保険証の性  
ですとか、そういうやつですね。社会か  
ら割り当てられている、そういう性別もあ  
るんですね。

それから「男らしい」「女らしい」とか、  
いいか悪いかは別ですよ、「それはあるべ  
きじゃない」という方もおられるかも知れ  
ませんが、いいか悪いかじゃなくそうい  
うのも見ながら判断していたりすることが  
ある、ということですね。

それから、今日の話の中では「性的指向」  
というのがあります。これは生物学的か社  
会的か難しいです。いろいろ医学的に「脳  
のここがこうだから」「遺伝子がこうだか  
ら」みたいな研究もあるので、生物学的な  
面もあるのでしょうかけれども、対人関係な  
ので社会的なものもあるということで、  
ちょっとどこに入れるか難しいのでこう書  
いていますけど。

それから、「性同一性」というのもあり  
ます。これは性同一性障害の「性同一性」  
なんですけど、わかりにくいので「性自認」  
「性の自己認識」「心の性」とも言います。  
…「あなたは男性なんですか、女性なん  
ですか？」と聞かれた時に、「男性ですよ」  
とか「女性ですよ」とか、「女性として生  
きていく方がしっくりするよ」という感  
覚ですね。「心の性」「性の自己認識」「性自認」  
…「性同一性」というのがあるんですね。  
…性の視点にはこういうのがいっぱいあ  
るんですね。これらの各視点で多数派と少数  
派がいて、どれかが少数派であれば、1つ  
でも少数派の方に入っていれば「性的マイ  
ノリティ」と言われる、ということです。

例えば性同一性障害の方は、体の性は診



察したりして「男だよ」「女だよ」、「心の性」は精神科医が2名で判断することになっていますけれども、それで「心の性はこっちだよ」と。これも一致している方が多いでしょうけれども、一致していない方もいて、そうすると「自分の体が嫌い、嫌だ」「こんな体に生まれてきて、体が違っていた」「生まれた時からずっと着ぐるみを着ているようです」という方もいますね。そんな感じですよ。性別に違和感を持ってしまう。

ただ、違和感というのは、多分に「割り当てられている性」と「心の性」が一致しないことで生じる。…ですから、体を見て「おちんちんが付いているから嫌だ」というのもあるんですけど、「男として割り当てられていることでいろいろ辛いことがある」、この違和感というのもすごく大きいと思いますね。ですから、ひと言で言うのは難しいことではありますが、そういうことです。

「同性愛と性同一性障害の違いは？」どんなか…いかがでしょうか。僕の説明がうまくいってれば、この違いをバシッとと言える訳ですが。…どうでしょうか。

#### 参加者：

心と体の性が違うのが性同一性障害で、同性愛というのは同性を好きになる…。

#### 中塚：

そんな感じですね。そんな感じですが、さっきお話ししていた性の視点で言うと、同性愛かどうかを見ているのは、どこを見ているかと言うと「性的指向」「性指向」ですね。「性指向性」とも言いますね。男性が好きか女性が好きか、そこがどうなの？ということですね。その視点で見ると少数派。

性同一性障害は何を見て…と言うと、これは体の性と「性自認」がどうかを見て、少数派。見ているところが違うというだけで、重なる部分があるんですね。

ですから、皆さん方が僕を見ると、僕は男に見えていますか？…どうですかね、多分そう言われる方が多いと思う、だから体は男だと。…なんですけど、僕は生まれた時から「本当は女性として生きていきたい。本当は女性なんだ」と、だけどそんなことが言えるような家庭でもなかったし、まあしょうがないと、今日もネクタイを締めてやってきましたと。

ただ自分は女性なので、朝起きて鏡を見て髭が生えているのを見るのも嫌、鏡を見るのも嫌、嫌なんだけどしょうがないから生きていると。トイレも、本当は男子と一緒にトイレに行くのもすごく嫌だけど、しょうがないから男性用トイレに入っていると。

心は女性ですから、男性が好き。それをわかってくれる男性がいて、僕はその男性と2人で手を繋いで歩いていました。皆さ

ん方から見ると、男性と男性が手を繋いで歩いていると思うかも知れないけれども、これは僕は同性愛でしょうか？性同一性障害（トランスジェンダー）でしょうか？

**参加者：**

…「性同一性障害」…

そうそう、良かったです。性同一性障害ですね。心は女性なんだけど体は男性、男子トイレに入るのも嫌だし名前もこういう名前が嫌、声を出すのも嫌。こんな男みたいな声が嫌なので、誰かに外で話しかけられてもぼそぼそとしか話せないとか、そんなことがよくあります。

僕は別にこの格好が嫌いではないし、時々髭を生やして歩いている時もあるよ。トイレも別に男子トイレに入るよと…なんだけど、親から「結婚しろ」と言われるとその話が苦手だとかね。学生時代に「彼女ができた」みたいな話の輪にはちょっと入っていきにくい。だって「僕は男性が好きなんだ。」…で、わかってくれる男性がいて、その子と僕が手を繋いで歩いていました。皆さんから見ると、男性と男性が手を繋いで歩いている。この場合の僕は、当然ながら…いかがですか？…「同性愛」ですね。そういうことです。

ですから、ただそれを皆さん方を見ると、「どちらも男性と男性が手を繋いで歩いているんじゃないの」と見えちゃうんですね。

だから、話を聞いてあげないとわからない。学生が「LGBTじゃないの？」「そのことで困っているんじゃないの」と見えるかも知れないけど、でもそれはよく聞いてあげないとどこが困っているのがLGBとTで全然違うんですね。対応が全然違います。

先ほど文部科学省の通知があって、「性的マイノリティの子どもを支援してあげなさいね」ということが書いてあるんですけど、支援のしどころが全然違います。性同一性障害の子どもであれば、制服とかトイレとか更衣室とかをすぐ考えてあげないと困りますけど、同性愛の子どもであればそういうところは考える必要はないです。

なので、共通する部分はあるんですけど、対応するところのポイントは全然違います。ただ見た目だけではわからない。性同一性障害だったり同性愛だったりいろんな場合があると思うんですね。

それから100%男で、心は男で、好きなのは100%女で…こんなことはないですよ？そんな両端ばかりの人っていないんじゃないですかね。

例えば、性同一性障害であっても私は身体性は男で心の性は女性、好きになる性はどちらかなと言うと男性かな…とか、中性的な服装が好きだし。性同一性障害の方でもこういう方がいる訳ですね。ですからこんな感じで幅があるのが普通ですよ。

皆さん方でもそうですよね。「自分は一番こっちの端だ」みたいな、マッチョで髭を

生やして男・男みたいな、そんな人ばかりはいませんから。グラデーションがあると思って頂いて…そう思うと1人1人違うと思うんです。

例えば、教科書で描けと言われるとこう描かざるを得ないので、無理やり男・女で書いているけど、「でもグラデーションがあるんですよ」ということも一緒に言わないといけない。だから、このような図を作っていますが、これが独り歩きしないようにしてほしい。勉強してこれも使って頂かないと…。

よくあるのが「皆さん、性の多様性を勉強しましょう」と言って、小学生や中学生に「この図の中に自分の位置する所を描いてみましょう」なんて教室でやると、これは大変ですよ。これを「これを見せ合ったりしましょう」なんて言う先生がいたりすると、危険なことですよ。ですから、これは僕が作ったものなんですけど、使い方が問題なので、それを知っていないで「DVDだけほしい」と言われてそれを使われちゃうと困るので、丁寧に渡さないといけないかなと。ちゃんと本を読んでくれて、ちゃんと知った上で使って欲しいなと思っているところです。

まあいろいろありますよね。時間がなくなってきたてしまいましたが、「性的マイノリティ」という言葉がありますね。これは、いいか悪いかはいろいろあります。マジョリティに対してマイノリティと言われてい

て、嫌だという方もいますね。いい言葉かどうか、性的少数者がいいか悪いか、これも難しいですね、どういう言葉を使うか。なので「LGBTの方がいいよ」という方もいます。

これもLGBTと言われると、「いや、自分はそれ以外の悩みなんだ。そこに入らない」と言う人もいますね。「Questioning (クエスチョニング)」とか「Asexual (アセクシュアル)」とか、これもいくつも並べていかないと全部を言い表せないなので、これも嫌だと言う方もいる。LGBTの中には「自分は入らないよ」と思う方もいるので、良い言い方のように悪い言い方の場合もあるので、難しいです。

それから、「SOGI (ソギ、ソジ)」と言いますが、「セクシュアルオリエンテーションとジェンダー・アイデンティティ (Sexual Orientation & Gender Identity)」の頭文字です。これはですからさっきのグラデーションですよ。例えば性的指向だと「ホモセクシュアルからヘテロセクシュアル」、異性愛から同性愛、両性愛も無性愛もいっぱいあるんですよ、みたいな言い方ですね。どこかにみんな入るでしょ、という言い方ですね。「多数派」と「少数派」みたいな2分する言い方じゃなくて、そういう言い方もあります。

それからジェンダー・アイデンティティも、トランスジェンダーで心の性と体の性が異なっている人、また、一致している人

を「Cisgender（シスジェンダー）」と言いますが、シスジェンダーからトランスジェンダーまでずっとあって、その軸のどこかにみんな入るでしょ、みたいな概念です。これだったらみんな入るでしょ、みたいな話ですね。

ただこれもさっき言ったように、性を見る視点ってこの2つしかない訳ではないですよ。ですから、「それ以外のことで悩んでいるんですよ」と言う人もいますので、これも全て言い表せる訳でもないの、どれも決定打にはならないですね。Gender Expressionも付けて「SOGIE」と言ったりしますが、それでも全部言い表せないと思うので、なかなかやっぱり難しいですね。

ですから、例えば法律だとか条令だとか、学校の規則でもいいんですけど、その時にどの言葉を使うかというのはすごく難しく、どれを使っても全員がいいよと言うのはなかなかない。それを知った上で選ぶしかならないと思いますけど。

それから、性的マイノリティは本当にマイノリティなのだろうかと思いますね。これはよく知られていると思いますけど、電通によると「日本人の7～8%ぐらいですよ」と言うんですね、LGBTの当事者がね。博報堂もですね。…何でこんな会社が調べるかと言うと、マーケティングですよ。

だから例えば、「8%もいるんだったらその人達向けの商品を作ったら売れるんじゃないの」ということですね。企業に提

案する訳ですね。或いは保険会社に「こういう保険を作ったら売れるかも知れません。入るかも知れません」と言えるので、こういう会社が調べている訳ですね。「それって本当に眉唾じゃないの?」と思う人もいますかも知れませんが、例えば労組の連合も調査をすると、働く人の8%ぐらいですよと言っているの、あながち間違いではないかも知れませんね。

8%と言うと…皆さんは学校の先生、大学の先生かも知れませんが、自分が担当するゼミの学生の中に1人ぐらいいてもおかしくないかも知れないですね。教室の中で授業をしていたら、その中に何人かいてもおかしくないぐらいの割合ですね、13人に1人ですから。

ですから、左利きの人とかと同じぐらいいます。AB型の人と同じぐらいだったりします。皆さん方に「AB型の人、手を挙げてもらっていいですか」と聞くと、多分挙げる人が…「AB型だから恥ずかしい」と思う人もいますかも知れないけど、AB型ぐらいだったら手を挙げるんじゃないですかね。ですからそれぐらいいるはずなんですけど、「LGBTの人、ちょっと手を挙げてもらってもいいですか?」と言うと、AB型のようになかなか挙げられない人が多いんじゃないですかね。

ですから、そんなにいないよと思われるかも知れないけど、言い出しやすいかどうかの影響しているんですよ。

iPhone Xを持っている方もいるかも知れませんが、AppleのCEOのティム・クックですけど、ゲイであることをカミングアウトしています。ですから、こういう一流企業のトップにもLGBTの方がいっぱいいるんですよ。日本でもいます。政治家にもいますし医師にもいますし、学校の先生にもいますし、どこへ行ってもいます。…ただ、言えるかどうかですね。公表できるかどうかというのは、その国によったり時代によったりして違う、ということですね。

この方もトランスジェンダーですね。見た目はこれ以上男らしい男はいないんじゃないかというぐらい男らしいですけど、この方も「本当の自分はこんなことをやりたかったんじゃないよ。本当はこういう風に生きたかったんだよ」と言って、今は女性として生きています。…ですからやっぱり時代ですね、そういうことを言える時代になっていけば…そうじゃなければ、一生これで終わっていたんだと思いますけど、そういうことが言えるような時代なら「自分はこういう風に生きたかったんだよ」ということで、今こうしていますね。

エルトン・ジョンさんも有名ですよ、同性愛、ゲイだということを公表している方です。皆さん方の中でも…今日は人権担当の方なので、そんなことを言う方はいないと思いますが、こんなことを言う人もいますよね。「同性愛はダメだ、子どもができないから。日本は少子化なのに子どもが

できないから、同性愛は認めてはいけない」と言う方もいるんですね、中には。でもそんな時代も終わっていて、子どもも育てています、ちゃんとね。

これは例えば代理出産ですね、こちらの方の精子で代理出産で1人子どもを産んでもらって、こちらの方の精子でもう1人、2人の子どもを育てているゲイのカップルもいますよね。或いは別に養子でもいい訳ですけど、養子をもらって育てているゲイのカップルもいますので、ですから子どもを育てられないということもないですね、自分の血の繋がった子どもも持てるということですね。

でも、こんなことを言う人もいますね。「いや、でもそんなのはダメだ。生まれた子どもが可哀想」と言う人がいます。…そうですね？それは、可哀想と思っている人達の社会の中で生きているから可哀想なだけで、「別にいいんじゃないの？」と思っている人の中で育っていれば「可哀想でもないんじゃないですか？」ということですよ。

ですから、別に…ゲイのカップルの間の子どもでなくても、虐待を受けたり、可哀想な子どももいる訳でしょうから、別に「ゲイのカップルの間に生まれた子どもだから可哀想」というのだと、社会の方の病理ですよ、そうなってくると。なかなか理解してもらえない方もいるんですけど、そういう話をしています。



日本だと「同性パートナーシップ制度」とか、いろんな自治体が今だんだんやっていっていますよね。岡山でやっと動き出して…岡山市はどちらかと言うと保守的で…でも今度条例を作ろうという話になって。

今度条例を作ろうという話になっているので、それでぜひ岡山もちょっと…保守的なところから中道、半ばぐらいまでは行かないといけないかなと思っているんですが。

これは性的指向の方でテレビに出ている方、中村 <sup>あたる</sup> 中さんとか佐藤かよさん。はるな愛さんとか、テレビとかに出ていると思いますが、この方達は自分は性同一性障害だということをカミングアウトして活動されている方達ですよ。

ドラマもあったり…この方は体は女性で心は男性の方ですね。僕らの所にもいっぱい来られていますけど、多くの方達は男性ホルモンを打って髭も生やして、マッチョになって彼女を連れて来たりする訳ですが、この方は歌手なので男性ホルモンを打つと高い声が出なくなるので、今はちょっと知らないけど、何年か前まではホルモン剤を打たずに頑張っていた方です。

「性同一性障害とは」ということですが、男の子は女の子の遊びを好んだり、お母さんのスカートを穿いてみたり、口紅を着けてみたりとか、女の子はわざとバイクを乗り回したり、喫煙率も高く、「煙草が男らしいという時代じゃないよ」と言うんだけど、吸ってみたいんでしょうね、そんなこ

とをしたりします。また、「ストレスが多くて」と言ったりする人もいます。

体の成長、二次性徴になってくると、男性なのに胸がだんだん大きくなってきて、毎月生理が来ちゃう…嫌かも知れないですね。毎月自殺未遂したりする子がいたりします。それから、女性なんだけどだんだん声が低くなってきて髭も生えてくる…これも嫌でしょうね。そういうことが起きてくる。これはすごく嫌です。

ですから、「男性が女性の体に閉じ込められている状態」、さっき「着ぐるみ」と言いましたけど、こういう言われ方もします。また、「女性が男性の体に閉じ込められたような状態」という言われ方もします。

何で起きるのかというのがよくわかっていなくて、育てられ方ではないので、いろんな説があります。いろんな説があるということは、よくわかっていないということですね。もちろんこんな考え方もありますよね、「心の性を変えたらいいんじゃないの？そんなに困っているんだったら、体の性に合わせたらいいじゃん」と思うかも知れないけど、これは難しいですよ。ね。「心を変えろ」と言われても、皆さん方が明日目が覚めてみたら体が変わっていたと。

「しょうがないか」と思ってすぐに大学へ行けるかと言うと、なかなかね…どんな格好で行こうかという話になるし、みんなに見られたくないと思うかも知れませんか。まあそんなことで、心を変えるというのは



なかなか難しいですね。

心を変えようとしていた時代もあって、そういうことをやると大変なことになる。

『ブレンダと呼ばれた少年』…この本は詳しく言うと時間がないので、そういう話もあるので読んでください。このミルトン・ダイヤモンド先生が科学的に調査をされた。さっきの本を書いたのはジャーナリストですけど。「心の性と違う性で育てられるとこんなことになるよ」みたいな本ですね。…この本ですね、また読んで頂けたらと思います。

無理やりやると、鬱になってしまったり自殺してしまったりする人が増えるので、僕らは何をしているかと言うと、体の性を心の性に合わせるような治療をしている、ということですね。

これはうちの大学病院ですね。この隣の建物の6階と2階が僕の研究室ですけど、病院のすぐ隣でやっています。

「性転換」と言うのは本当は良くて、何か体を変えたいよ、みたいなことではないですね。体が生まれつき違って、心の方に合わせて欲しいみたいな感じなので、性転換という言葉は良くないんじゃないかということを…GID（性同一性障害）学会でも「『性別適合手術』と言いましょうね」と2001年の3月に決めて、この新聞記事の頃はまだこの言葉しかなかったから見出しがこれでしょうがないんですけど、「性転換手術」って書いてありますが。

この記事の写真の中の僕も別人のように若いけど同一人物です。こんな感じで始めました。こちらの先生方は退官されたり別の大学へ行ってしまっていてなくなってしまったりして、オリジナルのメンバーは僕1人になっちゃいましたけど、今もこういうこともやっています。

これはジェンダークリニックでの診察の流れですが、詳しいことは今日はお話しできませんけど、できるだけ間違いなくやろうというのが大切で、やっぱり治療することになるとホルモン療法にせよ手術にせよ、不可逆的で元に戻れない部分もあるので、間違いなくやっていこうということで僕達はやっている訳ですね。ですから、ここで判定会議を必ずして、診断を付けている。診断をして「間違いのないよ」ということで手術…ということで、ここで必ず何人かの目で、外部委員も入りますけど、「この人に本当にこういう治療をやっているんだ」と確定してやっている訳ですね。

特にここの図の中の精神科医も、うちは別々の施設で…同じ大学病院の先生が2人で診るんじゃなくて、別の施設の精神科医とうちの先生と2人で診る、ということに一応しているんですね。できるだけそのところは厳密にやりましょうということで、うちはやっています。どんどん普及していくとそういう形でやれなくなっていくかも知れませんが、今はそういう風にやっていますね。

これはジェンダークリニックに来られた方のデータですね。それ以外の方のことはわからないです。我々の所に来られなかった方もいるんでしょうが、「男としてやっていくのは辛いけど、でも今の状況だったら男としていくしかないな」というトランスジェンダーの方は我々の所に来られないので。…或いは、社会に出てみると「やっぱり女性としてやっていった方がいいな」と思いながらもそのまま行くという人もいるでしょうから。

また、我々の所に来られずに、例えばいろんな接客業とかに入ってしまったて、ホルモン剤は自分で打っているよという人達とかは来られないので、その人達はどうかというのとはわからないと言えわからないです。

我々の所に来られた方を見ると…ちょっと前ですね、今2千何百人が来られているのでちょっと何年前のデータですけど、あまり変わっていないです。ほとんどは小さい時から、だいたい中学生までに自分の性別に違和感を感じている人が90%ぐらいですね。大人になってから違和感が出てくる方というのは少ないですね。

特に「FTM」ですね、体が女性・心が男性の方だと、7割までが小学校入学前から性別違和感を持っていますから、「生まれた時から男なんです」という方も多いです。

歴史を見てみるとブルーボーイ事件というのがありました。今の母体保護法、昔の

優生保護法に「産婦人科医とかそういう人達が、勝手に子どもができないような手術をしてもいけませんよ」というのがあるんですね。MTF、体が男性・心は女性という方が産婦人科へ来て「女性ホルモンを打って欲しい」と、だけど男性ホルモンが出ないようにした方がいいので「精巣を取りましょう」と取ってあげたんですね。それが優生保護法に触れるのではないかということで訴えられた、と新聞記事ではなっています。

ただ実際の判決文を読むと、本当はそこではなくて、どちらかと言うと今でいう「Informed Consent（インフォームド・コンセント）」をちゃんと取っていたの？みたいなところが問題になっている。今日は専門家がいっぱいいるから、「違っている」と後で言われるかも知れないから、また教えてください、間違っていれば。

そういうことで、産婦人科医が有罪になってしまったことがあって、それもあって27年間はなかなか公に手術ができない時代に入ってしまった訳ですね。一度そういう事件になってしまうと誰も進められなくなってしまった。こういう時代があって、それを埼玉医大が始めたのがこの年で、我々もこの年にジェンダークリニックを作りました。

『3年B組金八先生』のドラマね、ご存知かも知れませんが、これが2001年ですね。一般の方に性同一性障害という名前が知ら

れ出したのが、この頃からですね。これは『金八先生』のドラマのモデルになった方です。虎井さんといって、この方の学生時代とかを取材してあのドラマができたんですけど、この方は僕らが手術を始めるより前なので、海外へ行って手術をされて帰って来たんですが、外見は男性ですよ。でも戸籍を見ると女と書いています。これは生きにくいですよ、なので「男の戸籍をください」という本を書いたと言って送ってくれたんですけど。これは『金八先生』。上戸彩さんが体は女性・心は男性の生徒役をしたというシリーズでした。

この頃になってくると、競艇の安藤選手が男子選手から女子選手に変わったり、上川あやさんですね、この前東京のパレードと一緒に歩きましたが、その上川さんも世田谷区議に当選されたのがこの頃ですね。

それから、2003年に法律ができています。これもあまり詳しく言うと大学の話がなくなってしまうので、あと20分ぐらいしかないので、戸籍の性別変更の法律が2003年にできて、2004年から施行されたんです。カルーセル麻紀さんはそれで戸籍の性別を変えたんですね。僕は診察はしていないですけど、医師の診断書が要ります。

それから学校ね、学校の先生方ならここはよく覚えているかも知れませんが、2006年に小学校の男の子が女子として入学を認められたのがこの頃です。さっきの中村中さんが紅白歌合戦の紅組で出たのがこの年

ですよ。

学校だったら「よい本とかないですか？」とよく質問されるんですけど、これは「ダブルハピネス」という本です。杉山文野さんは時々いろんな会でお会いしますが、さっきFTMの方は「煙草を吸って…」みたいな悪いことばかり言いましたが、「その頃は全部スポーツに打ち込んでいました」みたいな人がいっぱいいて、オリンピック選手みたいな人達にも会います。すごいアスリートになっていたりして、この方も女子フェンシングの代表ですよ。今は髭も生やしてイケメンになっていますけど、こんな感じ。これも本が売っていて文庫本にもなっていますね。なでしこジャパンの元日本代表もこんな本を書いたりしています。

これは戸籍上の性を変えるための法律ですよ。ワークで使ったりしています。学校の人権担当の先生方の「研修やセミナーをしてくれ」と言われた時にクイズでよく使うんですけど、あのDVDの中のワーク集の中に今回入れましたけど、この法律の要件中で人権的に問題があるものを答えてもらいます。日本で個性机上の性別を変える時に「二十歳以上でないと変えてあげないよ」「結婚している人は変えてあげないよ」「子どもがいる人は変えてあげないよ」「手術を受けて生殖能力がないようにしないと変えてあげないよ」…人権的に問題がありますよね？ 皆さん方は人権教育の研究協議会のメンバーですから、バシッと当たりま

すよね、多分。

…どうでしょうか。手を挙げてもらってもいいですけど、「こんな項目を入れている国はない。人権的にすごく問題があるよ」と作られた当初から言われています。…どれだと思いますか？どれか1個、こんな項目を入れている国は世界中探しても日本しかないよ…いかがですかね？どれだと思いますか？ご存知の方もいると思うのですが、まあ一応聞いてみましょうか、ご存知でない方もいるかも知れないので。ちょっと考えてから、30秒ほどでいいですか？…よろしいですか？どれか決心して頂いて…。どれかで手を挙げてくださいね。

「二十歳以上にならないとダメ」…これは人権的に問題があると思われる方…なんか皆さん、様子見ですかね？一番多いところで挙げておこうと思われているのか、いかがですか？

「結婚しているとダメ」…いかがですか、大丈夫ですか？「子どもがいるとダメ」これはどうなの？これっておかしいんじゃないの？あ、これはポロポロと手が挙がりましたね。…大丈夫ですか？「手術していないとダメ」…これが一番多いですよ…わかりました、ありがとうございます。

2008年にこの人権的に最も問題とされている要件は変わりました。

答えなんですけど、…3番ですね。4番が多かったですけどね、3番ですね。3番はこういう項目を入れている国はないと言

われていますね。「これはもう取るべきだ」ということだったんですけど、自民党・公明党の与党の時代でこれを取れなかったんですね。

「未成年の子がいない」という所まで緩和されましたが、このような条件を入れている国もないという状況ですから、これはやっぱり取らないといけないということですね。子どもが1回できてしまうと一生性別を変えられない訳ですから、この子が生きているから私は性別を変えられないと親が思って生きないといけないし、子どもも自分が生きているから親が性別を変えられないと思って生きていかないといけないので、やっぱりすごく、人権的に一番問題があると言われているんですね。

4番も正解に近くて、WHOとかは「こんな項目を入れている国は人権的に問題があるから削除しなさい」と言っています。ですけど、これを入れている国は幾つかあります。日本だけではないですね。4番も正解にかなり近いので、3番と4番を選んで頂いたので、さすが人権教育研究協議会の皆さんだと思います。

これも今、成年を18歳にしようという話があって、その時に「お酒はダメよ」とかいろいろありますよね。下げていいものといけないものがあるって、さっきのこの法律は18歳になる予定の方に入りました。GID（性同一性障害）学会にも「これを18歳にして困ることがあるか？」という問い合わせ

せがあったんですけど、「いや困らない。どんどん下げてください」という話をして、これも下がることに今なっています。

これをちょっと聞いてみましょうか。どれくらい変わっているか、条件がなかなか厳しいことを言われているんですが、なかなか子どもができない、戸籍が変えられないんですけど、いかがですかね？何名ぐらい今、日本で変えていると思われませんか？

**参加者：**

30人

え…30人ぐらい？…8千人ぐらいいます。あのような条件があってもこれぐらい変わっているの、そんなに少なくはないということです。「30人ぐらいしかいないんじゃないの」と思われるかも知れないけど、そんな少ないことはないです。

ですから最初のお話に戻りますが、LGBT全部で言うと、トランスジェンダーはその中で割と少ない方に入るかも知れないけど、そんな感じで決して少なくないです。

あと10分ぐらいですね…どこまで行けるのかな。大学の話をしないと怒られますよね？…この辺はちょっと飛ばしましょうか。子どもの話ですね、さっきの1年生の時におばあちゃんが「うちの子は女の子として育てているから、女の子として小学校に受け入れてください」と言った例とは、この子は違って、1年の時には男の子とし

て入っていて、途中から女の子として対応したという例です。

スライドをちょっと飛ばして…ジェンダークリニックの受診者を見てみると「自殺したい」と思った子が6割から7割ぐらい、自傷・自殺未遂が今ちょっと上がってきて3割ぐらいになっていますけれども、ちょっと昔なので25%ぐらいですが、傾向は同じですね。

不登校はやっぱり中・高ですね。それから「死にたい」と思うのはここですね、中学がすごくしんどくて、二次性徴で体が変わってきますよね。それから制服ですよね、スカートが穿けないとか。恋愛の問題も出てくるので、中学生が最初に死にたいと思う時期ですね。それからもう1つは、社会に出ていく時にどちらの性別でキャリアを…キャリア支援をされている先生がおられるかも知れませんが、どちらの性別で働けばいいかということですね。結婚をどうしようとか、そう思うとやっぱり死にたいと思います。

なので、こういうピークがありますね。これも細かく言うといろいろ重なりまして、自殺未遂…リストカットも含めてですけれども、3分の1ぐらいは小・中の間に経験していますので、小学生だから大丈夫、という訳でもないですね。

ただまあ、自殺に関してはだんだん減ってきていまして、僕らが始めた頃は8割ぐらい、みんな「死にたい」と思った経験が



あったのがだんだん下がってきていました。最近またちょっと上がってきて、この辺で下がってきて「いい時代になったな」と思ったら、今はちょっと上がっていますよね。

この大きな問題は、リーマンショックです。お金がないことで自殺したい方が増えています。大体最初にクビを切られちゃったりするんですね。今まで手術しようと思ってお金を貯めてきていたのに、それを使い果たしてしまったとかそんな人が出て来て、また死にたいという人がちょっと増えてきて。最近あまりリストラでこんなになっている人は見なかったのですが、去年や一昨年とか結構リストラをしてる人が来て。またこの1年ぐらい、ちょっと良くなったかなという感じがしますけれど。

「自殺総合対策大綱」というのがあって、これは改正を去年もしたと思いますけれども、その1回前の改正ですね。改正の時に、僕も…平成23年かな、要望書を出して変えてくれと、「改正するのだったらこの視点も入れてくれ」ということで。性的マイノリティの方の自殺率も高いので、「政府もそういう視点でも支援してくださいね」という要望書を書いて、最終的に入りました。

ですから、この大綱に「性的マイノリティに対して国が支援するよ」と書いてあります。学校の中、それから職場ですね、そういうところで支援してもらおう。これにあるので、文部科学省なんかも動きやすいとい

うことで、どんどん動いてくれたというのがあります。

小学校の頃はどうか、「家族の中で一緒に住んでいれば知っているでしょ」と思われるかも知れないけど、でも気づいていたのは3分の1ぐらいですね。あとの他の家族は知らない、子どもの時にそんなことで悩んでいたとは知らないですね。

知っていた、気づいた家族の中でも助けてくれた家族は3分の1ぐらいですね。10%ぐらいが助けてくれた家族で、20%ぐらいが「もっと男らしくしろ」と怒られた、あとは知らない…とこんな感じですね。だから、本当に助けてくれた親ってそんなにいなかったですね。

小学校の時にどう思っているかと言うと、「絶対伝えまいと思っていた」と…子どもの頃ですね、僕らの所に来て「子どもの頃ははどうだった？」と聞くとこういう風に答えるんですね。「伝えまいと思って、隠そうと思っていた」と言うんですね。「言えないと思った」、いろんな言葉があります。今日は持ってきていないですけど、「親に申し訳ない」とか、「申し訳ないことはないんじゃないの？」と思うんだけど、「親が悲しむんじゃないかと思って言えなかった」とか、そんなことを言ったりする人もいます。うまく周囲には伝えられなくて、9割ぐらいは伝えられないですね。

大人になって僕らの所に来ると、子どもの頃伝えられなかったことを約6割が後悔



しています。「何で学生時代に言えなかったんだろうか」と、大人になってくると後悔していることがわかります。

文部科学省は、先ほども言いましたから詳しく言いませんけど、全国調査をしてくれたり、2015年に通知を出しています。その中で「サポートチームを作ってくださいね」とか「医療とちゃんと連携してくださいね」みたいなことも書いてくれました。その翌年には教員向けの…これはPDFでダウンロードできますので読んでみて下さい。…どちらかと言うと小中高生に関するやつですけど、こういうものを作っています。…この話はちょっと…今日は時間がないのでまた機会があればお話しします。

大学での対応ですね、保健管理センターの先生方に聞いたアンケートですね。「自分の大学にいましたか？」と聞くと保健管理センターのレベルで言うと6割ぐらい「うちにもいましたよ」と。先生方は気が付いていないかも知れないけど、保健管理センターには言っている学生が結構いるんですね。

FTM（体は女性で心は男性）の方、MTF（体が男性で心が女性）の方の割合はこれぐらいでした。「その学生はカムアウトしていたか？」と言うと、「していた」というのが4割ぐらい、「していなかった」「どちらかわからない」というのがこれぐらいですね。

それから、「望む性での生活をやっている

たか？」これも半分ぐらいはしていたけど、していなかった例では相談だけ受けた例もあります。

それから、「入学前に大学に連絡があったか？」…これはどうですかね、僕も相談…高校生の親から、高校生から相談は来ているけど、大学に言った方がいいのかどうか、難しいですね。親や本人も「大学に言ったら通らないんじゃないの？」という心理がどうしても働いてしまって、「そんなことはないと思いますよ」とは言うんだけど、私も確信は持てない。やっぱり言わない方がいいと思う方もいたりして、いろいろ難しいです、ここは。「合格したら言ったらいいんじゃないの？」と言ったりしているんですけど。連絡しなかったという例も多いと思いますね。大学に入ってから連絡があって初めて知った、という例もあります。体の性で入学している学生がほとんどです、言われていないということですからね。言われている例はこういう例もあって、初めから心の性で入学した、という学生もいます。

「悩んでいたと思うか？」ほほほ悩んでいると思いますよね。「なかったと思う」という見方も8.3%の割合でありましたが、悩んでいないことはないと思います。「トラブルはあった」は18.4%、「なかった」「わからない」、それから「相談はあったか？」という質問には、まあ「そういう人がいるよ」ということだったけど、実際に直接は

相談がなかったということですね。

どんな問題があるかと言うと、対応したこととしては「トイレ」がこれぐらい、2割ぐらいですね。「健康診断の時」、男性・女性に分かれてやりますよね。「更衣室」、それから「体育・スポーツの授業」、それから「合宿」だとか「部のこと」とか、そんなところになってきます。

「就職指導を、うちの大学では心の性を元にやっているよ」という大学は4%ですね。まだまだそこは難しい。やっているとしても、個別にだと思えますね、進路指導ですね。「通称名の使用をうちはやっていますよ」は14%、それから「証明書を発行する」「性別記入欄を廃止した」というものもあります。…大学はまだまだ進んでいないということだと思いますので、ですから各大学で、これからだんだん進んでいくんじゃないかな、と思われるところです。スポーツの問題もあったりしますけどね。これが最後です。

「就職の時はどうか？」ですね、体の性で就職している例が8割で、心の性で就職していた人がこれぐらいしかいませんね。僕らの所を受診した時にはこうなってきました（約7割が心の性で就労）。ですから自分で辞めたり会社と交渉したりしてこうなっているんですけど、大学とか学校の間に対応できると最初から心の性で就職できる人の割合がちょっと上がってくるんじゃないかな、と思っています。

日本産業衛生学会というのがあって、そこでお話ししたんですけど、企業の方とかが来られていて、そこの方には「学校での講演ではこうやって『学校の先生頑張れ』と言っているの、企業も受けてくれない」と言ってます。「学校の先生だけでは絶対ダメなので、企業もちゃんと受けてくださいね」というお話をして、両方が動いていかないとそうはならないです。

ここの率が上がってくると、最初から心の性で就職できる子が増えてくるので、キャリア支援もやりやすいと思います。残念ながら辞めさせられて自殺したという記事です。これも訴訟になっていますけどね。逆にこうやって、職場で活躍している方もいます。

…ということで、GID（性同一性障害）学会でもいろんな人材育成の認定が始まりますけど。認定医のいる認定施設はこれぐらいしかない。学校だとか大学の教員の方も来られますけど、エキスパート研修会を開催しています。これは認定医に知って欲しい内容をやっているんですが、そこにはいろんな方に来て頂いて、研修を受けて頂いたらいいと思います。ぜひGID学会にも参加して頂いたらいいと思います。

今年は20周年記念で、お茶の水で盛大にやったんですけど、来年は久々に岡山で形成外科の先生が会長でやってくれますので、ぜひ来年の3月には岡山でお会いできればと思います。

すみません、ちょっと時間が延びてしまいましたけど、ありがとうございました。

**司会：**

どうもありがとうございました。大変貴重なお話を頂きました。

時間は定刻を過ぎておりますけれども、せっかくの機会ですので、ご質問があれば1つ2つ受けたいと思いますが、いかがでしょうか。…いかがですか？よろしいでしょうか？

では、私もお伺いしたいことがいっぱいありますけれども、今日はいろいろご本の紹介を頂きましたし、GID学会でもいろんな情報を提供して頂いているようですので、ぜひそれをご活用頂いて、学生対応にそれぞれの大学で活かして頂きたいと思います。

ちょっと補足させていただきますと、実は日本学術会議でもこの性的マイノリティ、LGBTIの問題に対応しておりまして、実は中塚先生にもお越し頂いて、シンポジウムをして、その成果は『LGBTIと教育』という本で出しております。そして、学術会議の提言として、昨年9月にLGBTIの問題について文書をまとめました。それは学術会議のホームページでダウンロードできますので、また教育にご活用頂ければと思います。

では、中塚先生にもう一度拍手をお願い致します。先生、どうも本当にありがとうございました。

では、本日の記念講演会はこれで終わりとさせていただきます。ご来場誠にありがとうございました。

# 2018年度 奈良県大学人権教育研究協議会 講演会

2018年11月17日（土）

奈良教育大学 本部管理棟 2 階 大会議室

## プロフィール

河村 晴美（かわむら はるみ）

N H K クローズアップ現代でも放映された“叱りの達人®”

『東久邇宮平和賞』『東久邇宮記念賞』『東久邇宮文化褒章』 受章

京都女子大学を卒業後、音楽配信会社にて営業職として勤務。社員 1 万名在職の中で入社 3 年目で全国女性営業約1000名中 6 位受賞。現在は現代哲学を活用し企業の人財育成家として活躍。『正しい叱り方』の講演研修実績は、国内最大手自動車会社、国内最大手損害保険会社、国内最大手証券会社、創業100年企業、鉄道交通機関、監査法人、I T ゲームソフト、陸上自衛隊、税務署、消防局など多数。メディア出演はN H Kをはじめ、読売テレビ放送、読売新聞、朝日新聞、産経新聞など多数。叱りの達人協会主宰。三思会 会長補佐。

# 「厳しく指導する」ということの問い直しと実践

河 村 晴 美

司会：

お待たせ致しました。本日はお忙しい中お越し頂き、ありがとうございます。私は、奈良県大学人権教育研究協議会の本年度の事務局長をさせて頂いております、奈良教育大学の理事副学長の宮下と申します。どうぞよろしくお願い致します。

当会の行事の1つであります講演会を、これから開催させて頂きます。この協議会では毎年3回の講演会を実施しておりますけれども、去年あたりから年間を通しての人権教育の共通テーマを設けた方がいいということで、奈良女子大さんが去年はテーマを立てられました。

本年度もこの協議会と致しましては、『学生の人権を尊重した大学教育のあり方』というものを共通テーマとさせて頂きました。当然、大学教育において学生の人権を尊重することは言うまでもないことなのですが、昨今の複雑化した社会だとか学生の多様化というものが進んで、改めて人権を尊重した教育をどういう風にしたらいいか。

具体的には今日もお話し頂くことになる

うかと思うんですけれども、例えば学生に厳しく接しようとしても、その教育熱意とは裏腹に「何でそんな風に叱ったりするのか」と逆上したり、いろいろあって、教員の側もすぐパワハラだとかアカハラだとか責められたりするのではないかと臆病になって、きちんとした指導ができないという状況もあると聞いております。

それで、今後学生の人権を尊重する教育の重要性を理解した上で、学生に対してどのようなことに留意してどのような教育をしたらいいか、或いは人的にどのような接し方をしていったらいいかを、共通して考えて参りたいと思っております。

それで今回は、有限会社ハートプロ 代表取締役の河村晴美先生をお招きして、『「厳しく指導する」ということの問い直しと実践』と題して、実践的な叱り方になるかと思いますけれども、ご講演を頂くことと致しました。

河村晴美先生のプロフィールを簡単にご紹介させて頂きます。お手元に資料があります。全部は読み上げませんけれども、東久邇宮平和賞等著名な賞をいくつもお獲り



になられ、最近ではNHK『クローズアップ現代』、ここにも書かれていますが読売テレビ放送等で取り上げられて、「叱りの達人」ということで、社内教育等でご活躍されていることが報道されております。そのことについてのご業績、著書も多く出版されています。

また本学に置かれましては、学生の就職支援にご協力頂いております。マナー講座で言葉遣いやお辞儀の仕方、そういったことを学生に指導して頂いて、学生からも大変好評を頂いているところでございます。私も河村先生と接する時は非常に緊張しまして、名刺の渡し方も「必ず両手を添える」とか、「お辞儀の角度は…」とか、一緒にお弁当を食べたこともあるんですが、ボロボロこぼすので食べ方に気を付けるようにしているんですけど、本当に所作の美しい、素晴らしい先生でございます。

今日は「厳しく指導する」「叱る」というお話が中心になろうかと思いますけれども、繰り返しになりますけれども、昨今の学生に対する接し方というようなことを今日のテーマにさせて頂きたいと思っております。

先生、どうぞよろしくお願い致します。

それでは、先生からご講演を頂きまして、時間がありましたら皆さん方から質問を頂いたりして、15時30分閉会を目途に進めさせて頂きたいと思います。

先生、どうぞよろしくお願い致します。

河村：

では皆様、改めましてこんにちは！ただ今ご紹介に預かりました、私は河村晴美と申します。本日は皆様の貴重なお時間を頂戴しておりますので、精一杯お伝えさせて頂きます。改めまして、どうぞよろしくお願い致します。

先生方、拍手を送ってくださるのはありがたいのですが、学生の人権尊重はもちろん大切ですが、それは学生のみならず…ですよね。相対する人全てにおいて相手様を尊重する、敬意を表する。むしろもっと言うと、「学生だからぞんざいにして良い」とか「適当にして良い」とか、年下とか年上とか、役職があるとかないとか、そのような差別をすること自体が些末なことですよ。

どなたかと何かをする。もっと言うと、その場で一緒に共有をする。そうすると当然のことながら、自分自身が挨拶をする。この基本的なことを毎日毎回繰り返すことによって、特に学生が「あ、この先生は、教える側・教えられる側の立場は違えども、未熟である自分のことを教えて導こうとして下さっているんだ」というのを、相手が皆様の振る舞いと対応の仕方を感じるものです。

だからこそ、毎回のきちんとした挨拶、そして相手を慮る言葉遣い、これがいざ厳しいことを言う時に、信頼関係が構築できているのか、それとも普段はそのようなこ

とをきちんとしていないゆえに、厳しいことを言われたから「パワハラ」というように相手が思うのか。つまり全ては、事前の仕込みですから。

「ハラスメントに当たるキーワードがある」とか、「この言葉を言うてはいけない」とか、そんなテクニック論は、きつとこちらにいらっしゃるアカデミックな先生方ほど、本質からずれた話はきつと嫌がられると思うんです。

テクニックではございません、本質論です。ということは、厳しいことをお伝えするのが指導者の仕事です。そこから逃げているということは、怠慢であり手抜きですよ。こちらにいらっしゃる先生の皆様は、学生達に指導して「伸ばしたい、もっと成長して欲しい」ときつと思っていられっしゃる。

けれども、宮下先生が先ほどおっしゃったように、躊躇なさったり遠慮があったり、「本当は言うて伸ばしたいんだけど、ちょっとこれを言うてハラスメントとか言われるのではないか」とか、「嫌われるのではないか」とか…というように、先生方ご自身の保身・エゴというようなこともちょっとないまぜになって、遠慮してご指導を行っていない。

きつと、そのジレンマに立っていられっしゃると思うんですよ。皆様の「学生を育て上げたい」というお気持ちがかちんと学生に届くように、何を最初に仕込むかと言う

と、「人としてきちんとかつする」ということですよ。つまりは、「挨拶をする」ということです。その辺を、何かさぼっていらっしゃいませんか…というところなんですよ。

はい、じゃあもう1回挨拶から行きましょ。私が「よろしくお願ひ致します」と言うので、皆様も気持ち良くご挨拶をお願ひ致します。…では行きましょ。はい、それでは背筋を伸ばして…よろしくお願ひ致します！

**全員：**

よろしくお願ひ致します。

**河村：**

この一連で、(毎回の大学での) 90分講義を始めています？私は奈良教育大学でキャリアデザインの非常勤講師を、本当にありがたいことに…4年5年ぐらひです、させて頂いて、全員学生を最初に立たせますから。

だって、こちらの本学で学んだ学生達が小学校・中学校・高校へ行くとなると、どんな児童と生徒を育て上げるのかと思うと…先生がやっていないことを児童や生徒に「やりなさい」、それは横暴ですよ。それこそ暴力ですよ。上からの威圧ですよ？

先生がなさっていられっしゃるから、「あなた達もやりなさい」が言えるんですよ。立場が上下だからと言って、下の方に対して

有無を言わず命令をするというのは、それは横暴です。

ただし、口調はさまざまでよろしいかと思えます。「やれ」と言ったっていいでしょうし、「○○しなさい」と言ったっていいでしょうし。ただそれをその人が行う責任があったり、または義務があったり、または行うことによってのメリットがあったり効果があったり、つまりその人がそれをする良きことがない限りは、本人は本心からやろうとは思いませんよね？

なので、こちらの奈良教育大学の学生は、ほぼほぼ学校の先生になる学生達ですから、皆様が先生として授業で生徒の前に立った時に、「ああ、1年間この先生に学んで良かったな」と思って頂けるそのためには、挨拶が大事。人とちゃんと共有するために、コミュニケーションを取ることが大事。相手に思いやりを持つことが大事。

そして、教える側は情報を伝達する側ですから、一斉に1回で情報が届くように適切な声で届けないと、生徒さんや児童さんは先生の話の内容がわかる・わからないの前に「聞こえません」…て、一番効率が悪いですね。

だから、最近の学生は小さな声で話す人が多い訳ですから、一斉に1回で情報が届くように、「自分が恥ずかしい」「自分の声が小さい」…それこそエゴです。相手のために話をしましょう、ということで挨拶をさせていると伺っております。

では、本日は限られたお時間でございますので15時30分まで、皆様の…何て言うんでしょう、アカデミックな世界の先生方とは少し違う立場ではございますけれども、1つでも2つでもお役に立てるような形でお伝えさせて頂きたいと考えております。

では早速ですが、こちらの前のスクリーンに載っているところで…まず先生方皆様に質問をさせてください。学生とのコミュニケーションに関しまして、課題やまた解決すべきことがあるとすれば、さて、それは何でしょうか？先生方皆様が考えていらっしゃる、または思っている問題意識ですね。学生とのコミュニケーションに関して、課題…「ああ、これは解決しないといけないな」…さて、それはどんなことでしょうか？

限られたお時間ですけれども、折角の機会なのでお近くの方、2人もしくは3人1組で、「こういうのがありますよね」というようなことを、本当に1分間でお互いにシェアをしてください。先生方、おわかりですよね？ご自身の名前を名乗って、「よろしくお願い致します」で、こちらを1分間をお願い致します。では…目と目を合わせて頂いて…こちらは前後でお願いします。

先生方、よろしいですか？「よろしくお願い致します」で始めてください。はいどうぞ。

はい、ではお時間です。切りのいいとこ

ろでやめてください。…そうですね、当然「ありがとうございました」で終わってください。

さあ、今いろいろとディスカッションなされたと思います。本当でしたら、お時間がございましたら、5人ぐらいに皆様に向けてご発表頂きたいところですが、本日は限られたお時間ですので、まあまきと先生方、そして職員の皆様、「このようなことを思っているのではありませんか」と、ちょっと代弁させていただきます。

今回が「学生の人権尊重」というテーマでございますので、学生とのコミュニケーション…先ほど私が言いましたことも、ほぼ含まれているのではないのでしょうか。「厳しいことを言わなければいけないけれども、どう言ったものかな」だったり、「ハラスメントというように、誤解されるんじゃないだろうか」だったりとか、きつとそういうところで先生方、そして職員の皆様も非常に苦慮なさっているんだと考えます。

よく言われるのが、「最近の若い方はほめられて伸びる、だからほめて欲しい」…というようなことを、ダイレクトに言わなかったとしても、まあ概ね「叱られる」という人より「ほめられたい」という人の方が多いですね。

で、私が大学生に、または民間の企業で今…主には99.9%は企業で、行政機関も含めまして、社会人の組織の中で、人材育成

というようなことをお手伝いさせて頂いておりますので、新入社員研修だったり、若い人の研修だったり…となると、「ほめられて伸びるタイプなんです」というようなことを言ったり言わなかったり…そういった方が多いというか、何人かは直接そのようにおっしゃる方もいらっしゃいますね。

さて、この「ほめて伸びるタイプ」…というように若い人達がおっしゃったとして、また学生がそのようなことを冗談でもおっしゃったとして、それを聞いて皆様はどう思われますか？「ああ、昔とはやっぱり時代も変わったから、ほめなくてはいけなんだな」と思ったならばですよ、それは間違っています。

「ほめられたい」という言葉を使っていたとしても、人間の本心はほめられたい訳ではないんです。「叱って欲しい」とか「叱られたい」という方も、稀にいらっしゃいます。

私の名刺に『叱るとは使命感の愛』と書いてあるんですね。お名刺交換をさせていただきますと、「河村さん、叱りの達人ですか。叱るって、例えば私を叱るってどういうふうに叱るんですか？」とおっしゃる方がたまにいらっしゃいますが、それはネタですね。

で、「叱られたい」という方を定点観測しておりましたら、共通点が見出されました。それは、「もっともっと伸びていきたい」

という成長欲求のある方、会社であつたら「挑戦したい」とか「自己突破したい」とか、そういう方々が「叱られるって大事ですよ」と共感を頂きます。…ということは、非常に少ないですね。

では、元に戻すと「ほめられたい」と言っている学生、まだ若い方は、あれは本心で何を言っているかと言うと、ほめられたい訳じゃないんです。私達人間が持っているのは…マズローの『人間の欲求5段階説』というのを、心理学の本でも、私もリーダーシップ研修で持っている、カウンセリングの勉強もしましたから、そこで学びました。

ただ私は、人間の高次元の欲求の捉え直しです。「ほめられたい」というのは「承認欲求」ですよ。でも人間は、何が一番自分の存在の値打ちを実感できるかと言うと、「世の中の役に立った」…この実感がある時に、「ああ、頑張って良かったな」と思うんです。

つまりは、シンプルに言う「ありがとう」と言ってもらいたいんですよ。それが証拠に、学生さんにアルバイトで…就職活動の時の自己PRのネタで「アルバイトを頑張っていました」という方が多いので、「じゃあバイトで何でその仕事をしているの?」。

…こちらの大学の立派な学生さん、奈良教育大学は立派です。そして私は母校の京都女子大学でも、非常勤講師をしております。そうすると、言ってみたら、塾の講

師とか家庭教師とか、時間給の高い仕事はいくらでもあるんですよ。

しかしながら、居酒屋さんとか飲食店とか、またはスイーツを売るとか、そういう接客業をするという学生さんもいらっしゃるんですよ。「じゃあ何であなた、そういう仕事をしているの?」と聞くと、「『ありがとう』と言われる。だから頑張るんです」とか「すごくやりがいがあるんです」とおっしゃるんですね。

いや、誠に純粹だな、と思いました。つまり私達人間は、自分の存在価値・値打ちは外側から感謝をされること、役に立つこと、つまり「貢献欲求」なんですよ。その貢献欲求に年齢が、横軸に加算していくということで、幼い時、小さい時に「〇〇ちゃんはいいい子よ」だったりとか、「かけっこが速い」とかももちろん「テストの点数がいい」とか、「友達にやさしいわね」とたくさん誉めてもらって、愛情が満たされて、内側がパンパンに満たされたから、表面張力が溢れるようにして、外側に対して愛が溢れるんですよ。

だから人間の存在は「世の中の役に立つ」、それが「組織の役に立つ」、大学であつたら「サークル活動やお友達の役に立つ」「友達にやさしくする」…そのように溢れ出るためには、内側を満たす…そのために「ほめる」ということ。だから、学生が「ほめられたい」と言っているんじゃないんですよ。「ありがとう」と言ってもらい



たいんですよ。

それが証拠に、こちらが学生としましたら、先生・職員の皆様は、圧倒的に年上です。立場が上でいらっしゃる。なので、上からこの人に対して言うと、「おお、頑張っているな」「頑張っているね」という風に誉めますね。でも同級生同士だと、皆様が同級生または同期生、同年代の人から「頑張ったね」と言われたら、どうですか？

私は大学生から、「先生、東久邇宮文化褒章、記念賞・平和賞を取って、河村先生頑張りましたね」と言われたら、「ちょっと違うんじゃないか？」と思いますね。

つまり、ポジションの違いなんですよ。圧倒的に上の方がこの方に対して、誉めたりまたは労ったり…でも同級生同士だったら、「わあ、〇〇さんすごいね。私も見習って頑張るわ」…ですね。下の方だったら、「先生ってこうやってキャリアを切り開いていかれたんですね。先生を見習って、私も頑張ります」ですね。

つまり、このポジションの違いで、この人が役に立ったかどうかのリアクション、フィードバックが私達は欲しいんですよ。それをシンプルに言うと、役に立ったかどうかのフィードバックが「ありがとう」の感謝の気持ち。…なので、もう一度言います。

若い方が、また学生さんが「ほめられたい」とおっしゃったならば、そこにこそ「叱る」または「厳しいご指導」が必要なんです。何でもかと言うと、世の中に出して、

たくさんの「ありがとう」を集める大人にさせていかなきゃいけないんですよ。

皆さんがレベルの低いところでお茶を濁すようにして誉めたら、「まあこんなものかな」と思うかも知れません。そうすると…ほめることも後ほど言いますがもちろん大切。ただそこで自己保身に走るとか、「もうこれ以上挑戦したりすると失敗するかも知れないから、もうここでやめておこう」じゃないんですよ。

世の中で役に立つ人材を大学として送り出す、そのために「もっとできるよ」と言わなきゃいけないんです。で、挑戦したら失敗もするかも知れません。…というか、ほとんど失敗ですね。その時に挫けたり傷ついたり、痛みを伴います。その時に必要なことが、「強さ」なんですよ。痛みを受け入れる「強さ」なんですよ。

その「強さ」を醸成させるには、ほめるだけでは絶対身に付きません。世の中に出たら、理不尽なことばかりだと私は思っています。その理不尽さに、打ち克っていかなきゃいけないんですよ。その強さはどこで身に付けるんですか？…厳しい指導の中にしかないですよ。

…というように、先生方が大局的にご覧になること、学生を見ることによって、適切にご指導するというところに…そこに遠慮があっては、指導者として、きっと皆さんの矜持に反すると思いますね。

本日お伝えしたいことは、今回は『厳し



くご指導…』というようなテーマでしたので、ここは叱る時だったらそのまま書きます、「叱る時には気を遣うより頭を使いましょう」。

「気を遣う」というのはどういうことかと言いますと、「学生を傷つけちゃいけない」という意味で、「この辺で誉めておくか」とレベルの低いことをすると、学生はこれで、間違った…できていないのに「できたのかな？」という勘違いが生まれるかも知れません。

なのでそれは、結果において「できたね」ではなくて、「今できるように努力しているのは立派なことだよ」とプロセスを労ったり誉めたりするんですね。むしろそのプロセスを応援することによって、やり切らせるということです。

そしてもう1つ「ほめる」というところで、「ほめる」ということと「甘やかし」は全く異なりますから。むしろ、「甘やかし」ということが×です。誉めることによってその学生が、自己肯定感であるとか自信を持つ、ここをちゃんと基軸にして、その上で叱って伸ばす…ということです。

なので、「誉める」ことがもちろんダメな訳ではありません。ただし、ほめるだけで人は伸びますか？…私は確信をもって言います、人は誉めるだけでは伸びません。なぜか…世の中は厳しさの中を渡り歩いていく訳です。自分の思い通りになることなど、全くないです。むしろ本当に、そのような

ところをちゃんと伸ばしてもらえなかったら、または直視する機会がなかったら、社会に出てから「こんなはずじゃなかった」と、大体就職活動からなんですよ、または会社に入ってから。

そうすると、どこで向き合わせるかと言うと、皆様がご指導の中で…もちろん職員の皆様も…というところが、厳しく指導することの最大の効果です。もう1つ、この「気」というところで行きますと、「気分」であるとかもっと言うと「感情」…つまり「気を遣う」というのは感情論…そうすると喜怒哀楽となると、「怒る」というのが入るかも知れません。「怒る」とことと「叱る」ことは全く違います。似てもないです。

「怒る」というのは、「怒る感情をコントロールしましょう」ということで、本などが出ております。私も読んで、「ああ、勉強になるな」と思います。「怒る」というのは…何て言うんでしょう、怒る側の感情発散…こっちはスカッとされるけれども、相手はどうでしょうね？

怒ることで、また罵倒することで、それで学生さんが動くんだったら、それはそれでいいと思うんですよ。けれども、限界があります。まして企業で、管理職の皆様が怒って部下が委縮したり、怒って仕方ないから、怒られたくないからやろう…それって、限界がありますね。

人間が一番パフォーマンスを発揮する時

はどういう時か…内側の動機づけ、内側で「よし、やるぞ」とモチベーションが上がったその時に、責任を持ってやり切るんですよ。…なので、頭を使うということです。

じゃあ、「頭を使う」ってどういうことか？と言いましたら、相手を成長させること…それは指導する側が、目標の達成ではなくてその目標の向こう側にある目的の遂行です。じゃあ「目標」と「目的」とは何か？と言うと、「目標」というのは主だって数字のことだと思ってください。「目標数値」というぐらいですから。

私は京都女子大学を出て、民間の企業で営業職に就きました。すると、目標数値を達成するために、営業職として頑張らなきゃいけないんですよね。で、人のやりがいは数字の…もっと言うとノルマの達成というところにはロマンがないです。そして、本当に頑張ろうという意欲は、「何のためにこの仕事をしているのか」…なので最終ゴールは目的、その目的達成をしているのか、またはしたかの指標が数字ということです。

そうすると大学の皆様は、もしかしたら職員の皆様は、就職というところかも知れませんが、ご指導をなさる先生方にしたなら、何かの数字で人事査定というものがあるのかも知れません。けれども、それは単なる指標なんです。一番向こう側の最終地点は「目的の達成」です。

じゃあ目的は何か？何のためにこの仕事をするのか？そして、誰の幸せのためなの

か？…です。そうすると、教員であられる先生方、多分一番臨場感…目的達成、目的遂行に現れるんじゃないだろうか。何かと言うと、教授の皆様のお仕事は何でしょう？教授の皆様の仕事の本質は何ですか？

きっと、皆様ご自身が研究していらっしゃる、この知の、知性の継承ですよね？自分が究めてきたその研究を、次世代に委ねてもっと発展させたり、もっと人類の発展に貢献したり、知の探究だったり…そのバトンを渡すことが、教授であられる先生方の一番なさりたいことではないですか。

そして職員の皆様は、折角我が大学に来てもらったんだから、4年間または6年間…また他の在籍年数もあるかも知れませんが、「この大学に来て良かった」と胸を張って、そして世の中に貢献する人材を送り出す…ということですよね？…この目的です。

じゃあ、この目的を遂行するそのために、頭を使うのが厳しい指導、もっと言うと叱り方でございますので、目的遂行のためには逆算思考ですよ。目的はどこ？ゴール…そして逆算をすると、どういう積み上げをしますか？…そうすると、怒るのが得策なんですか？学生を委縮させるのが、それはメリットがあるんですか？…多分違います。

そして先生方、そして職員の皆様も、「ハラスメント」ともし学生がそのように考えるのであったら、誤解を招いているということは、あまりいいことではないと思いま

すよ。なので、この「逆算をする」ということは、「出口戦略を意識して行動そして行動をマネジメントしましょう」ということが、叱り方です。

こちらにはいらっしゃらないと思いますが、「怒る」というのは多分ノープランですよ。自分の腹が立ったから言っているということは、何も理性がないです。

出口は何か…叱る目的です。また、厳しいご指導をする目的です。そうすると、今申し上げましたように、教授の皆様そして職員の皆様、それぞれの仕事に照らし合わせるならば、本質的なところは何かということ、学生が心が折れた、自信を失ったとなると、本末転倒ですよ？ゴールから離れるばかり。

そうすると、もう一度厳しい指導の目的、叱る目的…これはもうシンプルですよ。学生を成長させるためです。自信を持たせるために、厳しいご指導をするんです。…なので、今一度申します。心が折れたとか自信を失ったとか、やる気がなくなったとか…というのは、本末転倒です。実にもったいない。

先生方、そして職員の皆様も、学生達にそのようなことをさせたいと思っていないにも関わらず、何か捻じ曲がっているんですよ。要は、きちんと皆様の真心が伝わっていない…実にもったいない。

そうすると、皆様の真心をドンピシャに、学生に真っ直ぐにお届けするために、自分

自身の振る舞い…つまり非言語のところと発信する言葉、つまり言語をマネジメントしませんか？…ということです。

その中の1つとして、「挨拶」ということです。先生方、そして職員の皆様にマナーであるとか躰であるとか、そのようなことを伝えるつもりは毛頭ございません。振る舞いを整えるということは、人の前に立つ方ほどとてもシビアです。つまり、企業で言うとトップです、経営者です。

株式を公開していたら、社長の一挙手一投足で株価が上下するんですよ。キャリア教義の中で、残念ながらもう亡くなってしまいました。プレゼンテーションの達人として、Appleを創業なさったスティーブ・ジョブズ氏、皆様もYouTubeなどでご覧になったことがあろうかと思います。あのスティーブ・ジョブズ氏、もう実に流れるように美しく、そして語りかけるようなライブ感で、Appleの商品をプレゼンテーションするんですよ。

本当に、今思いついたかのようにライブで自然体で、またアドリブを入れながら…のように映りますが、あの10分・15分のプレゼンテーションにスティーブ・ジョブズ氏は、3ヶ月前から毎日トレーニングをするんですよ。それぐらい、自分の一挙手一投足がどれだけの波及をするか、ということの自覚があるからです。

自分自身の振る舞いとそして発信する言語、それをノープランの垂れ流しというこ

とは…学問に携わる皆様でございますので、「それは考えていない」というのは、まずないと思います。

どのような言葉を使って、そしてどのように振る舞って、そして最終的には、学生達に厳しいことを言っても、学生達に「やっぱりあの先生が言ったらぐうの音も出ない。あの先生が言うのは、確かにそうだな」と納得してもらうために、皆様が戦略をもって伝えるということです。

なので、厳しい指導の目的は「学生を成長させるため」です。「自信を付けさせるため」です。そしてもっと言うと、「誰から言われたいか」ということですね。

なので今一度…皆様にはそれぞれのゴールがあらうかと思います。学生をどこへ導きたいのか…それに到達するように、逆算したご指導の仕方、教育というのをなさっていらっしゃるのでしょうか？

ではここで…何だか本当に、先生方だったり職員の皆様を前にして、「この人、自分の好き放題話して…」と多分反感を買っている時だと思います。ちょっと自分自身の実例をお伝え申し上げます。

私が9年前に、大阪府の若者の就労支援事業というところで、指導教員、教官と言うんですかね、させて頂きました。その9年前当時は、大学生の就職が非常に困難でして、「超氷河期」と言われた時なので、大学生の皆さんの多くの方が正社員就職ができずに、フリーターになったり、もっと

言うと就職がうまくいかないからニートになってしまった、そういう時代背景でございました。

その時に大阪府が「これはいけない」ということで、府として「フリーター・ニート対策」ということで、「正社員就職をさせるぞ」というプロジェクトが立ち上がりまして、そこで私は営業のトレーナー、教員として関わることをさせて頂きました。

その時にこの調子で、1年間12ヶ月の中で3回で1タームなんですね。だから4期行ったんですが、3ヶ月間ここで訓練をすると。その時に受講生、訓練生と言いました…訓練生の皆さん達は「何か、ここに来たら自分の未来が開けるんじゃないだろうか」という気持ちと、「何だか『叱る』と言われて、めちゃくちゃ厳しい人が担当みたいだけど、大丈夫か、ついていけるか？」という、今どきの繊細な気持ち、心を持っていらっしゃる若者20人ぐらいが、3ヶ月ですから每期いらっしゃるんですよ。

その時に本人たちにも、「3ヶ月後の自分のゴール設定をしなさい。私もゴール設定をします」と公表しました。それは、大学時代に内定の通知を1社ももらったことのない人達です。見たことがないんですよ、自分の内定通知を。その彼らに対して、この3ヶ月の間に「自分に内定通知を3社もらおう」、皆さん20名1人ずつ3社内定を頂く、そこまで私が育て上げて送り出すのが自分のミッションだと思って、「そうする

ためには厳しい指導をします」と最初に言いました。

ただそれは、私のエゴではない。訓練生である皆さんが3ヶ月後、それぞれ就職なさってその時に「河村が一番うるさかった。あんな鬼みみたいな人、この職場はみんな上司が仏に見えます」と思えるように送り出す、というのを宣言しました。

…で、平均しましたら2.5社ぐらいもらいました。営業のコースが一番内定率が高かったです。ちなみにある時は総務、ある時は経理、ある時はWebデザインコースとかがありました。あと英検何級という規定があつての貿易事務のコースもございましたが、営業コースが一番内定率も高く、就職ももちろんのことながら100%で送り出しをしました。

その時に来ていた彼が、久しぶりに…9月の末ぐらいです。SNSで連絡がありまして、「河村先生、ご無沙汰しております。おかげさまで、今仕事はとても順調です。つい最近は、役員表彰も頂きました」といううれしいメッセージをくださったので、「久しぶりですね。じゃあ会いましょうか」と言ってお会いしました。

そうすると、彼がです。「いや、河村先生、実は僕は注意欠如・多動症つまりADHDです」と言うんです。先々月の9月です、そのようなことをおっしゃったんです。若干、私は冷や汗どころか汗が出まして、9年前私だけが知らずに厳しいことをバンバン言

いながら、彼のメンタルは大丈夫だったのであろうかと…就職はしたものの。心配したんですが、彼は9年前は自分自身で自覚がなかった。あることがあつて心療内科に行ったところ…鬱病ではなくて適応障害かも知れませんが、診断の結果は注意欠如・多動症（ADHD）の軽度であつた、ということがわかったんですね。

もしかしたら皆様の中に、「メンタルが落ちて病院へ行って、このように公表しているということは、手帳をもらって何かの…国からの補助であるとか、または何かの優遇が得られるようないいことがあるんじゃないか」と思うかも知れませんが、なぜその病院へ行ったのかというのも、皆様はびっくりされるかも知れません。私もびっくりしました。今時、漫画かドラマのような世界があるんだなと。

何かと言うと…ちなみに今2社目に行つて、転職をなさいました。1社目の大阪府若者就労支援事業で本人が選んで入ったところ…全体の会社としては立派だったと思います。でも大阪支社の…10人に満たない大阪支社の支社長か、準支社長なんですかね…その方が応接室に呼び出して、何時間も罵倒するかの如く叱責…指導の域を超えているぐらいに厳しく怒り続けた。そしてもう1つは、スリッパで頭を叩く。

「いや、それ暴力でしょう」と言いました。それでも彼は、ずっと続けたんですって、3年半ぐらいですかね。むしろ私は、「よ



く辞めなかったね」と聞いたんです。そして彼が、「自分は奨学金を返さなければいけない、つまり稼がなければいけない。だから頑張った」と。

今は同じ業界の…BtoCのこういった消費者が見えるものではなくて、本当に企業間同士の仕事をしています。工業系の素材を扱う法人営業です、アルミだとかそういう鉱物の。それを製造業に提案してご契約を頂く、という法人営業なんですね。これを同じ業界の中で、今は立派な会社に転職して、非常に快適にお仕事をしている、という話でした。決して1社目が嫌だから辞めたのではないです。むしろ、「もっと早く辞めても良かったんじゃない？」と思ったぐらいです。

その彼が久しぶりに会ったその時に、ありがたいことに「河村さんの大阪府の事業のおかげで自分の人生は開けた」と言ったんですね。本当に、就職活動をしていても大学生の時は全く手応えが感じられない、落ちてばかりです。そうすると自信を失う…それはそうですよ。自分は社会にとって役に立たない、もっと言うと要らない人間なんじゃなからうか…と思わなくてもいいことまで思って自信を失うのが、就職活動中の一時的な学生さんですよ。

で、営業コース3ヶ月間…その中で本当に一生懸命なさせて、こちらも厳しい指導をしました。具体的に言うと、飛び込み営業をさせたんです。指導者である私はどこ

にいたのかと言うと、彼が来たのは2期目ですから多分…4・5・6月ですから7月8月9月の真夏、そこで御堂筋のあのビジネス街で、外回りの飛び込み営業をするんです。

私は後ろからついていきながら、このような形の書類を持って、一緒に汗をかきました。彼はその時に、私が一生懸命頑張っている彼を「昨日よりも今日、これができるようになったね」、また「7月に入った時はできなかったことが、8月の今こういうことができるようになったよね」というように、できることになった、成長した、その具体的なことをフィードバックする、これが即ち「誉める」ということです。

それをしながら、それをしてある時、人間やっぱりアップダウンって当然ございます、テンションの。その時に疲れが…水曜日とか木曜日とか、その時に朝一番に自分で目標を立てさせるんですね、「今日は何社ご挨拶に上がる」と。昨日は「自分は60社行く」と言って62社を自分で訪問して終えていたにも関わらず、その日は「昨日62社行ったから今日は70社行く」と朝一番で自分で目標を立てたにも関わらず、夕方、学校というか建物、オフィスと言っていると思いますが、そこに帰る道々、まだ時間があるんですよ。けれども「今日は70社」と朝一番本人が立てた目標にも関わらず、58社ぐらいで「先生、もう今日は早くオフィスに帰って、振り返りを自分でノートにま



とめたいからもう帰りましょう」と言ったんですね。

そこで、御堂筋の道で、こんな感じで滔々と言いました。それが何かと言うと、「あなたが6月に入った時は、できなかったことができるようになった。そして7月には、こんなことができるようになった。そして8月の今は、このようなことに昨日も挑戦して行った。にも関わらず、今日4時まで時間があるにも関わらず、3時15分…あと45分あるにも関わらず、『今日はこれでやめましょう』…どういうことか」という風に、道端でこんな風にして言いました。

で、卒業するその時に「いやあ、皆さんよく耐えました、こんな鬼みたいなことに」その時に彼がおっしゃったのは、そして先日もおっしゃったのは、「自分達は『叱られた』とは思っていない」と。叱るその一手前の前段ですね、それは「あの時こんなことを頑張った」「あの時あなたはこんな風に創意工夫した」「あの時あなたはこんな風に挑戦をした」…全て努力していたことをこちらが伝える。つまり「全部自分が忘れていることすら覚えていて、そして肯定的な表現をしてくれて、誉めてもらっていた…というように受け止めていました」。…こんな風に、自分自身が努力していること、そして伸びてきていること、成長していることを見てもらうことが、非常に少なかった。なので、「そのトレーニング中の3ヶ月間、メンタルダウンすることがなかつ

た」ということです。

ではここから、叱るという、また厳しいご指導をする。その時には、事前の仕込みがあります。これが、信頼関係をしっかり構築しているその人間関係があるから、厳しいことを伝えたその時に相手は「指導してくださっている」と肯定的に受け止めます。

ちなみに管理職研修では、部下のやる気を引き出す正しい叱り方をお伝えするための「叱り方研修」です。で、部下になる方…つまりそうですね、部下になる方ですね。そちらはそちらでも、研修の場合、上司が叱ることが上手になるだけだったら、部下がどう受け止めるか、これは未知数ですよ。なので、ワンセットです。

なので、部下に当たる新入社員、まだ若手の社員の皆様には、「叱られる作法がある」ということで、「叱られる作法」の研修をしております。それが即ち、シンプルに言うとか何とかと言うと、「上司がやってくださることを肯定的に前向きに受け止める力を作りましょう」または「力を見つけましょう」ということです。

その前提がある中で、叱る側として今回お伝えしますのは、「まず人間関係・信頼関係を構築しておく」ということですね。ですから、いくつもあるポイントの中で、今日は限られた時間ですから、3つほど。

まず1つ目の「事前アナウンス」。例えば先生方、または職員の皆様が「これをやっ

てもらったら困るんだよな」というのがございますよね。それは事前に言った方が、効率がいいですよ。例えば、企業におりましたら、良かれと思って気を利かせたつもりで何かをした。そうすると上司が「河村君、これをやってもらっちゃ困るよ」、もっと言うところ「こんなことをやっちゃダメじゃないか」と言われることがありました。

だったら思うんですよね、気を利かせて…何て言うんでしょう、「自分で積極的に、能動的に動きなさい」と言われたから、一生懸命行ったら「ダメ」と言われたんですよ。ああ、そうかダメか。じゃあ積極的にこっちをやってみたら、それも「ダメ」と言われる。…いや、「ダメダメ」と言われたら、「じゃあ何をやったらいいんですか？最初にダメなことを言っておいてよ」と思うんですよ。後出しじゃんけんはずるいな、と私は思いました。

そしてご指導をする側も、出してもらってダメ、出してもらってダメと言うのも面倒臭いと思いませんか？だったら最初にダメなことを言っておく、というのが…「規則やルールがあるのだったらそれをちゃんと共有しておいてください」というのが、一番効率がいいです。それが、会社や仕事においてのマニュアルだったりルールだったりするんですね。

東京ディズニーランド、ルールであるとかまたは規則であるとかと真逆の…真逆の夢の世界というような職場と思いきや、行

動基準というのが明確にありますから。あそこはほとんど正社員じゃありません。

「キャスト」と言われる、パート・アルバイトさんで成り立っている職場です。そうすると全体研修もOJTではなくてOff-JTの研修で、みっちり仕込むんですよ。それは、各自のポジションに行った時に、自分で判断が利くように。その「判断が利くように」ということを、会社のルールをしっかりお伝えするから、自己判断で的確に適切に、会社の指針と同じことが現場でできるんですね。

それを教えずして、良かれと思ってやって、ダメだったと…統率が全然できていません。なので、「優先順位は何か？」なんですよ。

東京ディズニーランドさんのことがちょっとあったので事例として言いますと、エンターテインメント、夢の世界ですけれども、何はさておき一番重んじてもらいたいのは何かと言うと、「安全優先」。なので、ジェットコースターの係の人はお客さんに楽しんでもらうのを優先するのか…ではなく、「命の安全」なんです。だから、「あ、ちょっと機械がおかしいな」と思うとストップしていいというのが、ちゃんと現場のキャストさんに権限委譲されているんですね。なので、行動の優先順位、ルールというものを最初にお伝えすることです。

そして、特にご指導なさる教授の皆様…多分皆様は厳しくお伝えする、だけど学生

にしたら早く答えを教えてください。…  
というような、学問に対する認識のギャップがあると思うんですよ。

私は、最近は学生から随分離れていますけれども、学生時代はどうだったかと言うと、先生は白なのか黒なのか、または○なのか×なのかを言わないんですよ。そうすると高校生までだったら、テストで正解があって○が付いて、そして復習したら次ができる…というようなことをずっと高校までやってきたものですから、先生の発言が何かグレーゾーンでよくわからない、「つまりこれは先生、どういうことですか？教えてください」…じれったいんですよ。

でもきっとそこに、学問の尊さがあるんですよ。それを、例えば「教授の指導は親切じゃない」とか「学生思いじゃない」とか、または「わかりにくい」とか、もしかしたら言われていらっしゃるのではなかろうかな…と思います。…いかがでしょうか？

でも、先生こそ学問の尊さをご存知なんですよ。私は本当に、今だからようやく思います。先生方ほどわかっていませんけれども、でも高校生の時の勉強と大学の勉強は明らかに違う。大学に入ってから勉強というのは、わからないものに対して向き合っていて、こうかな、ああかなともややしなから一歩でも二歩でも研究または探求、それを突き詰めていこうというところにこそ、学問の尊さがある。きっとそうなんじゃない

いかな…と今ようやくわかります。

でも学生時代は、それがまどろっこしかったりとか、または先生が解答を逃がっているんじゃないかと、生意気なことを思っていたんじゃないかな…というように、皆様の大学の学生さんは優秀かも知れませんが、ダメダメ学生はそう思っていたんですよ。

となると、先生方は「わかっていない。ここにこそ、このもやもやだったりこうかな、ああかなと仮説を立てながら行っていくのが学問の尊さで、その真理に到達することが本当に学問を究めていくことの美学である」…というようなことをきくと…私が今言ったことは、先生方のごくごく一部だと思います。

でもそれが学生さんに認識できていないのでありましたならば、それこそ事前アナウンスですよ。何かと言うと、先生の学問の尊さであるとか、探求する美学というのを…ゼミの中のお話なのか、または90分の講義なのか、そういうところでお伝えなさってみてはいかがでしょうか。

1対1で伝えるのは先生も時間がかかると思うので、手間がかかると思いますので…それが話せるのであったら話してくださったら当然いいですよ。学生も、言ったら1対1で教えてくださるのが一番心に響きます。けれども、それが先生方の効率…と言ったら変ですけど、講義の中に先生の専門性と同時に、俯瞰して知性とは何か、

教養とは何か、そして学問とは何か…「ここにロマンがあるんだよ」と言えるのが、私は先生方しか言えないことだと思います。

なぜかと言うと、研修の中で私はそういう風にやっているからです。仕事の醍醐味とは何か、仕事の美学とは何か…ということを書いておけば、「ああ、こういうことがこの人は言いたいんだな」というのがわかります。

なので、そういう意味では普段から…1回で伝わるなんてまずないですからね。毎回毎回、90分のどこに織り交ぜるか。またはゼミの、学生さんのディスカッションに、事前に「こうして欲しい」という要望などもお伝えしておくこと。この事前の要望というのが、例えば職員の皆様だったら、「期限通りに持ってきて欲しい」というのは、遅れてくる前にまず渡す時に「いつまでに」というのを徹底して、事前にお伝えするということ。

そしてもう1つ、「これはダメ」「これはダメ」というのを後から言うというのは、ネガティブな話でもございますので、言う側もストレスが溜まります。一番いいのは事前に「これを期限内に出して欲しい」、そしてもう1つはなぜそれをする必要性があるのか、なぜそれが大事なのかという理由ですね。

得てして私達は、「これをしてください」「あれをしてください」というように、指示だけをシンプルに短く言うことが多いん

じゃないでしょうか。でも私は今、東久邇宮文化褒章だったりとか、平和賞だったりを受けているあれは何かと言うと、3歳の時から母が書道を教えておりましたので、書道をしたその筆で…大した話じゃないんですけれども、フランスの方が大阪府にいらっしゃった時に、そこで毛筆で何かをしたであるとか、そういうことを評価頂きまして、賞を受賞した…というところなんですけれども、それをもって今、幼稚園・保育園に習字をお伝えに行っております。

「子供だからわからないであろう」とか思ったら、大間違いですね。子供だってわかります。「伝わらないかな」…難しい表現はしません。けれども、1対1の対人間として、なぜ筆をお道具の箱の中に置かなければいけないのか。なぜ筆を立てなければいけないのか…ということを語ったら、聞いていますよ。どこまで理解しているかはわからない。けれど、「何かこれには大事そうなことがあるんだな」と、子供だってわかります。

…ということは、「なぜそれが必要なのか」ということを毎回毎回説明すると、時間がかかるかも知れませんが、職員の皆様も。しかし、そこを端折って「いいからやりなさい」というのは…どうですか？横暴ですよ。それこそ人として、相手に咀嚼をする力、理解する力、思考する力があると思ったならば、理由を明確に述べる方がむしろ、「だったら、もっと早く出した方がいいな」

だったり、「だったら、これはボールペンで書かなければいけないな」だったり、「だったら、相手様が読めるように箇条書きで書いた方が良さそうだな」とか、創意工夫をするのが人間ですよ。そうすると、指示がなくなるかも知れないんですよ。

というように、まず叱る前の仕込みと致しまして『事前のアナウンス』、これが作業効率が一番いいです。そして、毎回伝えることによりまして、発信する側の価値観が伝わると、相手に「この先生はこういうことを重んじているんだ」、職員の皆様は「こういうことをやってくれと言っているんだ」…むしろそのようなことを自律して考えさせる…それが、就職活動に入る前に、もっと言うとインターンシップとして社会や職場へ送り出す前に、大学としてやらなければいけない躰ですよ。

では続いて、『良き点を伝え改善点を応援する』。よくこういうことを言われませんか？…言われませんかというか、学生とか若い人達が「重箱の隅ばかりつついて…」「できていないことばかり！」…でも重箱の隅をつつくというのは、別に細かいところを言っているだけなんですよ。しかしながら、どうしたってネガティブな、マイナスの感情が貼り付く表現になってしまっていますよね。

けれども、細やかなところに、またはみんなが見過ごしてしまいそうなところに着眼して気づいて、そして言語化して伝える

…ここはフラットですよ。でも何で、悪いことばかり言うんですか？それは、バランスが悪いと思いませんか？

順番です。学生さんに厳しいことを伝えたその時に、学生にオープンマインドで素直に聞き入れてもらう、それがゴールだとしたならば、順序をマネジメントしましょう。いきなり厳しいことを言う、または厳しいことばかり言うことは、作戦としていかがでしょうか？…ということです。

相手がオープンマインドになるということは、「この人、私のことをわかってくれている」と思ったら、厳しいことを言われた時に「確かにそうだ」と頷きますね。つまり何かというと、肯定的なものも発見しないと、バランスが悪いですよ。

細かいところで、「君は本当に字がきれいに書かれているから読みやすい書類だね」だったりとか、またはレポートでも内容を読む前にまず整然と、フォーマットが美しくなっている。「ああ、君は本当に最終形の美しさ、美しいレポートとして仕上がっているね」だったり、または結論から先に出るとか、または「この表現は秀逸だよ」だったりとか。

つまり何かと言うと、良い点を見つけて光を当てることも大事なことです。これをもって一隅を照らすということです。その子のことを皆様は観察して、気づいていらっしゃるかと思います。けれども、言語化して伝えていますか？…ということですね。



「いや、それは言わなくてもいいでしょう」とも思っていらっしゃるんだったら、学生さん、相手はそれにYESを出したんですか？…ということです。「言わなくてもいいでしょう」というのは、皆様の自己判断かも知れません。

人間も動物ですから、どういう記憶が本当に骨身に沁みるかと言うと、命を長らえさせるために危機に陥る時。要は、危機管理の時ほど記憶に残りますね。だから、傷つけられた時が一番記憶に残る。

…ということは、誉めることと叱ること、これをもし先生方、職員の皆様が1対1で行っていたならば、多分誉められた時のことの方が忘れることが多いですよ。傷つけられる時の方が、強烈に來ます。だから、1対1ではなくて厳しいことを言う。そうすると事前・事後、前後におきまして…つまり普段のコミュニケーションですね、10倍肯定的な言葉を使ったら、「あの人は私のことをちゃんと見てくれている」、だから厳しいことを言われても「確におっしゃる通り」と思います。

なので皆さん、10倍肯定的なことをお伝えする。そのように意識なさっていると、3倍ぐらいい言えると思います。で、それを誉めること、誉めること、誉めること…ではないんです。「あなたがそこに存在しているということを、私はちゃんと認識していますよ」…これが何かと言うと、気持ちのいい挨拶だったり、また名前呼びか

けたり、または何か頑張っていることを労ったり…つまり、「ありがとう」ということもそこに含まれることです。

何も、いつだって誉める必要だけじゃないんですよ。「助かった、ありがとう。次も頼むね」…これだけで3回言いましたからね。…ということで、『良き点をまず伝える』という順番、その後で改善点なので、「ダメ出し」ではありません。

弊社でアンケートを取りました。「こんな言葉で叱られたい」というアンケート。その中で、「こういう言われ方をすると気持ちが萎える」というワースト3の中でまず1つ目、それが…3つの中の1つとして、失敗したら本人は自覚していますよ、「しまった！これはみんなに迷惑をかけてしまう」その自覚がある。だから、その時叱られるというのは、ちゃんと自覚をしているからOKなんですよ。

だから、決して「叱られたくない」と言っているんじゃないんです。自分が失敗したら叱られて当然だと受け入れたいですよ。ただし、こんな叱られ方は嫌だ…それは何かというと、「ダメ出しばかりで代替案がない」ということです。「それはダメじゃないか！」「ダメじゃないか！」「ダメじゃないか！」と来たら、思いますよね、「じゃあ何をやったらいいんですか？」って。

なので「こうやったらいいよ」、例えば緊急の場合でしたら「とにかく今すぐこれをして」と言われた方が、何かをやりた



い、改善行動を取りたい…けれども自分で改善策が見出せない。または、何をしたいのかわからない。だから、立ち往生またはフリーズしているんですよ。

その時に「とりあえずこれをやって」…企業だったら特に、そしたら「かしこまりました、まずはこれをやります」…そして、終わってから振り返りをしましょう。なぜこんな事態になったのか、そして振り返りを何のためにするのかと言うと、失敗からこれを教訓にして、二度と同じことを繰り返さないために「ここで学びましたよね」と、マイナスであったことを次はできるよ、とちゃんと消化させておかないといけないんですよ。

なので、ここは「ダメ出し」ではなくて「改善点を本人が見出す」という意味では、コーチング的に「今すぐ何をやったらいいと思う？」という質問もOK。けれども、そのような失敗が初めてだったという場合だったら、「どうしたらいいと思う？」と聞くのも1つですけれども、「まずはこれをやって」とティーチング、教える…そして行って頂く。そしてやり切った、やり切らせた後で、「とりあえず何とかかなりましたね。さて、じゃあ一緒に振り返りをしましょうか」として、苦手意識を克服させておかないといけないですよ。

だから「順番」、そして「どうやって自信を付けさせるか」…いつだって、やり切らせることです。

そして3つ目は、もう先ほどから何回も言っている通り、『人として敬意を表する』。こちらにいらっしゃる先生方、職員の皆様にはそういったことはなかるうかと思いますが、学生だからとして、年下だからとして、横柄な態度って、それは人間としてどうなのか？と思いますよね。

同じことを、先生同士で言うんですか？同じことを職員同士で、それを言うんですか？ということです。もし言わないのであったら、それは年下だから、または学生だから、相手を見て言っているということは、それはアウトですよ。きっとこちらにいらっしゃる方は、そういうようなことはなさらないと思います。

ちょっと後ほどもう一度申ししますが、教授である先生方の仕事の矜持、そして仕事の本質、それは先生が研究なさっているそのテーマ、その研究を究めていく。そして、その研究には値打ちがある。それを、次世代に引き渡していく訳ですよ。

学問・研究というものは、今まで正しいと思っていたことを「別のことがあるんじゃないかなろうか」と刷新していく、脱構築していく…これが学問の真価ですよ？そうすると委ねるのは、当然次世代です。…ということは、職員の皆様は組織に勤めていらっしゃるということは、管理職の方もいらっしゃるかと思います。管理職の方、リーダーの方、もちろん教授でありご指導をされる先生方、次世代を育て上げるというこ

とは、「自分と同じ存在を作る」と言ったら、時代から取り残されますよね？「自分を超える人を育てる」ことですよね？

自分を超える人を育てるんですよ…と思うと、「私よりこの人の方が才能あるんじゃないかな」そのような存在に敬意を表すると思ったならば、また接し方だってきっと変わると思います。

度量の狭い人は「この人、私より才能あるわ」と思ったら、「ちょっと足を引っ張っておこう」と思うような人が、世の中にちょっとだけいるのかも知れません。けれども、純粹に学問を追究される方、そしてこちらにいらっしゃる学生を指導しようと思う職員の皆様は、そんなことはなさりません。

人類は進化していく、ということは後に生まれた人の方がきっと私よりいいDNAを持っているんだろうなと。そうすると、どう育て上げるかがきっと人育ての醍醐味ですね。

はい、では今、左上の所で『事前』としました。続きましては…これが具体的に厳しい指導です。今ここでの指導の仕方として、たくさんたくさんある中の、今日は限られた時間ですから1つ…でも実は、今まで皆様にお伝えしていたことです。

何かと言うと、人は他人と比べられると挫けますね。でも学校の勉強は当然、偏差値であるとか点数とかあるので、それはそれでやむを得ない。また組織でありました

ならば人事考課ということで、査定されたり評価をされるというのは当然ございます。

けれども、それが裏側の話として、本人を目の前にした時に、誰かと比べるのが得策でしょうか？…ということです。組織としては、人事考課、評価があると思います。そうすると、他人と評価をして本人が発奮するんだったらいいんですけど、でも傷ついたり自信を失うという場合もきっとあります。

では、何と比べると良いか？…それは、ご本人の過去と今です。それが先ほど、ADHDだった彼に対して私が「過去にあなたはこんなこともやってきた。こんな努力もしてきた。あの時こういう風に突破した。そしてあの時、訓練生のお友達に…みんなが意気消沈していた、疲れ果てていたその時に君が、『みんな頑張ろうよ、できるよ』とリーダーシップを発揮して、みんなのことを応援してくれた。自分は全然できていない、自分のことを後回しにして、あなたはみんなのことを応援してくれた」というように、「こんなこともした」「こんなこともした」という肯定的なこと、成功体験、努力をしたこと、結果を出したこと、成果を挙げたことを滔々と述べて、その過去にあなたが行った成功体験に比べて、「今、手抜きをしているんじゃないですか？」と言いました。それが、過去のその人と今のその人を比較する叱り方です。

では先生方、職員の皆様に、昨日転職で

お見えになったその方に対して、皆様よりも部下に当たるようなその方に対して、昨日やってきたその人に「君らしくないよ」「あなたらしくないですね」と言えますか？…先生、言えます？…言えないですよ？…なぜ言えないのでしょうか？それは、過去のその人を知らないからなんですよ。

この言葉が刺さったのは、私が大学を卒業して民間企業で営業の仕事をしていたその時に、まさしく言われました。本では「H先輩」と書いていますが、林さんと言います。その林さんが、4月に入社をして新規開拓の飛び込み営業をする…結果論から申しますと、プロフィールの所に書いたかな…今回は大学の皆様向けだったので、あまり企業での話は書いていないかも知れませんが、営業の中で…その会社は音楽を配信する会社でして、全国に従業員が1万名いました。その1万名の中で女性の営業は、軽く千名以上はいました。

その千名以上の中で、3年目で私は6位の成績を頂いたんです。役職なしだから当時「快挙」と言われました。1年目は東京で400人採用、名古屋では中部地区で200人採用、そして大阪は西日本管轄で200人採用…つまり全国で700人の採用になった同期がおりまして、ほぼほぼ音楽を配信する会社ではございますが、芸能界とかじゃないんですよ。本当にガチガチの営業会社です。そこで、みんなほぼほぼ文系の4年制大学卒です。イコールみんな営業から始まるの

で、700人はほぼほぼ営業。3月末には、累積の数字が全部出ます。700人中、男女合わせまして私はトップ5に入りました。

では、最初4月に配属になったその時に…同じ部署には男女合わせまして私を含め7人が配属になったんですね。この7人の中で初めての契約を頂いた、初めて飛び込み営業で受注を取ったのは、私は何番目だと思います？…7人の中で。先生、私は何番目だと思います？

**宮下事務局長：**

…7番目？

**河村：**

ありがとうございます！宮下先生に大きな拍手をお願いします。

そうなんです。と言うより、全然できないダメダメ人間だったんですね。けれども1年後には、全国700人の中で5番目ですからね。

では、どういうタイミングで叱られていたのか？…と言いましたら、数字が上がらないその時に叱られたのでは実はないです。あの時、私は辞めなくて本当に良かったと思いました。あそこで辞めていたら、絶対何からも全部逃げる人生ですね。でも、辞めずに終わりましたのは、決して私のメンタルが強かったからじゃないんです。

上司・先輩は、数字が上がらないので初受注を得てこないから、誉めることはなかつ

た。けれども、労ってくれたり、取り組みに対して「頑張っているな」と言ってくれたんです。「契約を取って今日1日、河村頑張ったな」は、最初は言ってもらえなかった。けれども毎日、「お前頑張っているよな」…プロセス、経過を労ってくれたり、またはもっと言うと、私が挫けずにできたのは、営業の教科書を作ったからです。

その当時は1人1台のPCが会社から支給されなかったので、手書きで。立派な会社はOJTではなくOff-JTですね、研修が充実しているんでしょうけれども、私の入りました会社は、1週間本社での集合研修で、100人以上の大勢の中で講師が前に出て、ビジネスマナーを教える…というもので、3日かせいぜい1週間で終わって、あとは現場で頼みますという感じなんです。そういった意味でのぶっきらぼうな会社でした。

そこで、「これはちょっと、自分で何とかしなくちゃいけないな」と思って手書きで営業の教科書を作りました。そこで、営業の教科書として、自分で今日の振り返りをします。これは…あまり頭は良くなかったんですけど、「どうやったら営業で一番数字が上がるかな」と思いましたならば、できない人よりもできる人に教えてもらうのが一番いいだろうと。で、その当時トップセールスの…1年間、または半年、またはクォーター（3ヶ月）に1回、そして1ヶ月に1回の数字を挙げていくその中で、ランキングが出るその中で、毎年・毎半期・

毎クォーター、そして毎月トップ5に入る林さんという方が、たまたま同じチームにいたんです。

私は「林さん、営業トークを教えてください。飛び込み営業の時のキラーフレーズを何か教えてください」と言ったんですね。「教えてください」と自ら進んで言ったんですよ…積極的じゃないですか。林さんはどう私に対応したかと言うと、「何で俺がお前に教えなくちゃいけないんだ」とおっしゃった。「ええっ、ハラスメントじゃないか」と今だったら思います。いやいや、今だったら「それはあなたの仕事でしょ」と言うんですけど、入社1ヶ月に満たないような時だったので、林さんに「何で俺がお前に、貴重な時間を割かなきゃいけないんだ」と言われた時に、もう震えましたね。

えっ、こんな積極的に『教えてくれ』と言っているのに、こんなに可愛げのある後輩なのに、そう言われた。でも、林さんに聞くのが一番効率がいいだろうともう1回、「恐れ入ります。教えて頂けませんか」と言った。「お前はアホとちゃうか。同じ失敗を2回も繰り返すなんて、頭を使っていないやろ」…で最大のヒント、もう1回林さんが「なぜ・俺が・君のために・時間を割かなければいけないのか」と言ったんですね。

そこで私は、ない頭で考えました。よくよく考えてみたら、林さんは先ほど言いましたように事前アナウンスして「営業とい

うのは数字を取るのが仕事じゃない。目的は何か…相手の役に立つことだ。相手様の役に立つことだ」と言うのを事前に言われていて、そうだ、私は今「自分がわからないから教えてくれ」というのは、自分のエゴですよ？「林さんの役に立つために」と言わなきゃいけない。チームの役に立つために、課のために、営業1課のために、または事業統括部の役に立つために…ということで、主語を変えたんです。

林さんの足手まといになってはいけません。またはチームとして…皆さんが数字を達成しても私が達成していないと、チームとしての評価が落ちるんですよ。なので、私が足手まといになっちゃいけないんです。皆様に迷惑をかけてはいけません。「だから力を付けたいんです。教えてください」と言ったら林さんが「うん」と言ったんです。

ここで、「河村、お前よく考えたな。立派だな」なんて誉めませんよ。「うん、じゃあ今から5分時間をやる」と言って教えてくれたんですね。だから「誉められるなんて、ビギナーに言うことなんですよ」と新入社員研修で言っています。「うん」と言って「よしわかった、5分時間をやる」と言って教えてくれた。それが金曜日の夕方です。

月曜日の朝一番、出勤をした時に、9時から始業だとしたら9時になって「林さん、ちょっと私のノートを見てください」…そしてもう予想がつきますよね。林さんが「何でこんな忙しい、週明けの午前中の一

番のゴールデンタイムを、お前なんぞに時間を割かなければいけないんだ」と絶対言うなと思いましたが、林さんは8時半には必ず着座してもう仕事を始めている方なので、それを待っておかなきゃいけないと、8時15分に出勤してデスクにスタンバイ、入ってきた途端に「恐れ入ります、ノートを見てください」。私はこういう風に書いたけれども、拙い拙い、気の利かないトークを一生懸命考えて、でもきっと林さんはキラーフレーズをご存知だろうから、「もし林さんが今の私の立場であるならば、林さんはどんな台詞で行かれますか？教えてくださいませんか？」。

金曜日の夕方6時過ぎ、もう帰っていい時間になっています。そこからロールプレイをして頂きました。月曜日、9時始業にも関わらず8時15分に…ということは、土日にやっていたのが見えますよね。土日にノートを一生懸命書いていたんですよ。そして、月曜日の8時17分ぐらいに林さんがお見えになった時、「おお河村、お前土日に一生懸命仕事をしていたのか。すごいな、お前努力しているよな」…言いません、そんなこと。見たらわかる、いつやったのかが。そこで、「うん、俺だったらこれと言うな」、とっておきのキラーフレーズを言うてくれました。

新入社員研修で、私はこう言います。「だったら、同期が7人いるんだから、7人集めてレクチャーしてあげるのが公平じゃ



ないか。平等じゃないか」と思うかも知れませんね。…違いますよ、社会に出たら「平等」は、そして「公平さ」は。社会に出れば、やる気のある人は引き上げられます。「みんな一斉」なんかないです。

「俺だったらこう言う」と言われて、「よし、これはいいわ」と私が同期に教える可否かですよ。…もちろん教えますけどね。「林さんからすごいのを聞いたよ。じゃあ今日はみんなこれで、それぞれ行こうか」。

今思えば林さんが私に「何で俺がお前に教えずにちゃんかかないのか」と言ったのは、社内で厳しく指導するから、社外で通用するんですよ。社内で、アポイントの取り方を教えてくれていたんだな、と思いました。忙しい人に「お時間をください」…営業でお電話をする、飛び込み営業をする、断られる時がたくさんあるんですよ。そんな容易いものじゃありません。

それを、どうやったら人が動いてくれるのか、それを社内でトレーニングしてくれたから、社外へ出た時に「相手の役に立つことが第一声だな」と私は思います。なので、厳しいことを言うためには、仕込みがあります。その会話、その話を構造化することなんです。だから、ノープランで気づいたから言うなんていうのは、私はどういう意図で…これは頭を使った戦略なのかどうか、「この人はこれがベストだと思っているのかな？」…私にしたら、相手を挫けさせたりするということは、最適なやり

方と思えないですね。

一番痛い厳しいことを言うために、どれだけ伏線を張っておくかです。それは今日の5分だけじゃない、出会った4月から伏線を張って、「今どう言おうかな」…これが最初からの戦略ですね、もし私だったら。なので、厳しいことをお伝えするその時のフレーズとしては、「君らしくないよ」ということは、実は肯定しているということです。

で、今現在の厳しい指導、そしてその後の未来形です。「これができるようになったら、こうなるよ」という見通しがないと、上司が言っていることも信用できなかったり、「いつまでもこんな些末な仕事、こんな雑用ばかり。こんな私の苦手なことばかり、こんなのだったら辞めようかな」と思うかも知れません。けれども、「これ乗り越えたら次があるよ」と言われた時に、光明を見た時に、人は希望が持てるんですよ。

また、何のために今この仕事をしているのか？という理由であったり目的であったり、そういうことを伝える。そうすると「そうか、今これ乗り越えたら、次は…」…飛び込み営業は、気持ちが萎えたりもします。けれども林さんがおっしゃったのは、「河村な、飛び込み営業を何のためにしているかわかるか？」「当然数字を挙げろということでしょ？…そうですね？」「違うよ、それは頭の悪い人がやることだ」「…



え、何ですか？」。

なぜ会社が、「企画をしたい」と言う人でも「番組制作がしたい」と言う人でも営業から入るかと言うと、それは現場のお客様がどんなニーズを持っているのかということを生で聞いて初めて、企画ができたり広報ができたり、または番組制作ができる…という意味で行くと、営業して、特に飛び込み営業して、数字が取れたら、それはラッキーなこと。「本当に現場でお客様先で、実感として身に付けてもらいたいことは、お客様のご要望をヒアリングすること。マーケット調査、マーケティングをしていることだ、フィールドワークだ」と言われたんですね。

「だから、断られたらしょげるんじゃない、もっと大事なことは『なぜそれを使わないのか』と、使わない理由をヒアリングしてくる、ここにこそ醍醐味があるし、重要なことなんだ」…林さんをあまり勉強熱心だとは思っていなかったんですけど、経営の神様・ドラッカー教授の本にそう書いてあったんです。『マネジメント』だか何だか、ちょっと違ったかも知れませんが。

ドラッカーという経営の神様の本に書いてあったのは、「カスタマー（顧客）の声を聞くのは誰でもする。大事なことはノンカスタマーの声を聞け」…顧客になっていない人の声を聞いてこそ、商品開発ができるんですよ。マーケティングなんですよ。それをお客様に…今有線放送を使ってくれて

いないからこそ、なぜ使ってもらえないのか、音楽は他の何を代替しているのか、または音楽という聴覚ではなくて、視覚である何かビデオを流しているのか…というように、「何をしてこの空間演出をなさっていらっしゃるんですか？」と聞きに行ったらいいんだよ…と言われて、気が楽になりましたね、「そうか！」。

なので、何のためにこれをしているのか…という目的、または理由をお伝えする。そしたら先生方は、「いやあ、そんな理由とか目的をも本人が考えることが、考える力を身に付ける、または磨いていくことなんだ」と、思われると思うんですよね。私もまさしくそうだと思います。

わからないことをここで抱え続けて、違和感があったり咀嚼できなかったり、それをどうやって腹で持ち続けるのか…これが学問です。だからすぐに、「このためだ」「あのためだ」と…「何だろうか、何だろうかとぜひ君、考えてごらん」という解答が、私は多分学問を究める方の、それが本当に素晴らしいご指導の1つじゃなかろうかなと思います。

それこそが、もしかしたら社会に出たら、成果が問われるんですよ。数字があるんですよ。でも、そこから切り離されたところが、私はアカデミックな本当に教養という部分で、美しい…何て言うんでしょう、人間としての生業じゃなかろうかなと思います。それも理由だと思いますよ。

ここで、「やればできる」というのはよく言われます。でももう1つ言えるのは、「やれば伸びるよ」…できるかどうかはわかりません、特に就職活動は「やればできるよ」と言われても、落ちることもあります。けど、「やれば伸びるよ」というのは100%、絶対です。…となると、言葉1つの使い方によっては、勇気づけになったりとか、全く違う成果・効果も生まれるということですね。

さあ、もうあと3分でございます。学生へのご指導の中で、誉めること、認めること、感謝すること、労うこと…いろいろなコミュニケーションがある。その中で今回は、「厳しいことを伝える」つまり「叱り方」ということを、たくさんある私が導き出した…というか、私が実感している中の、ごく一部を伝えました。

人は、やる気がない訳ではございません。お仕事をさぼりたいと思っている人も、この仕事…人材育成のお仕事をさせて頂いて、19年・年間150回程度、いろいろな企業様の現場に入って行っております。その中で、さぼりたい人なんて1人もいません。やる気がない人も1人もいません。けれども何か、挫けちゃっているんですよ、意識的に。

それはなぜかと言うと、性善説とか性悪説とかいろいろございますけれども、私はこう思います、「人間は弱い」。だから挫けたりズルをしたり、逃げたりするんですよ。

だから、どうやって弱さを克服していくかと言うと、その強さを身に付けさせるには、「ほめる」だけではリーチできません。痛みを受け入れさせるその強さは、叱ることではしか伸ばすことはできません。

「ほめる」そして「叱る」というのは、2項の対立ではなくて、そして同じものでも当然ございません。イメージは「おまんじゅう」だと思ってください。しかも、愛で包むほっかほかのお饅頭です。おまんじゅうの餡の真ん中に来ることがほめて、その人の自己肯定感とか自己尊重させる、というように自分に自信を持たせる…という真ん中のあんこ。

その後で、続きまして皮になるところが叱ることによって、「現状否定に向き合わせる」ことです。つまり、誉められてこれができるようになった。その上で、「ここで終わるあなたじゃないですよ？もっとできる人ですよ？」と挑戦をさせる。これが即ち、「殻を破って成長させる」。

成長って細胞が進化していく訳ですから、痛みを伴います。これが自己突破です。だから、叱ることで強くさせる。で、自己突破をさせましたら自己成長、そして自己実現に向き合わせる。

なので、誤解を招くかも知れませんが、「叱る」ということは自分で力を付けさせるということは、「私はまだまだ行ける」というように自己否定をさせることです。

何年か前にトヨタ自動車様が「トヨタの

敵は〇〇だ」と言っていました。資生堂は「資生堂の敵は〇〇だ」とビジネス雑誌に書いてありました。さて皆さん、どこの会社さんだと思われますか？…トヨタの敵は？資生堂の敵は？…業界トップの会社ですよ。ナンバー2の会社は「トップに追いつけ、追い越せ」でいいんですよね。ライバルは…何て言うんでしょう、ベンチマークされていますから、ナンバー2は。

ナンバー1は誰がライバルか？…己ですね、『トヨタの敵はトヨタ』『資生堂の敵は資生堂』とビジネス雑誌に書いてあります。今トヨタの敵は、もう自動車業界じゃありませんね。「Googleだ」と言っていました。つい先日もSoftbankさんと提携して新会社を作りました。…ということは、自動車業界とっていない、ということですよ。

自動運転のところでは…今就職活動の説明ではないのであれですけど、業界なんて古い話です。業界を超えて、同じマーケットで戦っていくんですから。まして、進化していかなきゃいけないということは、己の殻を破っていく。そうすると、強さを身に付けさせる…これが、大学の時の送り出しです。

はい、ではもうお時間です。本日「叱り」の定義と致しまして、皆様は皆様に、教授の皆様ご自身の探究する学問に対しての定義、または思っていること。そして職員の皆様は、自分の仕事の矜持というものがあるかと思います。

私は「叱る」というのをこのように考えております…『使命感の愛』です。近視眼的に学生に、「できるようになったね」…でも長期的に見ると「もっとあなたはできるですよ」というように応援をすること、伸ばしていくこと…それが『使命感』です。

そうすると、「嫌われるかも知れない」というリスクを背負って、もっと先々を見るから、ここで妥協せずにもうひと頑張りのために、「ひと言言ってもいいですか？」…ということですね。なぜかと言うと、「あなたはもっとできる人ですから」…これを言語・非言語で普段から伝えていく。

では最後に、皆様それぞれに仕事の美学があらわれるかと思います。仕事の美学として、企業とアカデミックな世界とは、何が違うだろう。要は、部下から尊敬されるそのためには、自分がしておかなければいけないことがあります。それは例えば時間管理、また身だしなみを整える。でも大学の教授…身だしなみを整えるということは、私はちょっと粋外なのかなと思うんですよね。会社であつたら、当然会社としての看板を背負っているのです、そして何かプレゼンテーションをするとか商談をする。人から信頼を勝ち取るためには、きちんと服装を整えておくことが求められます。

ただ大学の教授は、服装を整えておかなかったとしても、信頼を勝ち取っている方がいるんですよね。それは何かというと、やっぱり学問の尊さです。

動物と人間の共通することは…人間も動物の1つですものね、そうすると「食べること」「眠ること」そして「種の保存」…これは共通です。けれども、動物と人間の圧倒的な違いは何かと言うと、それはコミュニケーション…と言っても、高次な動物はもうしていますものね、サルとかイルカとか。じゃあ圧倒的に何が違うのかと言うと、「美学」だと思うんですよ。その「美学」って何かと言うと、「教養」です。「学問」です。

その知的探求心を持っているというのが、明らかに私は動物と人間の違い、そして知的探求心を毎日極めていらっしゃるのが、教授であられる先生方です。それを、学生にお伝えして差し上げてください。「人間として一番面白いのは何か?…『知の探究』だよ」…それは、服装云々を私は超えると思いますよ。

そしてそれを、先生方は学生を1人の人間として「君もぜひ、その『知の探究』を楽しんでくれ」という意味でご指導をして頂きたい。そうするとそこに、ハラスメントになるか否かなんて、絶対ないです。人として、1対1の対等に関わることです。私達を超えていく逸材ですからね、学生は。

さあ、そうすると皆様それぞれに、職員の皆様も含めまして、仕事の美学というものがあろうかと思います。皆様もぜひ、何かを聞かれた時にお伝えできるように何か一言…それって、決まったことじゃない

と思うんです。毎日進化していくと思います。

今のところ私の一番の最新のひと言は、「仕事」というのは「仕える事」と書きますが、私は「志」と考えております。仕事とは、己の存在価値を最大化して世の中に貢献をする…私は「仕事」をそのように捉えております。

だからこそ、出会う方々に最高の自分になって頂くために、自分自身がどうやって貢献できるだろうか…と致しまして本日、自分自身で七転八倒しながら、いろんな所で頭を打ちながら、「こうかな、ああかな」ということを自分で実体験をもって、行ったことのごく一部をお伝え致しました。

6分超過しております。本日は皆様に、さまざまなことをお伝えさせて頂きました。誠に僭越なこともいろいろ申しましたけれど、ぜひ皆様が学生を応援して差し上げてください。そして人間として一番崇高な活動をなさっていらっしゃる大学という場で『知の探究』、そして教養を身につける、それこそが自分を活かすことだよ、ということをやぜひワクワクと楽しんで、学生の皆様にお伝え頂きたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

**司会：**

河村先生、ありがとうございました。

何か随分叱られたような気がしておりますが、私自身これを活かして成長していき

たいと思います。

ご参会の方々、ちょっと時間が超過しておりますので、質問を取る時間を設けません。もしそういうのがあれば、個人的に質問されても良いかなと思います。ぜひ各大学にお帰りになりまして、教職員の方々に  
お伝えし、奈良県の教育が良くなっていくように、今日の成果となればいいかなと思っています。

河村先生、本当にありがとうございます。  
もう一度盛大な拍手をお願いします。

それではこれを持ちまして、奈良県大学  
人権教育研究協議会2018年度講演会を終了  
させて頂きたいと思います。本日はありが  
とうございました。

# 2018年度 奈良県大学人権教育研究協議会 研 修 ・ 交 流 会

2019年2月23日（土）

奈良教育大学 本部管理棟2階 大会議室



## プロフィール

**根来 秀樹（ねごろ ひでき）**

奈良教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程教授（兼）奈良教育大学特別支援教育研究センター長。

奈良県立医科大学を卒業後、奈良県立医科大学附属病院をはじめとする病院でご勤務の後、2001年奈良県立医科大学、2009年から奈良教育大学で勤務している。厚生労働省の研究班に参加されて、日本で初めてADHDのガイドラインの作成に携わるなど、児童・思春期精神医学、障害児医学を専門に活躍しておられる。

# 「今どきの大学生のころ・発達」

## —指導や教育に活かせる精神医学—

根 来 秀 樹

司会：

皆さんこんにちは。定刻になりましたので始めさせていただきます。

ただ今から、2018年度 奈良県大学人権教育研究協議会の研修交流会を開催させていただきますと思います。本日は年度末でお忙しい中、休日にも関わらずお運び頂きまして、ありがとうございます。

私は、本協議会の今年度の事務局長を仰せつかっております、本学副学長の宮下と申します。よろしくお願い致します。

本協議会では毎年3回の講演会等を行っておりますけれども、今年度のテーマと致しましては、『学生の人権を尊重した大学教育のあり方』ということ掲げておりまして、複雑化した社会に生きる現代の学生に対して、改めて、人権を尊重する大学教育をどういう風に行っていったら良いかということ、そしてその重要性を共通理解することということを皆さんで考え、実践していきたいということを今年度のテーマとしております。

第1回の講演はここで昨年行いましたけれども、今叱られると弱い学生が多いとい

うことで、叱るということの意味、それから今の学生に対する叱り方をどうしたいか…という非常に具体的な講演を頂いております。大変好評を得ております。

今日はその第2回ということで、昨今の学生に見られる精神・心理・発達特性をご講義頂いて、学生の人権を尊重しながら大学教育を行う上で、従前にはなくて今後新たに留意しなければならないこと、配慮しなければならないことなどについて、ご専門の立場からご講演を頂くことを計画させて頂きました。

ご講演をお願いしますのは、本学の教育学研究科 大学院専門職学位課程…教職大学院ですが、その教授で本学の特別支援教育研究センター長であられる、根来秀樹教授にお願い致しました。テーマは、『「今どきの大学生のころ・発達」—指導や教育に活かせる精神医学—』というタイトルを頂いております。

お手元に資料があると思いますが、根来教授のプロフィール等を簡単ではありますがご紹介させていただきますが、ご専門は児童・思春期精神医学、障害児医学でござい

ます。

先生は、奈良県立医科大学をご卒業の後、奈良県立医科大学附属病院をはじめ、いくつかの病院でご勤務されました。そのうち2001年に奈良県立医科大学助手、厚生労働省の研究班に参加されて、日本で初めてADHDのガイドラインの作成に携わっておられた方です。

その後2006年に、アメリカのカリフォルニア大学ロサンゼルス校の思春期精神科にご留学されております。その後奈良県立医科大学で教鞭を取られ、2009年から本学の教員としてご活躍されているところです。

根来教授の授業は学生から非常に好評で、非常に楽しく面白くわかりやすい…という学生からの声を聞いておりますので、今日も楽しみに聞きたいと思います。簡単ではございますが、ご紹介させて頂きました。

それではこの後ご講演を頂きまして、時間がありましたらまたフロアからご意見・質問等を頂ける時間を持ちたいと思います。では、よろしくお願いします。

**根来：**

宮下先生、ご紹介ありがとうございます。奈良教育大学の根来と申します。よろしくお願いします。10分ほど残して講義を終わりたいと思います。

「人権」とか「人権教育」というのは、いろんな立場で話がされると思うんですけ

ど、今日は精神科医という立場でこのテーマについて何かお話しできれば、と思っております。ほとんどが資料…お手元にお配りしている資料があると思いますので、見て頂けたらと思います。

最初に、日本学生支援機構のホームページで公開されている大学等、主に大学の障害学生数です。平成26年度と27年度の間で集計の方法が変わってしまして、「その他の障害」という所に精神障害も入っていたんですけど、27年度から「その他の障害」から精神障害が分かれて、この薄い水色なんですけど、精神障害が分かれて出されています。

そしてこの色ですね、薄い緑ですかね。ここが「発達障害」です。つまり、精神障害とか発達障害がある学生が増えてきているというのがわかると思います。この緑が「病弱・虚弱」…例えば喘息であるとか、腎臓疾患がある学生ですか、増えているように見えますが割合的には以前から一定数はいて、むしろ精神障害が非常に増えているのがわかるのではないかな、と思います。

次のページに行って頂きまして、これが最新の平成29年度のデータなんですけれども、大体全学生数の約1%、障害学生がいるということです。ただこれは、先ほどのスライドでもお示したんですけども、大学側が把握しているということです。基本的には診断を受けているとか、障害者手帳を持っているとか、大学側が把握してい

る学生が1%いる訳ですね、100人に1人障害のある学生がいます。

このように見てみますと、先ほど言いましたように「病弱」…喘息とか腎臓疾患とかの学生が一定数いる中で、精神障害や発達障害がある学生がかなりの割合でいるということがわかると思います。

もう少し…これらの障害学生数の割合なんですけれども、次のスライドが、今度は『支援が必要な学生』という割合なんですけれども、これを見てみると「病弱」の人の割合が非常に減って、発達障害とか精神障害が非常に増えてきて、足すと約58%ぐらいになります。つまり、病弱とかそういう学生は障害種別ではある一定数いるんだけれども、支援が必要かどうかとなると、減るんですね。つまり、例えば喘息は今の医療では、かなり薬でコントロールができますので、通常の学生生活を送っていく上でどうしても支援が必要である学生は、割合としては減るわけです。

逆に言うと、精神障害と発達障害が「支援が必要である」割合が非常に増えていきます。これは大学だけではなくて、企業なんかも同じような傾向があって、近年いわゆる産業医は、身体を診る医者から精神科医にシフトをしてきています。産業医に精神科医が今増えているし、大学の保健管理センターも、実は精神科医を今探しているんですね。と言うのは、体の方は最終的に症状が重いと、結局は病院にかからないと

いけないですよね。精神科というのは、なかなか病院にかからせにくいというか、そういうこともあるので、保健管理センターの医師も…僕の同僚や後輩も今、大学の保健管理センターで医師になっている人がいます。

ということで、この「精神障害」「発達障害」が、非常に支援が必要という数で言うと、多くなっていてという実情を知っておいて頂けたら、と思っております。これが一番新しいデータです。

そして、僕達精神科医が、特に子ども…「子ども」と書きましたが、大学生もそうです。何か困りごとが起きた時に、常に僕達精神科医は3つの視点で考えよう、と勉強してきました。それを「Bio-Psycho-Social Model」と言います。「Bio」というのは「生物学的な要因」、つまりその子どもが、その学生が元々持っているものということで、Biological なのですね。例えば、発達障害というのもそうだと思います。

そして「Psycho」というのは「心理的要因」でして、例えば「非常に不安が強い」とか「過去にいじめられていて自尊感情が低い」とか、そう言うのが「心理的要因」です。「社会的要因」というのは、例えば「家で虐待を受けている」とか、学校でも「今いじめに遭っている」というのも社会的要因になります。

例えば、「不登校・ひきこもりをこの3つの要因で考えましょう」ということなん

ですね。例えば、「発達障害があつて学校に行きにくくなっている」という子どもの場合は、生物学的要因が強いのかも知れません。「学校で非常に強いいじめに遭っている」ということであつたら、社会的な要因が強いのかも知れません。…こういう風に3つの側面から考えて、ある1つの側面だけで考えないようにしようと、僕達は思っています。

なぜこの視点が大事なのかと言いますと、「生物学的な要因」には、例えば心身の休養であつたりとか、睡眠環境を整えたりであつたりとか、その子どもが持っているものということです。効果のある薬があることも多いです。例えば、学校でいじめに遭っているのに、その子どもに薬を飲ませて何も変わらないですよ。そして、「心理的な要因」にはもちろん心理療法ですよ、例えばカウンセラーに心理療法を受けたりすると。

そして「社会的な要因」の場合は、環境を整えたり、もちろんいじめに遭っているんだつたらいじめられないようにしたり、親への心理教育であつたりとか…例えば家庭環境などが非常に悪いという場合は入院治療なんかも考えて、環境を整える、というようなことをします。…という風に考えます。

そもそも、例えば大学に行きにくくなっているとか引きこもっているということに、1つだけの原因があるということはすごく

稀なんですね。だから、こういう3つの視点から見ようということが非常に大事になってきます。

次のページに行つて頂いて、大学生というのは「青年期」と言われます。でも、大学時代に起こつてきている困りごとが、決して大学時代に原因があるという訳ではなくて、思春期ぐらいからいろんな原因があることが多いです。更に言うと、思春期より前に原因があることも多いんですね。つまり、大学になって急に問題が出てきたように僕達は思つてしまいますけれども、思春期やもっと前からいろんな問題があるということが多いです。

ちなみに「青年期」というのは社会心理学的な概念であつて、つまり子どもと大人・成人の中間期を示す言葉です。つまり、子どもではないけども一人前の大人ではまだない、という中間期を「青年期」と呼んでいます。「青年期」は大体3つに時期を分けて、こういう風にそれぞれ呼んでいる訳です。

一方で「思春期」というのは…重なり合いはある訳ですけども、生物学的な変化を考慮した概念です。これをわかりやすく言うと「第二性徴」ですね。第二性徴が来ってから、つまり体の変化が起こってから、そこから数年の間が思春期です。

先ほどもお話ししましたように、この「青年期」と「思春期」は重なっています。元々思春期というのは、大体この辺りを考

えていました。大体小学校6年生、中1ぐらいから4～5年、5～6年の間…何でこんなに幅があるのかと言いますと、先ほども言いましたように、第二性徴が起こるのが小学校6年の子もいれば、中3で起こる子もいるので、少し幅がある訳ですね。この「思春期」が今、早くなっていると言われています。確かに最近は初潮も、早い子があります。つまり、第二性徴の時期が早い…全員が早いという訳じゃなくて、早い子がいる。思春期がちょっと前にシフトしていつている…というようなことが言われています。

一方で、「青年期が後ろに行っている」という研究もあります。特に先進国ですね、例えば結婚する年齢が遅くなっていますよね、20年ぐらい前と比べると結婚する年齢が遅くなっています。

大学生というのは、このど真ん中にある訳です。思春期はだいぶ終わっているかなと思うんですけど、青年期が延びているなら大学生というのはこの真ん中にある。そして今の大学生は、思春期が前にシフトしていて、青年期が後ろにシフトしていつているど真ん中にいる…ということが言えると思います。

身体的には思春期が終わっているのかも知れませんが、思春期に当然越えていくべきいろんな課題を、なかなか越えてくられていない大学生がいるんじゃないかな、という風に僕も思っていますし、いろんな

ところで語られています。

思春期とは、どういう時期なのでしょう。こういう風なことが言われています。これはまた後でもお話ししますが、「心と体がアンバランス」…体は大人になってきているけれども、心はまだまだ幼い。「自己への関心が高まる」「価値のとらえなおし」とか、そういうことも言われています。今までずっと親に「これがいいんだ」と言われてきたことがいいと思ってきたけれど、だんだん友達関係が広がるに伴って、いろんな価値観が変わっていきます。

あと、親子関係も変化していきますよね。「親と一緒にいい」と言っていたのに、中1・中2になるとあまり親と出掛けてくれません。そういうことも変化していく、すごく微妙な時期ですね。友達関係も変化していきます。日常生活も変化していつて、だんだん夜寝るのが遅くなったりとか、あと夜少し遅くまで友達と遊んだりとか、そういう日常の変化があります。

これはすごく面白い図で、山登敬之先生の『子どもの精神科』という本で書かれているんですね。生まれると…幼い子どもって、あんまり現実がどうなのとか考えていないんですよね。でも思春期になると、「現実のカベ」におち当たります。一方で、「社会のオキテ」もありますよ、という図なんです。

幼い子って、「社会のオキテがあるからやめておこう」とか、あまりそんなことは



思っていませんよね。そして、「現実のカベ」もあまり考えていません。その証拠に、小学校低学年ぐらいだと、例えばですけど野球をやっている子どもとかに聞くと、「大谷君みたいになるんだ」とか言っていますよね。…現実には大谷君みたいにはほばなれないですよね。思春期ぐらいに「現実のカベ」におち当たって、さすがに中学3年とか高1ぐらいになって「大谷君になるんだ」とはあまり言っていないですよね。これが「現実のカベ」です。

「社会のオキテ」も幼い子は、「電車の中で大きい声を出したらダメ」とか、あまりわかっていない。だんだんわかってくるといことなんです、こういう風にスムーズに行けたらいいんだけど、なかなか行かないよというのが次の図なんです。

普通は「現実のカベ」を越えることはできません。しかし、「社会のオキテ」は越えてしまいます。例えば煙草を吸ったりとか、本当は良くないんですけど、吸ったりする子はいますよね、非行に走ったりとか。「社会のオキテ」は時々超えるけれども、だんだん成人になるに従って、いい感じになってくる…という図がこれなんです。

次のページに行きますけれども、大人は…例えばこちら側が「社会のオキテ」ですけど、「社会のオキテ」を超えてくる時に、「それはあかんで」ということを言わないといけません。壁と垣根のフレームがわからない時は、教えないといけませんよとい

う図です。

別にこれは「良くない」ということではなくて、まだまだやり直しが利きます。稀に、この「現実のカベ」を超えてくる子が思春期ぐらいからいます。それが例えば幻覚や妄想、幻聴とか、そういうようなことを思春期以降ぐらいに訴える子どもがいます。周囲の人には聞こえていないような声が自分にだけ聞こえたりとか。この「現実のカベ」を超えてくるというのは、精神科医の出番になってきます。

このように、非常に思春期というのは揺れるんです。この揺れのまま大学生になっていっている、または思春期に当然越えていかなければいけないような壁がなかなか越えられずに、大学生になっているのではないかと思います。

次に『通常経験する思春期の3つの変化』です。これは通常ですので、私達も、ここに今日来られている方々も経験してきました。

1つはまず「からだの変化」です。これは第二次性徴ですね。女の子であれば初潮を迎えたり、男の子であれば精通があります。声変わりがあったり、この時非常に臭いに敏感になったり、自分の容貌に非常に関心を持つようになります。急になりますね、これは。急に髪型をすごく気にしたり、「ちょっと髪がはねてる」とか誰も見ていないんですけど、強く容姿を気にしたりしますよね。

2番ですけど、「保護者との関係性の変化」ですけども、これも小学校高学年ぐらいまでは親とずっと一緒にいたのに、だんだん「友達とどこかへ行きたい」と言うようになりますね。小学校6年生ぐらいだったら、USJに友達同士で行ったりしますよね。でもまだ、親とも行ってくれます。親とも行ってくれるし友達とも行く…とだんだん揺れながら、だんだん中2、中3、高1…となっていくに従って、親とは行かないようになっていく。これは非常に揺れながら、友達にシフトしていくということです。

3番目の「社会的な立場への成長」というのも、これは思春期になって同性の同年配…これが非常に大事なんですけど、異性ではなくて同性の同年配の友達関係を通して、自己を見つめ直して社会における自分の「立ち位置」を確認する、という風に行われています。

つまり、これは気づかずにそうしているということなんですけど、「自分は2番手ぐらいがいいな」とか「リーダーシップを取りたいな」とか、「リーダーシップを取ったら気持ちがいい」というように、自分の社会における「立ち位置」を、だんだん思春期ぐらいから「これぐらいがいいよな」と思う…と行われています。

それが、「リーダーシップを取りたいな」と思った子は、成人になっても取りたい、取りたがる…みたいなことも行われていて、

取れるかどうかは別なんですけど、「取りたいな」という気持ちがその後も続く、ということです。

これが、これら1番2番3番の変化を乗り越えていく時に非常に大事なキーワードがあって、それは何かと言うと「友達」です。2番・3番なんかは、友達がいないと関係性が作っていきませんよね。でも実は1番も、非常に友達が大事なんです。つまり、自分の体の変化がもし自分だけだったら、すごく気持ちが悪いんですよね。特に男の子なんかだと、中学1年生ぐらいになると男の子同志で集まって、エッチな話をしたり、そういうことをして、だんだん「自分だけがそういうことを考えているわけではないんだ」ということを確認していきます。…これがすごく大事なんですね。逆に自分だけに体の変化が起きていると、非常に怖いです。

…ということで、友達関係を思春期ぐらいでスムーズにやってこれないと、このプロセスをなかなかクリアできていない。そのまま大学生になっている、というようなことがあります。これはちょっとまた後でお話ししたいと思います。

これは僕の主観なんですけど『いまどきの大学生』ということで…先生方もどうですかね、昔の大学生に比べて比較的真面目ですよ。そういう風に思います。一方で先ほどからお話ししているように、思春期の課題を十分にクリアしないまま、大学生

になっていることも多いです。

あとは特にSNS、LINEとか、案外早く交換しますよね。入学式の後に懇談会をするんですけど、何人かは既にLINE交換をしています。「いいのかな」と思うんですけど、相手のことを十分にわかっていないのに、非常に気軽に連絡先を交換します。相手のことを十分にわかっていないのに交換しているんで、後でトラブルがあったりとか、「そんな奴じゃなかったのに」みたいなことになることもあります。

そしてLINEを交換すると、On-Offがわかりにくい。家に帰ってもずっと友達と繋がっていたりとか、そんなことがあって今の若者を僕はすごく「可哀想だな」と思うこともあります。僕達の若い頃は、家に帰ったらあまり友達との関係はなくて、帰ったら帰ったで別に連絡を気にしていたりとか、そういうことはなかったんですけど、今の学生はずっと連絡を取り合っていて、何か可哀想だなと思います。

あとは、目の前に見えていないものをイメージしにくい…ですよね。目の前の課題とかはわかっているけど、大学を出てどうするのか？みたいなことはあまりピンと来ていないというか、1年後2年後はどうするんだ？とか、そういうのをすごくイメージしにくいんですよ。

別にスピリチュアルなことを言おうと思っているのではないんですけど、例えばお盆とか法事とか、そういう昔から行われてい

た親戚が集まるような行事に最近あまり子ども達が参加していないので、そういうこともあまりピンと来ていないと言いますかね、そういうことも思います。小学校の先生とかにお話しさせて頂くときは、「こういうことも大事にさせてください」と…法事とかお葬式とかに行ったりとか、そういうのも大事だなと。何か目の前に見えていないものがすごくイメージしにくい感じがして、それは大学生でも難しいのかと思うことがあります。

このように、思春期・青年期というのは非常に揺れるんですね。こういうような、精神科医が取り扱うような病気が、主に思春期から大学生ぐらいまでに起こってきます。「不登校（ひきこもり）」「家庭内暴力」ですね。「心身症」というのは、ストレスが体の症状に出る。あと「対人恐怖」「うつ」ですね、あと「摂食障害」、これも思春期から大学生ぐらいに非常に多いです。「摂食障害」は、精神科の領域の中で命に関わる、非常に取り扱いの難しい病気です。

摂食障害は10人に1人程度…教科書によっては「20人に1人」と書いてあるものもありますけれども、突然死することがあると言われています。摂食障害というのは重篤になることがあり、脳が委縮するケースもあるので、総合病院で治療すべきで、僕は医大時代にたくさんの摂食障害のお子さんと出会いました。

「統合失調症」というのは後でお話しし

ますけれども、幻聴とか妄想ですね。そして「非行」。日本では少ないですけど「薬物乱用」ですね。これも僕は、大学の人事で5年ほど、神戸にある依存症専門の病院に勤めていたんですけども、依存のきっかけというのは15～16歳ぐらいから30歳ぐらいまでが多いです。次に「神経症」というのは、昔「ノイローゼ」と言われていた病気で、さらに「発達障害」の二次障害がこの時期は非常に多いです。

今日は時間の関係から、主に発達障害の話をしたいと思いますし、大学生の支援が必要な障害の割合で精神障害と発達障害が非常に多いので、発達障害って今大学で非常に注目を浴びているんじゃないかなと思います。

『双極性障害』…これは躁うつ病のことです。「躁」と「うつ」…躁うつ病になった大人の人に、「あなたは、初めて躁とうつの症状が出てきたのはいつ頃ですか？」と、自己申告なんですけど聞いてみたら、15～19歳が一番多くて、その次に30歳過ぎがあるんですけど、20～24歳ということで、つまり躁うつ病も初めて症状が出てきたのは、思春期から青年期なんですね。このように、思春期や青年期は非常に精神疾患にかかりやすい時期だ、ということが言われています。

精神医療の中で、僕達精神科医は、「精神科医ってどうやってうつを診断しているんだろう」という風によく言われるんですけ

ど、きちんと診断のマニュアルがありまして、「DSM」というんですけど、これがどんどんバージョンが変わっていきまして、今「5」というバージョンを使っているんですけども、これが5～6年前に変わまして、日本語版が2014年6月に出了ました。

ということで、「もうだいぶ経っているじゃないか」と思われるかも知れませんが、少し古い本なんかだと前のバージョンが使われていて、例えば今はもう「自閉症」という診断がなくなったんですね。でも、ちょっと古い教科書を見ると「自閉症」と書いていたりとか、「アスペルガー障害」という診断名ももうなくなったんですけど、「アスペルガー障害」という診断が会話の中では残っていたりします。…というような話を、少し織り交ぜながらしたいなと思っております。

これが『発達障害の定義』なんですけれども、いろんな定義があります。これは僕自身が作った定義で、「発達障害は一般に幼い時から…乳児期から幼児期にかけて、発達の『遅れ』や発達のアンバランスさがある」、そして「(社会的、学業的、職業的な)機能獲得の困難さ」…これは難しい言葉ですね。これは、「社会的、学業的、職業的に困っている」ということですね。「…が生じる精神的な発達に関する障害」ということで、「体の発達ではありませんよ」という意味です。

幼い時からあって、そして発達の遅れだ

けじゃなくてアンバランスさもあるよ、アンバランスさも発達障害の概念には入れるよ。…例えば、計算はすごく早いけれども、どうしても漢字が書けない。そういう発達のアンバランスさみたいなものも、発達障害の概念には入ってきました。これは、10年ぐらい前までは障害だと捉えられていなかった訳ですね。発達の問題と言われると、精神科領域での発達の問題というのは「知的障害」が主だった訳ですが、知的には遅れていないけれども、他人の気持ちになりにくいとか、あとは注意すべきところに注意ができないとか、そういうケースも発達障害の概念に入ってきました。

そして…重要なのはここですね。いくら発達の遅れや発達の凹凸があっても、別に困っていなければ「発達障害」と診断しないというのもすごく大事なんですね。例えば、発達のアンバランスさが同程度でも、職業の選び方によっては発達障害とは診断されなくなることがある、ということです。例えば、社会性に問題がある人が営業職なんかになってしまうと、やっていけないことも多いです。でも、1人でコツコツやるような職業に就くと、案外やっていけたりします。

中でも「精神的なものだ」と言われると、何か環境が問題であったり親の躰が問題であったり、そんな感じがしてしまうんですけど、脳の働きの問題です。実は、これを証明するのが僕の仕事なんですね。研究領

域では僕がこのことをずっと、奈良医大の時代からやってきました。

逆に発達障害というのは、元々持って生まれた脳の働きの問題なので、養育態度の問題…一番問題なのが虐待です。「虐待なんかが原因となるものは含めない」というのが定義なんですね。

次のページへ行って頂きまして、発達障害というのはどの領域の発達の遅れなのかによって、こういう風に疾患名が分かれています。実は、僕は学部生にも大学院生にも発達障害の授業をやっているんですけど、90分×15回喋っています。「よくそんなに喋ることがあるな」と言われるんですけど、発達障害について全部喋るのに90分×15回はないと終わらないですね。今日はだから、かなり短めにお話しさせていただきます。

このようにいくつかの発達障害があって、今日は2つだけしかお話しできないんですけど、以前「広汎性発達障害」と呼ばれていたものが、今は「自閉スペクトラム症」とか「自閉症スペクトラム障害」という風に言われていて、略して「ASD」と呼んでいます。以前は、広汎性発達障害の時は5つの分類に分かれていたんですけども、新しい分類ではこういう風に5つに分けるのはやめようということになりました。

ということで、「自閉症」も「アスペルガー障害」も今後は「ASD」に変わります。もう今は「自閉症」と言わずに「ASD（自閉スペクトラム症）」と言います。



この「ASD」の診断基準というのが…次のページですけれども、2つに分かれています、AとBに分かれています。Aが「社会性の障害」で、Bが「こだわり」なんです。この「こだわり」というのは、非常に同じものにこだわる。例えば、スケジュールが変わるともうパニックになる…わかりますね。これは大学生ぐらいまでも比較的続いている子がいて、かなり前もって「スケジュールが変わることもあるよ」と言わないと、パニックになったりします。

逆に言うと、臨機応変に対応するような仕事が非常に難しい…ということになっていくんですね。そう考えると、職業としては、小学校の先生とか毎日臨機応変に対応しないとイケないので、実はなかなか難しくなっています。

あとは、食事に対するこだわりとか、同じものを集めるとか、そういう「こだわり」があります。

「社会性の障害」とはどういうことなのか…次のページに載せています。「社会性」というのは、ひと言で言うと同じ年代ぐらいの友達を作る、集団で遊ぶ、あとは自然に決まっているルールに従う。他人の気持ちを推し量る、他人の立場に立ってものを考える…すごく社会性で大事ですよ。相手の立場に立ってものを考える。そして私達は、自分に気持ちがあって他人にも気持ちがあると、「必ずしもそれが一致しないんだよ」ということを知っていますよね。

でも、ASDがある人達というのはこれがなかなかピンとこない人が多いです。次にご紹介するのが、『こころの理論』と言います。

これには一次課題と二次課題がありまして、二次課題はすごく難しいんですけど、今日は一番簡単な一次課題を持ってきました。『サリー・アン課題』とも言います。これは、先生方の資料には載せていないんですけども、インターネットとかにもたくさん出ていますので、ちょっとスライドでお示ししますので、考えて頂いていいですか？これは本当の『サリー・アン課題』ではないんですけど、少し変えてあります。

「女の子がボールで遊んでいます。ボールを箱にしまって部屋を出て行きます。男の子が部屋に入ってきました。ボールを見つけて、バッグに入れ替えて部屋を出て行きました。女の子が戻ってきました。またボールで遊ぼうと思った女の子は、箱とバッグのどちらを探すでしょうか？」…という問題です。…これは「箱」ですよ。

この答えは「箱」なんですけれども、僕は脳の機能を調べているんですけど、いわゆる脳科学的には「女の子の立場になったら男の子が入ってきたことを知らないじゃないか。だから箱なんだ」ということが脳の中で一瞬にして処理されている、と言われていて、「ミラーニューロン」という神経細胞の一群が関与していると言われています。「ミラー（鏡）ニューロン」、この一



瞬にしてわかるということが大事で、何も考えずに「箱」って湧いてきた、という感じですね。この“何も考えずに「箱」って思えること”がすごく大事です。

ちなみにこれを「定型発達」と言って、典型的に発達していている子どもでは、4歳ぐらいから「箱」と言うようになるんです。遅くても5歳で「箱」と言うようになります。…そう考えると、早くないですか？結構早いんですよね？4歳で「箱」と言えるようになるんです。

この課題をASDの子にやってもらった研究がいくつか出ていまして、IQが100あるのに数年遅れるんですね、「箱」って言えるようになるまでに、数年遅れます。つまり、IQは100あるのに、この課題を答えるのに数年遅れるということは、この課題を「箱」と言えるようになるのは、IQだけの問題じゃないということがわかりますよね。つまり、勉強ができてでも他人の気持ちになれないというのは、僕らからしてみたらあり得ると思う訳です。

この課題は、考えに考えて「箱」と言えるようになってでも正解なんですけど、すごく考えて「箱」と言えるようになる子もいます。でも、その考えて言えることがすごく大事なんですけどね。

他にも、ASDの子どもとか大人に見られる特徴があって、基本的に聞くことが苦手で、見るのが得意です。このあたりの先生方のご指導に活かして頂けたら…発達障

害の子どもって、大体そういう子が多いんです。耳からの情報が苦手で、目からの情報は比較的得意です。だから、ゲームがすごく得意な子が多いですね。

視覚情報が比較的得意なので、あまり耳からだけ「○○したらあかんで」みたいなことだけ言っていると、なかなかぴんと来ないので、書面にするとかそういうことをして、視覚情報として渡していくことがすごく大事ですよ。あとは約束も、その場でスマホのスケジュールに入れさせると、すごくそういうのが大事です、目から入れさせる。

あとは不器用な子が多いとも言われます。小学生ぐらいだったらハサミの使い方が苦手であったりとか、蝶々結びがなかなかできないとか、そういうようなこともあります。小学校の先生方も、最近では「不器用」というキーワードだけで「発達障害っぽい」とか感じるとおっしゃっている方もおられます。あとスキップが苦手とか、そういうのも案外あると言われています。スキップなんて方法を教えてもらったこともないのに、案外みんなできますよね。

あとは、『知的障害のないASDによく見られること』が最近言われています。知的障害はないけども…ということなので、大学に進学する場合も多いです。言葉はよく知っているけれども、「言葉を字義通り受け取る」…これは言葉をそのまま受け取るとのことです。

ASDに効果がある治療薬というのがないんですね。…それはそうですね、薬を飲んだら社会性がすごく上がると、そういう薬はないので…もちろん診断は付けたり、アドバイスはするんですけど、「画期的に治すような薬はありませんよ」という話です。この辺に関しては、また後でお話したいと思います。

あと今日取り上げるもう1つの発達障害というのが、「ADHD」です。「ADHD」というのは中核症状が「不注意」「多動」「衝動性」です。実は、今日あまり詳しいことを話していないですけども、「不注意」の中に「実行機能」というものも入れています。「実行機能」には代表的には「順序立てて物事をする」ことがあります。

こういう時に例えば、小学生ぐらいで言うとかドリルとかはできるけれども自由研究が苦手とか、作文が苦手とか。大学生で言うと、座学とかテストは案外まあまあいい点を取っているけど、卒論がどうしても進まない。卒論というとかかなり長いスパンで考えて、例えば1月の何日に卒論を提出するためには、12月の末ぐらいまでには1回書き切って…とか、後は10月の末ぐらいまでにはデータを…という逆算ができないと、なかなか卒論は書けないですね。順序立てて物事をするのが、すごく苦手な学生がいます。これを「実行機能」と僕達は言っています。

あと忘れ物ですよ。あと、ものをなく

す…特に大事なものを、ですね。あと多動…これも大学生ぐらいになったらさすがに、授業中にうろうろ立ち歩いたりすることはないですけども、ワーンと喋り過ぎたり、そういうこととして症状が出ます。衝動性も、いきなり暴力を振るったりというのはさすがに大学生ではないと思いますけれども、順番を待てなかったりとか、パッと気づいたらパツとしてしまうとか、そういう風に症状としては出て来ています。衝動的な買い物をするとか、そういうところでは残っています。

発達障害の中で最も頻度が高くて、小学校では大体5%ということで、30人学級で1.5人ですね。こういう子ども達、こういう大学生を見ると、「どうなっているんだ」と僕達はついつい…僕ですら思ってしまいます。例えば電車の中で騒いでいる子どもを見たら、「ちゃんと親は注意しろよ。親の躾はどうなっているんだ」とついつい思ってしまうんだけど、本当にADHDだったら脳の機能の問題で、親のしつけは関係ありません。

研究が1つあって、これは僕の研究なんですけど、奈良医大でやった研究です。今奈良医大の看護学科で教授をされている飯田先生の指導の下でやったんですが、脳の前の方、前頭葉でももっと前があるんですけど、「前頭前野」と言いまして、この辺が非常に不注意とかに関係してきていると言います。おでこのすぐ裏側です、おでこ

のすぐ裏側を「前頭前野」と言うんですけど、その機能を簡単に測れる機械がありまして「NIRS」と言うんですけども、これを使って…この機械は医大にあるんですけど、脳の前の方の働きをADHDの子どもで見ました…という研究です。

次のページに行ってください。縦が20単語、横が5列、つまり100個の単語があります。まず課題1は黒のインクで「あか」「みどり」「あお」…という風に平仮名でランダムに書かれています。100個、「あか」「みどり」「あお」…これはただ単に読んでいくだけです。平仮名で書かれていますので、小学校1年生でもできます。これですね、「あか」「みどり」「みどり」「みどり」「あお」「あか」「あお」…ぐらいの速さで読んでもらいます。

45秒経ったら、課題が突然変わります。最初から約束をもちろんしておく訳ですけど、「今度はインクの色を答えてね」と…上は「みどり」、下は「あか」ですね。また45秒経ったらこれになります。また45秒経ったらこれになります。45秒経ったらこれ、45秒経ったらこれ…ということで、45秒×3回ずつやります。これは、大人でもへとへとになります。

なぜへとへとになるかというと、課題1をさせられているので「あか」と言いそうになるんですね。「あか」と言いそうになるのを我慢して「みどり」と言わなければいけません。「みどり」と言いそうになる

のを我慢して「あか」と言わなければいけません。つまり、「あか」と言いそうになる衝動性をコントロールして、「みどり」と言わなければいけません。

次のページですね、左がADHDの子20人、右が定型発達の子20人、20人ずつにこの課題をしてもらいました。そうするとこういうデータになって、左側がADHDの子20人、右側が定型発達の子ですね、典型的に発達している子で、これは1人のデータではなくて、20人のデータを足して20で割っています。つまり20人分のデータです。

この黒い線と黒い線の間に、さっきお話しした課題2をしています。つまり、「あか」と言いそうになるのを我慢して「みどり」と言う、この課題をここに…黒い線と黒い線の間にさせているんですけど、定型発達の子は黄色・橙・赤になるに従って血流が増えているんですね。でも、ADHDの子は全然増えていません。つまり、「あか」と言いそうになるのを我慢して「みどり」と言う課題をさせた時に、定型発達の子は脳の前の方の血流が増えると。でもADHDの子は全然増えていなかった。つまり、脳の働きに問題があるというのが、この2010年の研究です。

僕達はその後、「ADHDの子どもがADHDの薬を飲んだ後に何ヶ月かして再度NIRSで測ったら、定型発達の子と同じようなデータになっている」という論文を出しました。こういう風に、客観的な評価

にこのデータが使えるんじゃないかなと思っています。

実はADHDに関しては、次のページですけれども、ADHDには実は薬があるんです。不注意・多動・衝動性を治すような薬があります。『薬物療法』ということで、次のページ…いくつか薬が出ていますので、薬を使うのも1つの手だと思います。全員に使えるということじゃなくて、薬を使うのも1つの手じゃないかなと思っています。実際ADHDは、「脳のドーパミンとノルアドレナリンの調整に問題がある」とされているので、ドーパミンとノルアドレナリンの調整をしてくれるような薬がADHDの薬です。

『ライフサイクルから見た…』というところなんですけど、次のページに行って頂けますでしょうか。しつこいんですけど、「大学生になって急にいろんな問題が出ているのではなくて、思春期ぐらいからいろんな問題が出ているんだよ」という話をしました。

このスライドは僕と大西貴子先生という、うちの大学の障害児心理の特任准教授なんですけど、一緒に書いた本の中に書かれています。何かと言うと、発達障害の子ども達も小学校ぐらいまでは何とかやっていけているよ、という話なんですけど、本人と学校の課題の間に担任の先生がマネジメントをやってくれたりとか、家庭ではお母さんがマネジメントをやってくれたりするのに、中学校以降になると急に…例えば教科

担任になるので、担任の先生が全ての教科の持ち物とかをなかなか理解していないですよ。急にこのマネジメント役が外れると。

なぜかお母さんも、中学生になったら「時間割ぐらい自分でできないといけない」と急に言い出しまして、時間割をしないようになるんですね。そうすると一気に問題が出て来て、急に忘れ物が増えたりします。

もちろん大学生になると、いろんなマネジメントをお母さんがなかなか…それぞれの課題がいつ締め切りなんて、親御さんはわかりにくいですよ。だから、中学生以降マネジメントする役がいなくなるので、一気に崩れるんだよ…ということを模式図で表してみたものです

『発達障害がある子どもにおける思春期の課題』ということで、これは思春期以降という意味なんですけど、まずよく怒られています、思春期までに。…それはそうですよね、不注意で多動で衝動的なので、まあ怒られています。ずっと怒られ続けているから、自尊感情が低下しています。さっき、1回目の講演の話を…僕は聞けていないんですけど、僕自身は叱ってもいいという立場なんですね。

ただ、誉めるのも同じ程度にやってよと…つまり、叱られてばかりでは自尊感情が低下しますよね。圧倒的に低下します。そうすると、「もうどうでもええやん」…中学生ぐらいになって「どうでもええやん」

という状態になっているのを治すというのは、非常に難しいです。

「1回やってみようよ」と言っても、「いや、もういいです」と、やっても失敗しますし、ずっと失敗してきて怒られてきているので、「1回やってみる」というのをなかなかしないですね。先ほど僕が言いました、思春期の3つの変化にうまく対応できないと、二次障害が強くなる傾向にあります。…というのは僕の主観ですけど、いろんな本にも書かれています。

先生方、最初の方に僕がお示しましたが、これがすごく大事だと言いましたよね。このキーワードになるのが、僕は「友達」だと言いました。発達障害の子どもは社会性に乏しいので、友達がなかなか作りにくんです。1人ぐらいいるかも知れませんが、多くの友達がいるとか自分の悩みを相談するとか、体の変化を相談するとか…さっき僕は男の子の話をしましたが、女の子だと例えば小学校6年生ぐらいになって、胸が膨らんできて下着を着けたりする時に、ちょっと前から着けている友達と話せると、すごく安心するんですね。でもそういうことも相談できない場合は…これは非常にしんどいです。

友達がいれば、「自分だけじゃないんだ。体が変化しているのは自分だけじゃないんだ」というのが安心感になります。そして、普通だったら友達→親→友達→親と揺れながら、だんだん友達にシフトしていくのに、

でも友達がいないと、悩みを言うこともできない、USJに行こうにも、誘ってくれる友達がいない。立ち位置の確認も友達関係がないので、そのまま大学生になっている、そのまま社会人になる。…これは、不適応をおこす可能性もありますよね。二次障害の中で、「統合失調症様症状」というのを1つ赤字にしていますけど、これは「統合失調症のような症状が出る」ということで、ADHDよりASDの子どもに多いです。

「統合失調症」という病気があって、これは他の人だったら聞こえないような声が聞こえている、他の人だったら見えないようなものが見えている。それから妄想ですよね、妄想というのは他人に理解できないような考えを言います。かつ、訂正不可能です。例えば、「私は神様の生まれ変わりだ」…妄想ですね。

「統合失調症」という病気の人が100人に1人ぐらいいます。実は統合失調症自体も思春期ぐらいから20代前半に発症することが多いんですが、僕がここで話しているのは、発達障害なのに統合失調症と間違えられている…5年ぐらい前に『精神看護』という雑誌に『発達障害なのに、統合失調症と誤診されているケースがある』という論文を、総説なんですけど書きました。統合失調症じゃないのに、統合失調症のような症状が出てきたASDの子のことを書きました。

つまり、思春期以降大学生ぐらいでいろ



んな問題が出てくるんだけど、発達障害がある学生の場合は、実はそういう二次障害として表れている。つまり、「原因はだいたい前にあるんですよ」というのがこのスライドです。

僕自身は大人になってから…大学生ぐらいでもそうですけど、発達障害の対応って非常に難しいと考えています。これはある雑誌に載せた、「大人になってからの発達障害は難しいよ」というスライドなんですけれども、まず診断が難しい。なぜならば、発達障害というのは幼い頃からある訳で、幼い頃からの発達歴というものを、大人になればなるほどそれを聴取するのが難しい。

例えば、50歳ぐらいの人に「私は発達障害ではないでしょうか」と来られても、「5歳の時にどうだったか」なんて聞けないですよ。そういうことがあります。

あとは、発達障害自体の症状よりも、共に持つ症状…「併存症」と言いますけれども、二次障害の問題が前面に出て来て、発達障害の問題なのかうつ病の問題なのか、よくわからなくなっているのがややこしい。あとは、幼い子ならトレーニングがあるんですよ。だけど、二十歳の人にトレーニングなんてほとんどないんですね、発達障害の子の。だから、こういうトレーニングもないから難しい。

これはある研究で、大人のADHDの人の24.8%に気分障害…これは躁病とかうつ病ですね、ADHDの38.1%の人に不安障害…

非常に不安が強い。つまり、ADHDの発達障害の人に、大人になったら他の病気も非常にいっぱい絡んできていますよ、というスライドなんです。だから、これを主な訴えとして精神科医に来るので、発達障害なのかどうなのか、精神科医も気づきにくいということがあります。

また次のページに行って頂まして、これはADHDという障害が幼い頃から大人になるまでにいろんな問題が変わってきますよ…というスライドなんです。幼い頃は例えば抱きにくいとか、はしゃぎ過ぎる。学童期になると、じっと座ってられない。あとは思春期・青年期になると成績が不良になる、約束を守らない。

大人になると、転職を頻回にするとか、交通事故をよく起こす…そういう問題になって出てきます。交通事故も、衝動性の問題だと言われています。時間感覚がない…これはありますよね、約束して「何時に来て」とゼミの学生に言っても平気で来ない…そういうこともよくありますよね。

次のページに行って頂まして、発達障害というのは残念ながら治らないんです。今の医療では治らない。元々生まれ持ったもので、治らない。…じゃあ、どうしていったらいいのか。治療は症状をなくすというのは難しく、自分の特性を十分に理解し、それら特性と折り合いをつけ、それぞれのレベルに応じて社会適応していけること、つまり「自分はこういうことが苦手ですよ」



ということをしっかり理解して、その工夫をどうしていくのかを自分で考えることがすごく大事ですね。

約束を守りにくいなら、さっきも言いましたけどスマホに必ず入れて、そして1時間前にアラームを鳴らすとか、そういうことをちゃんとやらないと「社会でやっていけないよ」ということなので、自分でわかってもらわないといけない。そしてある程度社会も、発達障害を理解していくと、いくことがすごく大事なんじゃないかな、と思います。

少し飛ばして頂いて、26ページお願いします。すみません、もうあと数分で終わります。発達障害の子ども達・学生に支援って、すごく難しいですね。ここも実は、答えがある訳ではありません。日々悩みます。何で悩むかと言うと、例えば視覚障害の大学生がいた時に、視覚障害の人は視覚情報を受け取ることには困難がある訳だから、特別な教材を用意したらいいですね。例えば、音声での情報提供をすれば、視覚障害があるのだから、音声で耳から聞いて情報提供する。でも、普通は、成績評価の60点は変えないですね。60点以上で合格というのは変えないですね。視覚情報では入力が困難だから耳からの情報を提示するけれども、合格点の60点は変えません。

それでは、ASDの学生が授業を受講している時はどうでしょうか。コミュニケーションそのもの、社会性、こだわり、それらの

特徴にかなりの差がある。大学での学習においてどのような問題を持ち、どこにハンディがあるのかを明確にするのが実は難しいです。そして、どこまで、どのような支援をすれば良いのか、コンセンサスは今のところないんです。更に…これも先生方は困るでしょう、その障害があることをどのように証明するのか？という問題もあります。

例えばいわゆる「合理的配慮」ですけれども、「合理的配慮」にも強い支援とやわらかい支援があって、強い支援というのは試験時間の延長とか、試験での成績を例えばレポートで判定する、これはかなり強い支援になってきます。こういうある程度強い支援は、診断書や障害者手帳をもって障害を証明できて、支援に全学的なコンセンサスが得られないと、僕は強い支援というのは難しいんじゃないかなと思っています。

でもやわらかい支援…例えば講義の資料を箇条書きにすればとか、大きな文字で書く、なるべく資料を先に与えておくと、発達障害の子はかなり楽ですからね。これは、障害の証明がなくても個々の教員の判断でやっていく、ということも大事な面かなと思います。これは、日本学生支援機構のホームページに非常に具体的な記載があって、役に立ちます。

あとは『産業精神保健』ということで、就労ということで先生方も非常に困られると思うんですけど、ちょっと弱い領域の話

だけをしましたが、目の前の彼にとって得意なところは何だ？ということも、就労支援に活かして頂けたらと思います。

だから、やっぱりさっきも言いましたが、社会性が問題があるなら、通常は営業職は難しいですね。あとはADHDで順序立ててすることが苦手なら、マニュアルがかなり決まっている仕事の方が、比較的うまく行きます。自分で考えて段取りをするような仕事は、非常に難しい。つまり、本人も得意・不得意を知る。

あとは『医療機関に紹介するケース』ということで、いくつか挙げておきました。…ただどうでしょうか、難しいのはここじゃないですかね。特に精神科は、受診がすごく難しいという風に言われます。やっぱり基本的に、「あなたは病気だと思う」とか、「あなたはADHDだと思う」「あなたはASDだと思う」という言い方では、あまりいいことはないと思っています。

じゃあどうするのか？ということですが、一番困っている症状を取り上げる。例えば「眠れない」。すごく眠れないということで、「しんどそうだよ」とか、「食欲がない」「不安である」「イライラが強い」…イライラが強くてすごく困っているので、「すごくしんどそうだよ」…そういう症状を取り扱っているのは「精神科なんだよ」または「心療内科なんだよ」ということを伝える。

例えば摂食障害なんかは、いきなり精神

科に紹介するよりも身体科、体の症状を診るようなお医者さんに紹介してもらえれば、まずそこから精神科に紹介して頂けると思うので、身体科を挟むのはすごくいい方法だと思います。まずは保健管理センターなどに繋げるということが、すごく大事なんじゃないかなと思います。だからこの間に、こことこの間に保健管理センターを入れるということは、いい作戦じゃないかなと思います。

あとはほぼ最後の方のスライドですけども、本人も周囲も、その学生の特性をよく理解する。でも、大学生ぐらいになると周囲が理解するだけではなくて、自分も理解して気を付けていかなければいけない、と思います。例えばADHDのある学生で平気で約束の時間に40分ぐらい遅れてきて、「すみません先生、僕ADHDなので…」と笑ってやって来る学生がいるんですけど、「社会では許されない」と言います。「大人」として今後生きていくにはいろんなことが…「ADHDだからといって許されない」とはっきり言います。

そして一方で、「君はダメな人間なのではなくて、ある一定の特性を持つ一つのグループをなす一員である」ということも伝えます。ADHD的な特性、ADHDという不注意なんかの特性を持つたくさんのグループが、そういう人達が集まるグループがあって、「そういうグループの一員なんだよ」ということも伝えます。

先生方に、発達障害の基礎的な知識を持って頂きたいということに加えて、それぞれの学生のできたら得意な点を見つけて頂きたいといつも思っていて、うちの学生は教員になりますので、学生にも常にこのスライドを見せて、「君達が子ども達の得意なところを見つけるのはめちゃくちゃ大事なんだ」ということを伝えたいので、15回の授業の中で何度かこのスライドを出します。こういうことができるような学生であれば、教育とか支援に向くんじゃないかなと思っていて、僕は医者ですので、治療にも関わって頂ければと思います。

最後に、本日の参考文献なども入れておきました。ちょっと、思っていたより時間が過ぎてしまいましたが、僕のお話はこれで終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

**司会：**

どうもありがとうございました。

それでは、まだ少し時間がありますので、ご質問等ございましたら、折角ですので頂けたらと思います。いかがでしょうか。…どうぞ、ご遠慮なく。はい、どうぞ。

**質問者A：**

奈良医大から参りました●●と申します。心当たりがあるような事例がたくさん出て来て、学生が実習所から「来て欲しくない」と断られるような失敗があったり、教職員

にも当てはまることもあるかな、という風に思います。

大人になってしまって障害を持っているかも知れないと思った時に、スライドにあったと思いますけど、本人が困っていなければ治療や支援の手が出にくくて、それをどういう風に伝えてあげたらいいのかというところで、結構悩んでいるのかなと。

本人は全く困っていないが、周りがすごく困っていることが多いので、そういう場合の対応というのは、どう考えたらいいんでしょうか。

**根来：**

はい、よくご質問されます。なかなか正解はないんだろうなと思いますけど、まず職場での浅い関係ぐらいでそれを言ってしまうのは、今まで良かったとは全然聞かないので、それを言うというのは非常に危険だと思うんですね。基本的にはかなり親しい関係じゃないと、言うのは危険だろうというのが僕の意見です。

逆に言うとかかなり親しい人からすれば、本人は困っていなくて周囲の人だけが困っているということがあると思うのですが、実はそれで本人にも返ってきていることがあると思うんですね。だから、かなり親しい人じゃないとそのことを言いにくいと思うので…とは言え「こういうところでトラブルになっていたよ」とか、後は比較的損得で言うとう理解してもらいやすいというの

は時々聞きます。「こういうところがすごく損だと思う」とか、そういう感じで言うと比較的理屈してもらえないんじゃないかなと思うんですけど、それも先ほどから言っていますように、かなり親しい関係の中で言っていないと、難しいだろうなと思います。かなり親しい同僚、または家族とか、そうでなければなかなか難しいなと思っています。

つまり、今医療にかかっていない人からさせることの本当の難しさですね。これは発達障害以外にも言えるんじゃないかな、と思います。より難しいのは、統合失調症なんかで他の人を傷つけるような可能性があったりすると、強制的な入院なんかも可能性がありますけどね。発達障害はなかなかそういうことが難しいので、やはり「強引に」というのは、今の時点では、法律的にも難しいと思います。答えになっていないかも知れませんが、はい。

**司会：**

どうもありがとうございました。まだご質問等はあるかと思いますが、予定の時刻が参りましたので、またこれを機に本学の根来教授とコンタクトを取ったりして、奈良県のためにいい方向に進んでいければ…と思います。

それでは改めまして根来教授に、盛大な拍手をお願い致します。ありがとうございました。それではこれを持ちまして、本研

修会を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

# 活 動 記 録

## 2018年度奈良県大学人権教育研究協議会活動報告

### ○2018年度総会及び記念講演会

日 時：2018年5月19日（土） 13：00～15：30

場 所：奈良女子大学

総 会 コラボレーションセンター3階 第1会議室

記念講演会 コラボレーションセンター3階 Z306教室

総会 13：00～13：50

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 議事
  - ア. 2017年度活動報告
  - イ. 2017年度会計報告
  - ウ. 2017年度会計監査報告
  - エ. 役員改選 議長から説明、承認
  - オ. 2018年度新役員紹介
  - カ. 2018年度新会長挨拶
  - キ. 2018年度事業計画（案）及び予算（案）について
  - ク. その他
5. 閉会

記念講演会 14：00～15：30

講演者：岡山大学大学院教授

中塚 幹也 氏

演 題：「性同一性障害をめぐる諸問題と対応の課題」

参加人数：45名

### ○第1回幹事会

日 時：2018年10月15日（月）

（メールによる持ち回り審議）



議 事：

【審議事項】

1. 2018年度講演会の開催について

【報告事項】

1. 行事日程及び幹事会日程

○第2回幹事会

日 時：2018年11月17日（土） 13：35～13：50

場 所：奈良教育大学 本部管理棟2階 第一会議室

議 事：

【審議事項】

1. 研修・交流会の開催について
2. 2018年度 研究報告編集について
3. その他

【報告事項】

1. 過去の研究報告及び関係書類の廃棄について
2. 今後の予定について
3. その他

○2018年度講演会

日 時：2018年11月17日（土） 14：00～15：30

場 所：奈良教育大学 本部管理棟2階 大会議室

講演者：有限会社ハートプロ代表取締役

河村 晴美 氏

演 題：「『厳しく指導する』ということの問い直しと実践」

参加人数：33名

○第3回幹事会

日 時：2019年2月23日（土） 13：00～13：50

場 所：奈良教育大学 本部管理棟2階 第一会議室

議 事：

**【審議事項】**

1. 新旧合同幹事会の開催について
2. 2018年度総会 及び 記念講演会の開催について
3. 会費の見直しについて
4. その他

**【報告事項】**

1. 会費について
2. 幹事校における人権に関する取組の紹介・意見交換

**○2018年度研修・交流会**

日 時：2019年2月23日（土） 14：00～15：30

場 所：奈良教育大学 本部管理棟2階 大会議室

講演者：奈良教育大学教育学研究科専門職学位課程教授

奈良教育大学特別支援教育研究センター長

根来 秀樹 氏

演 題：「今どきの大学生のころ・発達」―指導や教育に活かせる精神医学―

参加人数：42名

**○新旧合同幹事会**

日 時：2019年4月20日（土） 13：00～13：20

場 所：奈良教育大学 本部管理棟2階 大会議室

議 事：

**【審議事項】**

1. 2019年度総会及び記念講演会について
2. 2018年度活動報告について
3. 2018年度決算報告について
4. 2019年度会長校及び役員大学の選出について
5. 会費の見直しについて
6. 2019年度事業計画（案）及び予算（案）について
7. その他

**【報告事項】**

1. 今後の予定について
2. その他

2018年度 奈良県大学人権教育研究協議会役員名簿及び連絡先

| 役職名   | 氏 名     | 大 学 名                      | 所在地（事務担当連絡先）                                                      |
|-------|---------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 会 長   | 加 藤 久 雄 | 奈 良 教 育 大 学                | 〒630-8528奈良市高畑町<br>TEL:0742-27-9106<br>FAX:0742-27-9141           |
| 事務局長  | 宮 下 俊 也 | 奈 良 教 育 大 学                | 〒630-8528奈良市高畑町<br>TEL:0742-27-9106<br>FAX:0742-27-9141           |
| 副 会 長 | 平 林 春 行 | 白 鳳 短 期 大 学                | 〒636-0011北葛城郡王寺町葛下1-7-17<br>TEL:0745-32-7890<br>FAX:0745-32-7870  |
| 幹 事   | 川 島 二 郎 | 天 理 大 学                    | 〒632-8510天理市柚之内町1050<br>TEL:0743-63-9001<br>FAX:0743-63-1264      |
| 幹 事   | 堀 田 新五郎 | 奈 良 県 立 大 学                | 〒630-8258奈良市船橋町10番地<br>TEL:0742-22-4978<br>FAX:0742-22-4991       |
| 幹 事   | 松 山 仁 志 | 天 理 医 療 大 学                | 〒632-0018天理市別所町80-1<br>TEL:0743-63-7811<br>FAX:0743-63-6211       |
| 幹 事   | 飛 世 昭 裕 | 帝 塚 山 大 学                  | 〒631-8501奈良市帝塚山7-1-1<br>TEL:0742-48-9185<br>FAX:0742-48-9386      |
| 幹 事   | 中 城 進   | 畿 央 大 学                    | 〒635-0832北葛城郡広陵町馬見中4丁目2-2<br>TEL:0745-54-1601<br>FAX:0745-54-1600 |
| 幹 事   | 吉 田 明 史 | 奈 良 学 園 大 学<br>奈良文化女子短期大学部 | 〒631-8523奈良市中登美ヶ丘3-15-1<br>TEL:0742-93-5433<br>FAX:0742-95-9850   |
| 監査委員  | 今 岡 春 樹 | 奈 良 女 子 大 学                | 〒630-8506奈良市北魚屋東町<br>TEL:0742-20-3204<br>FAX:0742-20-3205         |
| 監査委員  | 平 田 博 也 | 奈良芸術短期大学                   | 〒634-0063橿原市久米町222<br>TEL:0744-27-0625<br>FAX:0744-27-0433        |

# 資 料

## 結 成 宣 言

部落問題は、我国の最も重大にして深刻な社会問題であり、人権侵害の社会的現実として存在する。しかし、まだ多くの国民は、この現実を知らないし、また知っていても関わりを持ちたがらない。それらがいまでも差別を存続させている。近代日本の歴史は、これまでの思想や学問、教育のなかに差別的な体質をもちつづけてきた。そのなかで部落差別や人権侵害の社会的存在をあきらかにしてきたのは、それへの苦闘をかさねた部落解放運動の歴史的なたたかいであった。それゆえに、部落差別についての正しい認識と解決への意欲なしには、日本文化を理解し、日本人として人間を解放することはできない。

とりわけ、全国水平社の発祥地、奈良県では、戦後いち早く、長欠不就学児童生徒のきびしい差別の現実には教師たちは直面し、1952年から同和教育への取り組みをはじめた。今日では全国の幼、小、中、高校において、教育権の保障、進路保障および差別を許さない人間形成の教育実践が推進されている。また、1983年には、全国大学同和教育研究協議会が結成されたが、本県においてもようやく本協議会の結成を見るにいたった。奈良県内の大学では、これまでも数多くの差別事件が起こっており、その解決に向けて今後いっそうの研究と教育に対する充実整備への取り組みに努力しなければならない現状にある。それには、これまで大学の体制の中に、むしろ差別を温存助長してきた体質の側面をもっていたことを素直に認めなければならないであろう。

本来、大学が果たす教育や研究の社会的使命と役割には、部落差別の解消という国民的課題に応える義務があり、また、学生に同和教育を正しく位置づけ推進するという課題をもっている。そのためには、一人ひとりの大学教職員が部落差別の解決をみずからの問題ととらえ、これと取り組むことから始めなければならない。さらには、障害者、民族、性、生活習俗などのあらゆる差別問題の解決に、それぞれの立場から研究と教育の実践にむけていく必要がある。ここでは、当然、各自の専門専攻分野の枠をこえ、社会の現実に関心をもち、研究、教育への態度と努力が求められているのである。しかも大学は、学生に対して、人権尊重の精神と差別を許さない人格形成への教育を推進するため、人権問題の研究室や専門科目の設置など条件の整備充実を早急に図ることが迫られている。同時にそれは、差別と人権の学問研究を通して、大学における専門とはなにか、学問とは



なにか、大学とはなにか、と問われているのである。

さて、いまや日本は国際人権規約を批准した国となった。それはいかなる国家の国民に対しても、国籍や性別をこえ、一人の『人間』としてとらえ、その人権を保障するものである。したがって、部落差別をはじめ人間に対するさまざまな人権問題をとらえ、その解決に取り組むことは、まさに大学においても国際的課題なのである。

われわれ大学教職員は、研究と教育の推進にたずさわると同時に、また、一つの『人間』として差別解消に取り組む連帯の輪をひろげ、人権尊重の思想・文化・学問などの研究交流や共同研究の場をつくりあげねばならない。さらには、大学はその使命として人権問題研究の条件整備をはかり、国際的視野にたった学生の人格形成への教育に努めなければならない。いま、それは大学の果たすべき役割として緊急にせまられている課題である。

本日の結成総会において、われわれは決意を新たにし、これらの課題にむけて前進することを宣言する。

1986年12月22日

奈良県大学同和教育研究協議会結成総会

## 奈良県大学同和教育研究協議会の名称変更について

平成16年5月22日の第19回総会において、奈良県大学同和教育研究協議会の名称が、奈良県大学人権教育研究協議会と変更されることが決定しました。

今後、奈良県大学人権教育研究協議会として、部落問題をはじめすべての人権問題を重要な課題と認識し、これまでの同和教育の成果をふまえ、人権教育を研究し、推進していきます。

2004年5月22日

奈良県大学同和教育研究協議会第19回総会

## 奈良県大学人権教育研究協議会 会則

第1条（名称及び事務局）この会は、奈良県大学人権教育研究協議会といい、事務局を会長の指定する場所におく。

第2条（目的）この会は、部落問題をはじめすべての人権問題を重要な課題と認識し、これまでの同和教育の成果をふまえ、人権教育を研究し、推進することを目的とする。

第3条（構成）この会は、前条の目的に賛同し、人権教育を推進する大学で構成する。

第4条（事業）この会は、会の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 人権教育の内容・方法の研究成果ならびに実践の交流
2. 研究会、講習会の開催
3. 調査・研究ならびに資料の刊行
4. その他、目的達成に必要な事項

第5条（機関）この会に、次の機関をおく。

1. 総会
2. 幹事会
3. その他、必要に応じ機関をおくことができる。

### 1. 総会

総会はこの会の最高議決機関であり、加盟大学で構成し、年度毎に開き、次の事を行う。

- (1) 会務・決算の報告と承認
- (2) 活動方針・予算の審議と決定
- (3) 役員の決定
- (4) 会則の決定及び改廃
- (5) 幹事会等に付託する事項
- (6) その他必要な事項

必要に応じて、幹事会の議を経て、臨時総会を招集することができる。

### 2. 幹事会

幹事会は、会長、副会長、事務局長、及び幹事で構成し、次のことを行う。

- (1) 総会が認めた事項の執行
- (2) 緊急を要する事項の執行（この場合、総会に報告しなければならない。）
- (3) その他必要事項

第6条（役員及びその任期）この会の運営にあたるため、次の役員をおき、任期を1ヶ年とする。但し、再任を妨げない。

会長 1名 副会長 1名 事務局長 1名 幹事 若干名  
監査委員 2名

第7条（役員の任務）役員の任務は次のとおりとする。

会 長 この会を代表し、会務を統括する。

副 会 長 会長を補佐し、会長に事故あるときは、その任務を代行する。

事務局長 この会の業務を処理するとともに、この会の会計をつかさどる。

幹 事 この会の事業の執行にあたる。

監査委員 この会の会計監査を行う。

第8条（役員の選出）役員は、総会の承認を得て決定する。

1. 幹事及び監査委員は、総会で選出する。

2. 会長、副会長、事務局長は、幹事のなかから選出する。

第9条（会計）この会の経費は、会費・寄付金及びその他の収入をもってあてる。会計については別に定める。

第10条（会計年度）この会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

第11条（会議）この会の会議は、会長が招集する。但し、幹事会の決議のある場合は招集しなければならない。

1. この会の総ての会議は、構成大学の過半数の出席で成立し、議事は出席者の過半数の賛成で決する。

第12条（加入）この会に加入しようとするものは、幹事会の承認を得なければならない。

第13条（会則改正）会則は、総会において出席者の3分の2以上の賛成により改正することができる。

付 則 1.（会則の施行）この会則は、1986年12月22日より実施する。

付 則 1.（会則の施行）この会則は、2004年5月22日より実施する。

奈良県大学人権教育研究協議会 加盟大学・短期大学一覧表  
(順不同)

| No. | 大 学 名             |
|-----|-------------------|
| 1   | 奈良女子大学            |
| 2   | 奈良教育大学            |
| 3   | 天理大学              |
| 4   | 奈良県立大学            |
| 5   | 奈良県立医科大学          |
| 6   | 帝塚山大学             |
| 7   | 奈良先端科学技術大学院大学     |
| 8   | 畿央大学              |
| 9   | 奈良学園大学            |
| 10  | 奈良大学              |
| 11  | 天理医療大学            |
| 12  | 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 |
| 13  | 奈良芸術短期大学          |
| 14  | 白鳳短期大学            |
| 15  | 奈良佐保短期大学          |

## 編 集 後 記

奈良県大学人権教育研究協議会は、部落問題に端を発する同和教育を推進することを目的に設立されました。現在では15の大学・短大を構成校とするに至り、同和教育の成果を踏まえて、さらに広く全ての人権問題を課題として取り上げ、大学における人権教育をさらに推進してゆくことを目的としています。また協議会での主な活動として、毎年度、学生や教職員にとって身近で具体的な人権問題をオムニバスのテーマ化し、構成校が自由に聴講できる講演会を年数回開催しています。

本年度の最初となる5月の記念講演会では、昨年度に引き続きセクシャルなテーマ「性同一性障害をめぐる諸問題と対応の課題」の題目でお話いただきました。

「LGBT」や性的マイノリティに関しては近年認識が高まっていますが、いまだに課題が多いということを、具体的な事例を取り上げてご説明いただきました。これは大学のみならず、あらゆる教育の場においても対応を図っていかなければならない喫緊の課題です。本協議会においても、また構成各校それぞれにおいても、この講演会でご教示いただいたことを機に、改善・対応に向けて努力していかなければならないものと強く認識いたしました。

2回目となる11月の講演会では、学生の人権を尊重した大学教育のあり方をテーマに、『厳しく指導する』ということの問い直しと実践』の題目でお話いただきました。

大学教育において学生の人権を尊重することは言うまでもないことですが、昨今は学生が多様化し、これまでの人生の中で一度も叱られた経験がない者も少なくない現状です。こういった状況の中で、改めて人権を尊重した大学教育をどのようにすべきかを、「叱る」というキーワードからご説明いただきました。

大学は、今後ますます複雑・多様化する社会をたくましく生き抜いていける人材を世に輩出する使命があります。たとえ理不尽な環境に遭遇しても、それに打ち克てるだけの強さを身に付けさせるためには、時に厳しい指導も必要であり、正当に「叱る」ことが重要であることを、ご自身の経験を踏まえた具体的な事例を挙げながら力強く説明いただき、大変共感いたしました。

また、実践的な叱り方のメソッドとしてお教えいただいた「事前のアナウンス」「良き点を伝え改善点を応援する」「人として敬意を表する」の3点については、大学教育でも



実践できる具体的な方法であり、大きな効果が期待できるものだと感じました。

年が明けて2月の研修・交流会では、前回に引き続き学生の人権を尊重した大学教育のあり方をテーマに、「今どきの大学生のころ・発達」－指導や教育に活かせる精神医学－という題目でお話しいただきました。

最近、精神障害や発達障害を抱える学生が増加していることを受け、思春期には精神科医が取り扱う病気が起こりやすいことや、代表的な精神障害や発達障害の種類、それぞれの抱える課題などについて具体的にご説明いただきました。

そのなかでも、具体的な学生指導においては「やわらかい支援」が大事であるという点は非常に納得がいくもので、同時にそうした学生一人ひとりの人権を尊重した対応が重要だと再認識しました。

以上、今年度も大学が直面している重要な諸課題を取り上げてきました。ご講演いただいた内容は、すべて我々事務局としても大変勉強になりました。構成各校におかれましては、是非、今後の大学運営や教育・研究において活かしていただきたく思います。

この場をお借りして、ご協力・ご支援いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

2018年度事務局長 宮 下 俊 也

発 行 奈良県大学人権教育研究協議会

発行年月 2019年7月

事務局 奈良教育大学

〒630-8528 奈良市高畑町

TEL 0742-27-9106

印 刷 株式会社 明新社

〒630-8141 奈良市南京終町3丁目464番地

TEL 0742-63-0661